

【行動・環境文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7102001	系共通科目(心理学)	講義I	2-4	4	通年	月3	蘆田,阿部,熊田,森口,黒島,Wilson		行動・環境文化学系1
7106001	系共通科目(心理学)	講義IIb	3-4	2	前期	月2	黒島 妃香		行動・環境文化学系2
7109001	系共通科目(心理学)	講義IIe	3-4	2	後期	火2	蘆田 宏		行動・環境文化学系3
7110001	系共通科目(心理学)	講義Ka	2-4	2	前期	木1	野村,楠見,マナロ,齊藤,高橋		行動・環境文化学系4
7113001	系共通科目(心理学)(発達心理学)	講義IIId	3-4	2	前期	火2	森口 佑介		行動・環境文化学系5
7114001	系共通科目(心理学)(学習・言語心理学)	講義Kb	2-4	2	後期	水2	齊藤 智		行動・環境文化学系6
7116001	系共通科目(心理学)	講義Kd	2-4	2	前期	水5	高橋 雄介		行動・環境文化学系7
7202001	系共通科目(言語学)	講義I	1-4	2	前期	水4	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系8
7204001	系共通科目(言語学)	講義I	1-4	2	後期	水4	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系9
7206001	系共通科目(言語学)	講義II	1-4	2	前期	月3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系10
7208001	系共通科目(言語学)	講義II	1-4	2	後期	月3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系11
7302001	系共通科目(社会学)	講義	2-4	2	前期	水2	田中 紀行,落合 恵美子		行動・環境文化学系12
7304001	系共通科目(社会学)	講義	2-4	2	後期	水2	太郎丸 博,丸山 里美		行動・環境文化学系13
7403001	系共通科目(地理学)	講義 I	2-4	2	前期	火4	水野 一晴		行動・環境文化学系14
7404001	系共通科目(地理学)	講義 II	2-4	2	後期	火4	米家 泰作		行動・環境文化学系15
7170001	心理学研究法	講義	1-4	2	後期	金4	大倉,畑中,上田,山本,黒島,阿部		行動・環境文化学系16
7172001	心理学概論	講義	1-4	2	前期	金3	野村,齋木,中島,明地,森口,月浦,内田,積山,齊藤,西,梅村,足立,山本		行動・環境文化学系17
7125001	心理学(心理学の支援法)	特殊講義	2-4	2	後期	火2	田中 康裕		行動・環境文化学系18
7131001	心理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	白井 述		行動・環境文化学系19
7134001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義A	1-4	2	前期	月1	月浦 崇		行動・環境文化学系20
7135001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義B	1-4	2	後期	月1	月浦 崇		行動・環境文化学系21
7136001	心理学(知覚・認知心理学)	特殊講義A	1-4	2	前期	金2	齋木 潤		行動・環境文化学系22
7137001	心理学(知覚・認知心理学)	特殊講義B	1-4	2	後期	金2	齋木 潤		行動・環境文化学系23
7138001	心理学(神経・生理心理学)	特殊講義	3-4	2	前期	水4	阿部 修士		行動・環境文化学系24
7139001	心理学(臨床心理学概論)	特殊講義	2-4	2	前期	火2	松下 姫歌		行動・環境文化学系25
7140001	心理学	演習I	3-4	4	通年	月4	森口 佑介,黒島 妃香		行動・環境文化学系26
7140002	心理学	演習II	4	4	通年	月4	蘆田 宏		行動・環境文化学系27
7142001	心理学(心理演習)	演習	3-4	2	後期	水2	河合 俊雄,畑中 千紘,鈴木優佳		行動・環境文化学系28
7151001	心理学	講読	3-4	2	前期	火3	藏口 佳奈		行動・環境文化学系29
7151002	心理学	講読	3-4	2	後期	木3	山崎 大暉		行動・環境文化学系30
7163001	心理学(心理学実験)	実習IA	2-4	2	前期	火4,火5	蘆田,森口,黒島,山本		行動・環境文化学系31
7167001	心理学	実習IB	2-4	2	後期	火4,火5	蘆田,森口,黒島,山本		行動・環境文化学系32
7165001	心理学(心理学統計法)	実習IIA	2-4	1	前期	金3	山崎 大暉		行動・環境文化学系33
7166001	心理学(心理学統計法)	実習IIB	2-4	1	後期	水3	山本 寛樹		行動・環境文化学系34
7164001	心理学	実習III	3-4	2	通年	木2	蘆田 宏,森口 佑介,黒島 妃香		行動・環境文化学系35
7231001	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	千田 俊太郎		行動・環境文化学系36
7231003	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		行動・環境文化学系37
7231004	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	大竹 昌巳		行動・環境文化学系38
7231005	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	野原 将揮		行動・環境文化学系39
7231006	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	谷口 一美		行動・環境文化学系40
7231007	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	谷口 一美		行動・環境文化学系41
7231008	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	大竹 昌巳		行動・環境文化学系42
7231009	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	山本 武史		行動・環境文化学系43
7231010	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	宮本 陽一		行動・環境文化学系44
7231011	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	松岡 和美,前川和美		行動・環境文化学系45
7231016	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	千田 俊太郎		行動・環境文化学系46
7231017	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		行動・環境文化学系47
7231018	言語学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	松本 亮		行動・環境文化学系48
7231019	言語学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	萩原 裕敏		行動・環境文化学系49
7241001	言語学	演習	3-4	2	後期	木3	笹間 史子		行動・環境文化学系50
7241002	言語学	演習	1-4	2	前期	木2	バリハワダナ ルチラ	日本語教育セミナー	行動・環境文化学系51
7241003	言語学	演習	3-4	2	前期	金3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系52
7241004	言語学	演習	3-4	2	後期	金3	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系53
7246001	言語学	基礎演習	2-4	2	前期	月5	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系54
7246002	言語学	基礎演習	2-4	2	後期	月5	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系55
9612001	言語学	語学	2-4	2	前期	火3	河崎 靖	学部共通科目	行動・環境文化学系56
9613001	言語学	語学	2-4	2	後期	火3	河崎 靖	学部共通科目	行動・環境文化学系57
9620001	言語学	語学	3-4	4	通年	金1	森 若葉	学部共通科目	行動・環境文化学系58
9624001	言語学	語学	2-4	2	前期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	行動・環境文化学系59
9625001	言語学	語学	2-4	2	後期	火3	井戸根 綾子	学部共通科目	行動・環境文化学系60
9648001	言語学	語学	2-4	2	前期	金1	杉山 豊	学部共通科目	行動・環境文化学系61
9649001	言語学	語学	2-4	2	後期	金1	杉山 豊	学部共通科目	行動・環境文化学系62
9650001	言語学	語学	2-4	2	前期	火2	朴 真完	学部共通科目	行動・環境文化学系63
9651001	言語学	語学	2-4	2	後期	火2	朴 真完	学部共通科目	行動・環境文化学系64
9672001	言語学	語学	2-4	2	前期	木4	宮川 創	学部共通科目	行動・環境文化学系65
9677001	言語学	語学	2-4	2	後期	木4	宮川 創	学部共通科目	行動・環境文化学系66
7245001	言語学	卒論演習	4	2	後期	水5	千田,CATT,定延,大竹		行動・環境文化学系67
7331001	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	月2	太郎丸 博,丸山 里美		行動・環境文化学系68
7331003	社会学	特殊講義	1-4	2	前期	火2	Stephane Heim	学部共通科目	行動・環境文化学系69
7331004	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	火3	田中 紀行	独書講読	行動・環境文化学系70
7331005	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	金2	奥村 隆		行動・環境文化学系71
7331006	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	金2	奥村 隆		行動・環境文化学系72
7331008	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	水3	金澤 悠介		行動・環境文化学系73
7331009	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	火2	牟田 和恵		行動・環境文化学系74
7331011	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	秋津 元輝		行動・環境文化学系75
7331012	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	月1	伊達 平和		行動・環境文化学系76
7331013	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	岡邊 健		行動・環境文化学系77

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
7331014	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	佐藤 卓己		行動・環境文化学系78
7331015	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	金5	吉田 純		行動・環境文化学系79
7331016	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	岡邊 健		行動・環境文化学系80
7331017	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	金4	佐藤 哲彦		行動・環境文化学系81
7331018	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	木2	溝口 佑爾		行動・環境文化学系82
7331020	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系83
7331021	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系84
7331022	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	都留 俊太郎	中書講読	行動・環境文化学系85
7331023	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	都留 俊太郎	中書講読	行動・環境文化学系86
7331024	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	柴田 悠		行動・環境文化学系87
7331025	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	月4	落合 恵美子		行動・環境文化学系88
7331027	社会学	特殊講義	2-4	2	後期	金2	安里 和晃		行動・環境文化学系89
7331028	社会学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	広井 良典		行動・環境文化学系90
7331029	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	広井 良典		行動・環境文化学系91
7331030	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	金2	安里 和晃		行動・環境文化学系92
7331031	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	火3	田中 紀行	独書講読	行動・環境文化学系93
7331032	社会学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	直野 章子		行動・環境文化学系94
7331033	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	水5	竹沢 泰子		行動・環境文化学系95
7331034	社会学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	上野 加代子		行動・環境文化学系96
7334001	社会学	特殊講義	2-4	3	前期	月4	落合 恵美子,Stephane Heim	学部共通科目	行動・環境文化学系97
7346001	社会学	演習I	3-4	2	後期	木2	安里 和晃		行動・環境文化学系98
7346002	社会学	演習I	3-4	2	前期	木2	太郎丸 博		行動・環境文化学系99
7346003	社会学	演習I	3-4	2	後期	木2	丸山 里美		行動・環境文化学系100
7346004	社会学	演習I	3-4	2	前期	木2	田中 紀行		行動・環境文化学系101
7343001	社会学	演習II	3-4	2	後期	月4	田中 紀行		行動・環境文化学系102
7353001	社会学	講読	3-4	2	後期	月2	西川 知亨	英書講読	行動・環境文化学系103
7353002	社会学	講読	3-4	2	前期	火2	安里 和晃	英書講読	行動・環境文化学系104
7361001	社会学	実習	3-4	2	通年	月3	丸山 里美		行動・環境文化学系105
7361002	社会学	実習	3-4	2	通年	水4	太郎丸 博		行動・環境文化学系106
7345001	社会学	卒論演習	4	4	通年	金3	田中,落合,太郎丸,安里,Heim,丸山		行動・環境文化学系107
7431001	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	水野 一晴		行動・環境文化学系108
7431002	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	水野 一晴		行動・環境文化学系109
7431003	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	米家 泰作		行動・環境文化学系110
7431004	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	米家 泰作		行動・環境文化学系111
7431005	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	小方 登		行動・環境文化学系112
7431006	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	小島 泰雄		行動・環境文化学系113
7431007	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	山村 亜希		行動・環境文化学系114
7431008	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	松四 雄騎	教職科目「自然地理学」	行動・環境文化学系115
7431009	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	中澤 高志		行動・環境文化学系116
7431010	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	木4	西村 雄一郎		行動・環境文化学系117
7431011	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	西村 雄一郎		行動・環境文化学系118
7431012	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	藤岡 悠一郎		行動・環境文化学系119
7431013	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	神田 孝治		行動・環境文化学系120
7431014	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	神田 孝治		行動・環境文化学系121
7431015	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	小坂 康之		行動・環境文化学系122
7431016	地理学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	大山 修一		行動・環境文化学系123
7431017	地理学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	杉浦 和子		行動・環境文化学系124
7441001	地理学	演習	3-4	2	後期	金3	山村 亜希	地理学演習(歴史地理学)	行動・環境文化学系125
7446001	地理学	演習IA	3-4	2	前期	水3	杉浦 和子,水野 一晴,米家 泰作		行動・環境文化学系126
7447001	地理学	演習IB	3-4	2	後期	水3	杉浦 和子,水野 一晴,米家 泰作		行動・環境文化学系127
7448001	地理学	演習IIA	4	2	前期	水4	杉浦 和子,水野 一晴,米家 泰作		行動・環境文化学系128
7449001	地理学	演習IIB	4	2	後期	水4	杉浦 和子,水野 一晴,米家 泰作		行動・環境文化学系129
7451001	地理学	講読	3-4	4	通年	木5	杉浦 和子	独書講読	行動・環境文化学系130
7454001	地理学	講読	2-4	2	前期	月1	杉浦 和子	英語地理書講読	行動・環境文化学系131
7454002	地理学	講読	2-4	2	後期	月1	杉浦 和子	英語地理書講読	行動・環境文化学系132
7456001	地理学	講読	3-4	2	前期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系133
7456002	地理学	講読	3-4	2	後期	木1	小山 哲	仏書講読	行動・環境文化学系134
7457001	地理学	講読	3-4	2	前期	木2	都留 俊太郎	中書講読	行動・環境文化学系135
7457002	地理学	講読	3-4	2	後期	木2	都留 俊太郎	中書講読	行動・環境文化学系136
7460001	地理学	実習	2-4	4	通年	月3,月4	水野 一晴,米家 泰作		行動・環境文化学系137

行動・環境文化学系1

科目ナンバリング		U-LET28 27102 LJ46										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ⅰ) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士 情報学研究科 教授 熊田 孝恒 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 講師 Duncan Wilson				
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語	
題目		実験心理学概論										
[授業の概要・目的]												
この講義の目的は、実験心理学の基礎的知識から最新の研究成果を身につけることにある。多様な心理学領域から、行動の科学としての目的、問題、手法、考え方などを学ぶとともに、最新の研究成果を知ることによって実験心理学を概観する。												
[到達目標]												
実験心理学の多様な領域に関する基本事項を理解するとともに、その最新の研究成果に触れることによって現在の研究の動向を理解することができるようになる。												
[授業計画と内容]												
ヒトや動物の行動を解明するための実験心理学的手法とその成果について、最新のトピックやデモを織り込みながら、講座の教員全員および関連部局の教員によるリレー形式で講じる。 講義内容は以下の通りである。必修科目ではないが、心理学専修を希望する者はぜひ履修するよう強く推奨したい。												
第1回 実験心理学とは何か 第2回 脳と神経 第3回 感覚知覚の諸相 第4回 感覚知覚の基本法則と測定法 第5回 知能 第6回 社会的認知 第7回 意思決定 第8回 注意 第9回 実行機能 第10回 学習理論 第11回 学習の制約 第12回 動物の表象操作 第13回 動物の記憶 第14回 動物の社会的認知 第15回 前期総括 第16回 愛着 第17回 非言語コミュニケーション 第18回 自己認識 第19回 セルフコントロール 第20回 発達理論												
-----系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----												

系共通科目(心理学)(講義Ⅰ)(2)

- 第21回 認知発達
第22回 社会性発達
第23回 言語発達
第24回 感情発達
第25回 個性・性格
第26回 遺伝と環境
第27回 思考と推論
第28回 メタ認知
第29回 総括
第30回 試験

フィードバックについては授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）による(100%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

京都大学心理学連合『心理学概論』（ナカニシヤ出版）ISBN:9784779503993（心理学の全貌を基礎から知るための概論書。）

【授業外学修（予習・復習）等】

紹介された文献や参考図書を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

心理学専修を希望する可能性がある者は、2回生で履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系2

科目ナンバリング		U-LET28 27106 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIb) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		知性と感情の系統発生論									
【授業の概要・目的】											
多様な動物種の知性と感情の機能を学び、それらがいかに進化したのか、ヒトの心の働きは其中でいかに位置づけられるのかを考察する。											
【到達目標】											
動物たちのゆたかな心の働きを知り、心の多様性を学び、ヒトの心を相対化することを通じて、ヒト中心主義を脱し、新たなヒト観を構築する。ヒトが決して特別な存在ではないこと、多様な心の存在が地球共生系の未来へのカギであることを理解し、全ての生にとって真に幸福な未来を志向した、新たな行動指針を考える力を身につける。											
【授業計画と内容】											
ヒトの心の機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の心が直接的に調べられない以上、他の現生動物種の心の働きを分析し、相互に比較することが、その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では、学習の原理について復習したあと、比較認知科学的観点から、多様な動物種の感覚や知覚、記憶、言語、概念形成、感情、社会的知性、意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し、心の多様性とその進化について論じるとともに、ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。以下の予定で講じるが、適宜変更もありうる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロ - 比較認知科学事始め 2．学習1 (学習の基本的諸原理) 3．学習2 (学習の生物学) 4．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚1 (色彩視) 5．動物たちから見た世界 - 感覚・知覚2 (形態視) 6．動物たちの記憶 7．動物たちの思考1 (概念) 8．動物たちの思考2 (推理) 9．動物たちの社会的知性と感情1 (感情) 10．動物たちの社会的知性と感情2 (戦術的社会技能 - 欺きと協力) 11．動物たちの社会的知性と感情3 (社会的知性の諸要素) 12．動物たちの意識と内省1 (自己認知・メタ認知) 13．動物たちの意識と内省2 (心的時間旅行) 14．動物たちの意識と内省3 (自己理解を基盤とした他者理解) / 総括・討論 15．フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IIb)(2)

[成績評価の方法・観点]

評価方法：講義後に行う小クイズや小レポートなどによる平常点（50%）、及び期末レポート（50%）により評価

評価基準：期末レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

藤田和生 『動物たちのゆたかな心』（京都大学学術出版会）ISBN:9784876988228（講師のラボでおこなわれた研究を中心にまとめた読み物）

藤田和生 『比較認知科学』（放送大学教育振興会（NHK出版））ISBN:9784595317040（放送大学の同名の科目の印刷教材。「比較行動学」の改訂版として2017年3月に刊行。最新の比較認知科学の内容が平易に論じられている）

藤田和生（編著） 『動物たちは何を考えている？ 動物心理学の挑戦』（技術評論社）ISBN:9784774172583 C3045（動物の心の働きに関するさまざまな話題と最新の成果をQ&Aの形で紹介したもの）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義内容を、レジュメや教科書、参考書などを参照して、整理しておくことが重要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、毎回の授業への出席と、積極的な質問や討論を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系3

科目ナンバリング		U-LET28 27109 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IIe) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学講義IIe：知覚心理学									
【授業の概要・目的】											
人間の感覚・知覚について、視知覚を中心に概説する。心理物理学、解剖学、神経生理学などの知見をあわせて感覚・知覚の諸機能とそのメカニズムについて理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
ヒトの知覚機能についての基本的事項を理解し、心理学におけるより専門的なトピックを理解するための基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
講義内容は次の通り。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 錯視と恒常性 2 視覚メカニズムと補完 3 色覚 4 明るさの知覚 5 運動視 6 立体視 7 顔の知覚 8 眼球運動 9 聴覚 10 味覚と嗅覚 11 多感覚相互作用 12 時間知覚と注意 13 美の知覚 14 総括 15 期末試験 16 フィードバック (実施方法は授業中に指示する) 											
なお、状況により一部の順序、内容を変更する可能性がある。											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義IIe)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Ile)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）による。講義範囲についての到達目標達成度により評価する。授業中の発言等、特に積極的な参加が認められる場合に加点する場合がある。
なお、社会的状況により期末試験の実施が困難な場合は他の評価法に変更する可能性がある。

[教科書]

北岡明佳編 『知覚心理学』（ミネルヴァ書房）ISBN:978-4-623-05769-6（必須ではないが強く推奨する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の後に教科書や関連する本、ウェブサイトなどを見て基本的事項を確認するとともに、各自の興味に合わせてより詳細な理解を得るように努める。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設定しない。面談希望はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系4

科目ナンバリング		U-LET28 27110 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Ka) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 野村 理朗 教育学研究科 教授 楠見 孝 教育学研究科 教授 Emmanuel MANALO 教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 准教授 高橋 雄介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知デザイン特論									
【授業の概要・目的】											
デザインという人間の営みを、脳・心・行動の3つの水準で捉える認知心理学の理論から、総合的に考察することがこの授業の目的である。まず、脳・心・行動そのものがそれぞれどのようにデザインされているのかを知ることが重要である。次に、脳・心・行動のもつ制約と、その制約を逆手に取った豊かな認知的活動との関連を考察する。その次に、脳・心・行動のどのようなはたらきがどのような豊かなデザインを生み出しているのかについての関連性を文芸・絵画の事例を取り上げて考察する。最後に、豊かなデザインを生み出す能力を高めるために、脳・心・行動を発達させ、活性化させるためのさまざまな環境要因について考察する。											
【到達目標】											
認知心理学の理論を基盤として、脳・心・行動そのものがどうデザインされているのかを知り、それらと認知活動との関連、および豊かなデザインを生み出す能力を高めるための環境要因について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：認知心理学の系譜 2. 認知の制約とデザイン：行動の制約 3. 記憶の制約 4. ブレイン・サイエンス：脳のデザイン 5. 遺伝子の機能:行動のデザイン 6. Design of visual information 7. Designing failure for success 8. 遺伝と環境の影響による個人差のデザイン：基礎編 9. 遺伝と環境の影響による個人差のデザイン：事例編 10. 言語芸術のデザイン 11. メディア・学習環境のデザイン 12. Designing assessment for learning 13. パーソナリティ発達のデザイン 14. 認知トレーニングのデザイン 15. 試験 16. フィードバック *フィードバック方法は別途連絡する 											
* 授業の順序は変更することがある。その場合は、事前に通知をする。											
-----系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Ka)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験による評価を行う。
到達目標について、教育学部の成績評価の方針に従って評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗(編)『教育認知心理学の展望』(ナカニシヤ出版)ISBN:
477951049X(その他は、授業中に紹介する。)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介された参考図書・論文、配布資料等を用いて復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業責任者連絡先 E-mailアドレス nomura.michio.8u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系5

科目ナンバリング		U-LET28 27113 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		認知発達論 (発達心理学)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの認識はいかに発生するのか。19世紀末から本格的に問われるようになった認知発達に関する問題は、20世紀に著しく発展し、21世紀には神経科学や生物学、言語学、社会学、経済学、教育学などとの接点を得て、新しい展開を迎えている。本講義では、認知発達に関する歴史的経緯を概観したのちに、認知発達の最新の知見について紹介する。意識、記憶、実行機能、社会的認識などを例に取り上げながら、認識がいかに発生するか、遺伝的要因と環境的要因にいかなる影響をうけるかを講義する。</p>											
【到達目標】											
ヒトの認知発達に関するプロセスやメカニズムを説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 認知発達理論小史(1)ピアジェ 3 認知発達理論小史(2)ヴィゴツキーから新生得主義まで 4 認知発達理論小史(3)情報処理理論からコネクショニズムまで 5 脳の発達理論 6 遺伝と環境 7 記憶の発達 8 実行機能の発達 9 社会的認識の発達 10 自己の発達 11 想像力の発達 12 情動の発達 13 意識の発生 14 発達障害 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価 (50点) およびレポート課題を課す (50点)											
----- 系共通科目(心理学)(講義IId) (発達心理学) (2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義IId)(発達心理学)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

森口佑介 『おさなごころを科学する 進化する乳幼児観』(新曜社)

森口佑介 『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』(講談社現代新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に別途指示する。読んでおくべき論文や文献等紹介する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系6

科目ナンバリング		U-LET28 27114 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 齊藤 智			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		教育心理学概論II									
【授業の概要・目的】											
教育心理学における重要概念である「学習」と「記憶」について、その基本的な研究パラダイムを紹介する。各パラダイムを、問題設定、具体的な研究、そこから得られた結果の評価という観点から論じることで、教育心理学分野において行われる研究の意味を考える。											
【到達目標】											
学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開とともに理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の単元について講述する。各単元は、1~3週の授業時間において紹介されるが、それぞれは、具体的な研究パラダイムとの関連で理解されるべきものである。そのため、基本的には、各種の研究パラダイムを毎回のテーマとして設定し、授業を進めていく。授業の進行状況によって、単元の順序が入れ替わることもある。											
第1回：教育心理学における学習・記憶研究の役割											
第2回：学習と記憶の基礎：パラダイムから学ぶ											
第3回：記憶の構造：妨害パラダイム											
第4回：記憶の働き：妨害パラダイム											
第5回：学習活動の効果：符号化パラダイム（処理水準）											
第6回：学習活動の効果：符号化パラダイム（多重符号化）											
第7回：学習結果の評価：再生・再認パラダイム											
第8回：学習結果の評価：潜在記憶パラダイム											
第9回：学習結果の評価：分離パラダイム											
第10回：学習活動の制御：忘却パラダイム											
第11回：学習活動の制御と発達：実行機能パラダイム											
第12回：学習・記憶機能の発達と障害：作動記憶パラダイム											
第13回：学習・記憶機能の発達と障害：個人差パラダイム											
第14回：学習・記憶研究の展開 （試験）											
第15回：フィードバック フィードバック方法は別途連絡する											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
【評価方法】評価は、小テスト（40点）と学期末試験（60点）の結果に基づいて行う。											
【評価基準】学習・記憶研究において用いられる基本的な研究パラダイムを、関連する理論的展開											
----- 系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学)(2)へ続く -----											

系共通科目(心理学)(講義Kb)(学習・言語心理学)(2)

を含め、どの程度理解できているかが成績評価の基準となる。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布する資料、指示する参考書や参考文献に目を通し、授業の予習、復習に役立てること。また、関心を持ったテーマについては、図書館等を利用して、自ら資料を収集し、復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系7

科目ナンバリング		U-LET28 27116 LJ46									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(心理学)(講義Kd) Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 高橋 雄介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		教育における心理学の視点									
【授業の概要・目的】											
<p>教育において心理学に求められることは、不確実な時代に向けて育まれる必要性のあるかもしれないところからだの充実のために心理科学的に裏付けされた教育観や学習観ではないでしょうか。教育に携わる心理学領域すべてを俯瞰することは出来ませんが、本講義においては、人間がさまざまな環境（文化や社会など）に触れながら、成長・発達していく様相に関して、以下の「授業計画と内容」に示すようないくつかのトピックを取り上げながら、教育心理学の基礎的な知識を学習していくとともに、今後の皆さんの研究の手がかりとなるような問題意識の共有を目指します。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・学習場面に関する心理学的な基礎知識をじゅうぶんに修得する。 2. 教育心理学の基本的な考え方を理解し、それらについて批判的に思考できるようにする。 3. 本講義で興味を抱いたトピックに関しては主体的に学習する力を養う。 4. 教育・学習場面において生じているかもしれない問題や課題の背景を探り、それらについて自分（たち）なりに議論できるだけの視点を取得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入 教育心理学とは何か 第2回：学習のプロセスを考える1 第3回：学習のプロセスを考える2 第4回：知能に対するアプローチ1 第5回：知能に対するアプローチ2 第6回：動機づけをめぐって1 第7回：動機づけをめぐって2 第8回：環境は人間形成にどのように関わるのか1 第9回：環境は人間形成にどのように関わるのか2 第10回：子どもの発達と文化・社会1 第11回：子どもの発達と文化・社会2 第12回：資質・能力と学びのメカニズム1 第13回：資質・能力と学びのメカニズム2 第14回：教育心理学と教育方法 第15回：期末試験/学習到達度の評価 第16回：フィードバック（フィードバックの方法は別途連絡する）</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(心理学)(講義Kd) (2)へ続く-----											

系共通科目(心理学)(講義Kd) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末試験（70%）および数回程度講義中に課せられる小レポート（30%）によって評価する。

[教科書]

使用しない
必要に応じて配布資料を用いる。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介する書籍や参考文献には積極的に目を通し、講義内容の理解度を深めることに努めてください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17202 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論 音声学・音韻論・形態論を中心に									
[授業の概要・目的]											
<p>言語学は、人間のコトバに関わる現象の分析を通じてコトバの使用やその能力を人間が理解可能な形で明らかにしようとする学問である。私たちにとってコトバはきわめて身近な存在でありながら多くの受講生にとって言語学はなじみのない学問領域であると思われる。この授業では、言語学の専門的知識をもたない学生を対象として、言語を研究するために必要となる基礎的な概念や用語、分析方法について、その有用性や問題点、学史的背景もふまえて解説する。</p>											
[到達目標]											
<p>言語学の各分野で使われている概念・用語や分析方法についての基礎的知識を修得する。また、そうした概念・用語や分析方法が必要とされる理由や問題点について説明できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、言語学を構成する主要分野のうち音声学・音韻論と形態論に関するトピックを中心に、身近な言語の例を挙げながら解説する。授業期間の前半は基礎的な概念・用語の解説を中心とし、後半にはもう少し踏み込んだ言語研究の入門的トピックを扱う。以下のようなスケジュールと題目で授業を進める予定である。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。</p>											
<p>第1回 イントロダクション 第2回 総論Ⅰ(前編) 第3回 総論Ⅰ(後編) 第4回 音声学の基礎(前編) 第5回 音声学の基礎(後編) 第6回 音韻論の基礎 第7回 形態論の基礎 第8回 弁別素性理論 第9回 生成音韻理論(前編) 第10回 生成音韻理論(後編) 第11回 最適性理論 第12回 音声学と音韻論 第13回 形態論と統語論 第14回 総論Ⅱ 第15回 フィードバック</p>											
-----系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験（筆記）

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の中で分からなかった概念・用語や興味をもった事柄は、授業で紹介される参考書等を参考に自分で調べて知識として定着させてほしい。ただし、大学での学びにおいて、唯一絶対の正解は存在しない。教師の言うことや参考書に書いてあることには常に疑いの目を向け、自分なりにあれこれ考えてみるのが大切である。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17204 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義Ⅰ) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学概論Ⅱ - - 統語論, 談話文法, 意味論を中心に									
[授業の概要・目的]											
この授業では, さまざまな研究者の言説の解説を通じて, 言語学の理論的前提と方法論を教授し, 同時に言語の奥深さを体験してもらう。											
[到達目標]											
言語学の理論と基本的な分野に関して, 以下のことを理解する。 1) 何が問題となっているのか。 2) その問題に対してどのような考えがあるのか。 3) それらの考えの背後に, どのような言語観ひいては人間観があるのか。											
[授業計画と内容]											
言語学の目的は, 言語の考察を通して人間を理解することにあるが, その道は一つではなく多様である。この授業では現代言語学のさまざまな考えを紹介しながら, その問題意識をなるべく具体的な形で解説する。中心的なトピックは, 統語論, 談話文法, 意味論である。今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに～記号的言語観、恣意性 2. 言語学の諸分野、何を見ないで済ませるか 3. 談話の理解1：文脈・状況、パラ言語と非言語、線条性 4. 談話の理解2：時間経過 5. コミュニケーション観と言語 6. 構造主義言語学と「認知革命」 7. 認知科学の中の言語学 8. カテゴリ論 1：ブルカカテゴリとプロトタイプカテゴリ 9. カテゴリ論 2：表象主義と状況論 10. 状況の中の言語 11. デキゴトモデル 「する」言語と「なる」言語 12. チョムスキー言語学と言語類型論 13. 言語類型論からアプローチする言語普遍性 14. 言語とメディア 15. まとめ 											
-----系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)へ続く-----											

系共通科目(言語学)(講義Ⅰ)(2)

【履修要件】

前期の言語学講義Ⅰを履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

筆記試験

【教科書】

授業時にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

いくつかの基本的現象に関しては、世界諸言語の言語データを分析する。提出を求めない場合でも授業時以外も言語データと向き合う必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間外の質問は随時受け付けるが、メール等でアポイントメントをとることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17206 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の多様なアプローチ									
[授業の概要・目的]											
言語の研究には多様なアプローチがある。この講義では、古代から現代に至る言語学研究においていかなる研究手法が取られてきたか、言語の歴史、東洋の言語研究、言語と社会に注目して講義する。言語学についての予備知識がない学生を対象にしてこれらのトピックを論じる。											
[到達目標]											
言語の歴史、東洋の言語研究、言語と社会に関する言語研究の概要が把握され、各領域における分析手法と現代言語学の関係が理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
以下のテーマについて、順次概説していく。今年度はアダム・キャット、千田俊太郎が授業を分担する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代世界の言語研究：パーニニ(1) -- CATT, Adam Alvah 2. 古代世界の言語研究：パーニニ(2) -- CATT, Adam Alvah 3. 古代世界の言語研究：パーニニ(3) -- CATT, Adam Alvah 4. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(1) -- CATT, Adam Alvah 5. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(2) -- CATT, Adam Alvah 6. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(3) -- CATT, Adam Alvah 7. 現代的な「言語学」の誕生：印欧比較言語学(4) -- CATT, Adam Alvah 8. ヘルンさんことば -- 千田 俊太郎 9. ピジン・クレオール研究史 -- 千田 俊太郎 10. 接触言語の実際 -- 千田 俊太郎 11. 標準語 -- 千田 俊太郎 12. 表記の変遷と規範 -- 千田 俊太郎 13. 多言語使用と公用語 -- 千田 俊太郎 14. 媒介言語論 -- 千田 俊太郎 15. まとめ -- 千田 俊太郎・CATT, Adam Alvah 											
この講義では多岐に渡る問題を取り扱い、また同じ問題について他の回で異なる視点から取り組む場合が含まれる。そのため、回ごとの区切りが設けにくいところがあるが、上記の大テーマに沿って話が進むものと心得ていただきたい。											
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に指示する課題（75％）と平常点（25％）を勘案する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は必要ないが、講義で配布された資料や言及された本に目を通すなどして、復習をしなければ講義内容を完全に把握することは難しい。

（その他（オフィスアワー等））

授業の後に、相談を受け付ける。それ以外でも適宜面談の機会を持つが、メールなどで事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系11

科目ナンバリング		U-LET29 17208 LJ37									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(言語学)(講義II) Linguistics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語学の歴史									
[授業の概要・目的]											
<p>言語の研究は長い歴史を有するが、高校までの教科に「言語学」科目が存在しないため、多くの受講生にとってなじみの薄い研究分野になるのではないかと懸念される。この講義では、言語学についての予備知識がない学生を対象にして、古代から現代に至る言語研究の歴史を概観することによって、人間が言語に対してもってきた関心の向け方と捉え方の変遷を辿り、今日の言語学の研究方法や、そこで使用される概念・用語の成立の背景について講義する。</p>											
[到達目標]											
<p>過去の言語研究の流れの概要を把握し、現在の言語学の術語や概念の成立の事情が理解する。さまざまな言語における言語事実を基礎知識として身につけ、言語の在り方についての理解を深める。この、言語事実の多様性を前提として、その背後に存在する通言語的な規則性が見出されてきた歴史を把握する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>言語研究に大きな影響を及ぼした個人や分析手法を取り上げ、その成果について解説する。今年度後期は千田俊太郎がすべての授業を受け持つ。解説は、以下の順序に沿って行ってゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに: 古代の言語学 2. 母語の「発見」と異民族語の「発見」 3. インドとの遭遇 4. フンボルト 5. シュライヒャーの時代 6. 言語学概論書の出現 7. 青年文法学派 8. 青年文法学派への反撥 9. 新しい言語学の兆し: ヨーロッパ構造主義、アメリカ人類学 10. アメリカ構造主義 11. プラーク学派 12. グリーンバーグ 13. チョムスキー 14. 現代言語学の諸分野 15. まとめ 											
----- 系共通科目(言語学)(講義II)(2)へ続く -----											

系共通科目(言語学)(講義II)(2)

【履修要件】

前期の言語学講義IIを履修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

積極的な授業参加(40%)、定期試験(60%)

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

研究史をみてゆくため、挙げられる用語や人名は多目である。プリントを参考に復習していただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは設けない。面談が必要な学生は授業後に予約をとること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系12

科目ナンバリング		U-LET30 27302 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行 文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論I									
【授業の概要・目的】											
<p>前半は社会学の主要な理論・学派をいくつか取り上げて包括的に概観する。行為理論を軸として社会学の主要な理論的な伝統について基本的な考え方を紹介し、それらの成立過程、異同や相互関係を解説する。</p> <p>後半では社会学をより広い社会科学および科学全般の文脈に置き直し、社会を研究するとはどういうことなのかを、近代社会の歴史的転換とも関係づけながら考察する。</p>											
【到達目標】											
学問としての社会学の性格について学び、社会学の基礎的な理論的立場と基礎概念を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の順で講義を進める。ただし講義の進み具合によって各テーマの回数は変動する可能性がある。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 社会学の歴史 第3回 行為と規範 第4回 行為と利害関心 第5回 行為と意味の解釈 第6回 行為と合理性 第7回 前半のまとめ (以上、田中担当) 第8回 社会学とはいかなる学問か 個人と社会 (以下落合担当) 第9回 社会理論の言語論的転回 意味と構造 第10回 社会科学の基盤としての歴史学 構造と歴史 第11回 近代社会の成立と公私の分離 第12回 近代世界システム からグローバルヒストリーへ 第13回 伝統の創造とオリエンタリズム 第14回 福祉レジーム論と第二の近代 《期末試験》 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

定期試験による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に指示がない限り必要ないが、授業中に紹介する参考書を各自の関心に応じて読んで復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系13

科目ナンバリング		U-LET30 27304 LJ45									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(社会学) (講義) Sociology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博 文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		社会学概論 II									
【授業の概要・目的】											
現代世界で生起している諸現象を特徴付けるいくつかの重要なキーワードをとりあげ、前期で習得した社会的な視点(社会学的方法論)を活用してどのようにしてその現象を認識し、どのようにしてその現象の背後にある(見えない)構造的な仕組みを理解することができるのかを明らかにする。											
【到達目標】											
現代世界で起きているさまざまな現象を表層的にとらえるのではなく、その現象が根ざしている、あるいはその現象をつくりだしているより深層の構造を批判的にとらえる社会的想像力を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 近代化論と現代社会 第2回 大衆消費社会論 第3回 後期近代とモダニティ論 第4回 資本主義の光と影 第5回 日本社会論 第6回 科学と知識の社会学 第7回 構築主義 第8回 ジェンダー 第9回 ジェンダー 第10回 逸脱行動 第11回 権力 第12回 意味学派 第13回 ポストコロニアリズム 第14回 期末試験 第15回 フィードバック											
1～6回が太郎丸、7～13が丸山、14, 15は二人で担当する予定。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点20%、レポート80%											
-----系共通科目(社会学) (講義) (2)へ続く-----											

系共通科目(社会学) (講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中指示した基本文献を精読すること

(その他(オフィスアワー等))

* オフィスアワーの詳細についてはKULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系14

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		地理学（講義I） Geography (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		自然地理学概説									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学の視点と方法論について、具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。とりわけ地理的知識、環境と人間の関係、そして自然や空間・立地・場所といった基礎的な概念について、理解を深めることを目的とする。地理学専修への分属志望者にとっては入門的な講義となる。</p>											
【到達目標】											
<p>地理学の基本的な諸テーマについて、どのように検討・形成されてきたかを、学史的発展をたどりつつ理解し、考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 気候変動と地球の歴史 2 大陸移動と火山活動 3 火山灰や花粉からみた環境変遷 4 環境変遷と日本の歴史 5 気候変動と世界の歴史 6 気候変動と東京の地形発達 7 気候変動と名古屋・大阪の地形発達 8 京都の地形発達 9 京都の地形と土地利用 10 京都の地形と防災 11 日本の植生分布 12 世界の植生分布 13 多様な環境と世界の社会 14 多様な環境と世界の文化 15 フィードバック 											
【履修要件】											
<p>高校地理の履修の程度は問わない。 授業時には、高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。 特別な許可がない限り、授業時のパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで行うこと）。 人文地理学を扱う地理学（講義 ）もあわせて履修するのが望ましい。</p>											
----- 地理学（講義I）(2)へ続く -----											

地理学（講義I）(2)

【成績評価の方法・観点】

試験（60％）と平常点（40％）とで成績評価を行う。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

水野一晴 『自然のしくみがわかる地理学入門』（ベレ出版、2015年）ISBN:978-4-86064-430-7

水野一晴 『人間の営みがわかる地理学入門』（ベレ出版、2016年）ISBN:978-4-86064-467-3

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系15

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		地理学（講義II） Geography (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		人文地理学概説									
【授業の概要・目的】											
人文地理学の視点と方法論について、具体的な研究事例や学史的背景に触れながら概説する。一人ひとりの人間にとっての「地理」の意味や、環境と人間の関係、そして空間・立地・場所といった基礎的な概念について、学史的な背景に留意しながら理解を深めることを目的とする。地理学専修に分属する者にとっては入門的な講義（必修単位）となる。											
【到達目標】											
人文地理学の基本的な視点や研究テーマについて、どのように検討・形成されてきたかを、学史的発展をたどりつつ理解し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 人文地理学の近現代 - 第2回 頭の中の地図 メンタルマップ 第3回 空間認知とその発達 子供の地図 第4回 場所という経験 人文主義/現象学的地理学 第5回 風水地理 民俗知としての地理学 第6回 気候と文明 環境決定論と近代地理学 第7回 環境変化と文化景観 新大陸の地理学 第8回 日本的風土論の系譜 和辻とベルク 第9回 分布とパターン 空間的相互作用 第10回 都市が作る空間秩序 - 立地論と中心地論 - 第11回 空間と社会 時間地理学と空間編成 第12回 空間の表象 地図の政治学 第13回 アイデンティティの社会空間 ジェンダー地理学 第14回 地理教育と国家 地理的知のポリティクス 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
自然地理学を扱う「地理学（講義I）」も併せて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。											
【教科書】											
使用しない											
----- 地理学（講義II）(2)へ続く -----											

地理学（講義II）(2)

[参考書等]

（参考書）

人文地理学会 『人文地理学事典』（丸善，2013）ISBN:978-4-6210-8687-2（人文地理学が取り組んできた諸課題について概説）

竹中克行編 『人文地理学への招待』（ミネルヴァ書房，2015）ISBN:978-4-623-07229-3（バランスよくまとめられた入門書）

野間晴雄ほか 『ジオ・パルNEO：地理学・地域調査便利帖』（海青社，2017）ISBN:978-4-8609-9315-3（人文地理学の調査や卒論執筆に有益な情報をまとめた）

（関連URL）

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(授業担当者の研究業績など（京都大学教育研究活動データベース）)

<https://researchmap.jp/tkomeie>(同上（リサーチマップ，科学技術振興機構）)

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(授業担当者のフェイスブック)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を含めて，関連する論文や文献に積極的に触れ，問題関心を深めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは，メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系16

科目ナンバリング		U-LET28 17170 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学研究法 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 大倉 得史 こころの未来研究センター 特定講師 畑中 千紘 こころの未来研究センター 特定講師 上田 祥行 人間・環境学研究科 助教 山本 洋紀 文学研究科 准教授 黒島 妃香 こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		心理学研究法									
【授業の概要・目的】											
心理学を初めて学ぶ大学1回生、他の回生を対象として、心理学固有の方法論とその歴史的背景を幅広く学ぶとともに、それらの方法を使うための基本的なスキルの習得を目指す。観察法、面接法、質問紙法、実験法などの代表的な研究法を取り上げ、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。											
【到達目標】											
心理学の講義では、主として、心理学的な現象や事実を学ぶが、この授業では、それらの現象や事実を発見するために心理学が発展させてきた方法論の基礎を学ぶことを目指す。心理学を知識として学ぶだけでなく、将来自身で心理学の研究を目指す学生にとっては必須の科目である。											
【授業計画と内容】											
2コマを1単元として、基本的な研究法を実習やデモンストレーションを用いながら紹介する。											
第1回 イン트로ダクション 黒島(文)											
第2 - 3回 質問紙法・テスト法 上田(こころ)											
第4 - 5回 観察法 森口(文)											
第6 - 7回 面接法 船曳(総人)											
第8 - 9回 実験1(認知) 山本(総人)											
第10 - 11回 実験2(学習) 小村(こころ)											
第12 - 13回 実験3(生理) 阿部(こころ)											
第14回 まとめ(全員)											
* 全学共通科目のフィードバック期間中に授業のフィードバックを行う。											
各単元では、古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。 各単元ごとにレポートを提出。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
各単元ごとに提出するレポートによって評価する。レポートは、各単元の内容の理解、レポート課題の出来、期日までに提出しているかなどを総合的に評価する。6単元のレポートの評定の平均点 ----- 心理学研究法(2)へ続く											

心理学研究法(2)

を最終評価とする（未提出のレポートは0点と換算）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、レポートを作成するための作業が必要。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは担当教員ごとに、KULASIS及び授業内でアナウンスする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 27172 LJ46									
授業科目名 <英訳>	心理学概論 Psychology (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 野村 理朗 人間・環境学研究科 教授 齋木 潤 情報学研究科 准教授 中島 亮一 教育学研究科 准教授 明地 洋典 文学研究科 准教授 森口 佑介 人間・環境学研究科 教授 月浦 崇 こころの未来研究センター 教授 内田 由紀子 総合生存学館 教授 積山 薫 教育学研究科 教授 齊藤 智 教育学研究科 准教授 西 見奈子 教育学研究科 講師 梅村 高太郎 霊長類研究所 准教授 足立 幾磨 高等研究院 准教授 山本 真也					
	配当 学年	1回生以上	単位数	2		開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義
題目	心理学概論										
[授業の概要・目的]											
<p>心理学は人の仕組みと働きを解明する学問である。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生が、はじめて心理学を学ぶための科目である。その内容は、心理学のさまざまな研究分野において、心の探究がどのように進められてきたかという心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。特に人間の心の基礎的な側面に着目し、知覚、認知、学習、感情などの心の機能、およびこれら心の機能を実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連をとりあげる。さらに、心の機能の個人差をもたらす人格、心の機能に関わる困難を心理学的に支援するための臨床や障害などのトピックを取り上げる。</p> <p>本講義は、京都大学・心の先端研究ユニット（京都大学心理学連合）に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて概論講義を行う。</p>											
[到達目標]											
1．心理学の成り立ちについて概説できる。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて概説できる。											
[授業計画と内容]											
<p>多様な観点から多様な方法論を駆使して展開されている現代の心理学研究の全体像を知るための概論科目である。各回では、その分野の心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。以下のスケジュールで、各担当教員が1回の講義をおこなう予定である。なお、順序は変更となることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：心理学全体の成り立ちと方法，心全体の仕組みと働き 野村理朗 (教育) 2. 知覚 齋木潤 (総人) 3. 認知1 中島亮一 (情報学) 4. 認知2 明地洋典 (教育) 5. 感情 森口佑介 (文) 											
----- 心理学概論 (2)へ続く -----											

心理学概論 (2)

6. 神経・生理 月浦崇(総人)
 7. 発達 積山薫(総合生存館)
 8. 社会・集団 内田由紀子(こころ)
 9. 教育 齊藤智(教育)
 10. 心の進化 足立幾磨(霊長類研)
 11. 社会的知性 山本真也(高等研究院)
 12. 臨床1 西見奈子(教育)
 13. 臨床2 梅村高太郎(教育)
 14. まとめ
 15. 試験
- フィードバック方法は別途、連絡します。

【履修要件】

年度初めに開催される、公認心理師科目履修ガイダンスを受講していることを履修条件とする

【成績評価の方法・観点】

期末試験(筆記) 100%

【教科書】

京都大学心理学連合 『心理学概論』(ナカニシヤ出版) ISBN:978-4-7795-0399-3

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

予習すべきこと

・KULASIS上の授業資料,教科書の該当箇所あらかじめ読んでおくこと。

復習すべきこと

・授業では教科書を参照するが,時間の制約上,該当する章の全範囲を必ずしも扱うわけではない。取り扱われなかった領域については,自身で教科書を読んで理解すること。また教科書に含まれない最先端の内容等も盛り込まれる場合があるので,授業で理解できなかった部分や興味を持った部分については図書館等で関連書籍を探し,復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

各学部の心理学専修,心理学系に進学を希望し,公認心理師資格の受験資格を得ることを目指す学生は,1,2年生のあいだに本講義を履修することが望ましい。なお,シラバス記載の担当教員ならびにスケジュールには変更がありうる。その場合にはあらかじめ連絡する。

【連絡事項】

心理学概論 (3)へ続く

心理学概論 (3)

以下の点は現時点で未定のため、メールおよびPandAサイトを必ず確認してください

- ・ 指定された期日までにKULASISで仮登録（候補科目としての選択）をしてください。
- ・ 指定された期日には、PandAによってガイダンス資料の配布を行います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37125 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(心理学的支援法) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 田中 康裕			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)(心理学的支援法)									
[授業の概要・目的]											
以下の3点についての知識を習得する。											
1. 臨床心理学の対象と方法、2. 心理臨床の理論と実践、3. 対象別にみた心理臨床の実際											
心理臨床における「対象」は単なるobjectではなく、subjectとして心理臨床それ自体を創造してきたものでもある。理論と実践が不可分である心理臨床の本性について学ぶ。											
[到達目標]											
精神疾患の分類も含めた臨床心理学、および心理臨床の実際に関する基礎的な理解力を身につける。											
また、そのための前提として、心理学的支援法に関する以下の初歩的な基本的事項について理解する。											
(1) 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および適用の限界について概説できる。											
(2) 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。											
(3) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる。											
(4) 心理学的支援に必要なコミュニケーション能力を身に着ける。											
(5) 心理学的支援における倫理について理解し、心理に関する支援を要する者等のプライバシーへの配慮ができる。											
[授業計画と内容]											
第1回：オリエンテーション / 第2回：臨床心理学の対象と方法(1) 精神障害の古典的分類 / 第3回：臨床心理学の対象と方法(2) 心理査定と初期面接1 / 第4回：臨床心理学の対象と方法(3) 心理査定と初期面接2 / 第5回：臨床心理学の対象と方法(4) 心理査定と初期面接3 / 第6回：心理臨床の理論と実践(1) フロイトと精神分析 / 第7回：心理臨床の理論と実践(2) ユングと分析心理学1 / 第8回：心理臨床の理論と実践(3) ユングと分析心理学2 / 第9回：心理臨床の理論と実践(4) ヒルマンと元型的心理学 / 第10回：対象別にみた心理臨床の実際(1) 神経症 / 第11回：対象別にみた心理臨床の実際(2) 精神病 / 第12回：対象別にみた心理臨床の実際(3) 人格障害 / 第13回：対象別にみた心理臨床の実際(4) 解離と発達障害 / 第14回：心理臨床家の資格と専門性 / 第15回：まとめ											
----- 心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)へ続く -----											

心理学(特殊講義)(心理学的支援法)(2)

【履修要件】

事例提示も含まれるため、守秘義務を守れること。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加状況(30%)、小レポート(70%)を総合的に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

紹介された文献等を参考にして、授業内容についての理解を深めた上で、小レポートを作成すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系19

科目ナンバリング		U-LET28 37131 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 白井 述			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		視覚発達研究概論									
【授業の概要・目的】											
例えば、多くの人にとって目をつぶったままで一日を過ごすことは、耳を塞ぎながら一日過ごすことよりも困難であるに違いない。こうした例を引き合いに出すまでもなく、視覚はヒトにとって最も重要な心的機能のひとつである。本講義では、そうした視覚の諸機能がどのように発達していくのか、特にヒトの乳児期の発達に焦点を当てながら、心理学や神経科学を中心とした諸分野にまたがる科学的知見を紹介する。その上で、履修者との議論も交えながら、視覚発達研究の今後の展望や取り組むべき課題について提示したい。											
【到達目標】											
視覚の諸機能の発達に関連する科学的知見を理解し、その理解に基づいて、視覚の、ひいては心的機能の発達について自分自身の言葉によって考察し、論ずることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の授業計画によって講義を進めていく。ただし毎回の講義後に聴講者からのコメントを回収し、その内容に基づいて講義の内容や順番を調整することがある。											
第1回 ガイダンス・歴史的背景 第2回 視覚発達研究の手法1（行動実験） 第3回 視覚発達研究の手法2（脳活動の測定、その他） 第4回 基本的な視機能の発達 第5回 乳児の環境世界（動きの知覚） 第6回 乳児の環境世界（形や奥行き知覚） 第7回 乳児の環境世界（色の知覚） 第8回 乳児の環境世界（身体性との関わり） 第9回 ここまでの振り返りと質疑応答 第10回 乳児から見た他者・社会（顔の知覚） 第11回 乳児から見た他者・社会（他者の知覚） 第12回 乳児から見た他者・社会（社会的認知） 第13回 視覚発達研究のこれから（乳児期以降の発達を踏まえて） 第14回 視覚発達研究のこれから（方法論的・理論的課題） 第15回 全体のまとめと質疑応答											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

すべての授業回終了後にレポートを課し、その内容によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

特になし。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37134 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳の疾患によって起こる様々な高次脳機能の障害についての臨床的観点からの知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体としているが、脳が様々な疾患（脳梗塞・脳出血・変性疾患等）によって（局所的に）損傷されると、その損傷領域の違いによって様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。その事実は、損傷した領域と障害を受けた脳機能との間の相関関係を我々に示し、そこから脳を媒体とした認知機能のメカニズムを推測することができるようになる。本講義では、様々な高次脳機能障害を解説することによってその病態を臨床的に理解し、そこからヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内メカニズムを理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．授業のガイダンスと神経心理学の方法の概説 2．基本的脳解剖 3．視覚認知の障害 4．行為の障害 5．言語の障害 6．言語の障害 7．記憶の障害 8．記憶の障害 9．感情と情動の障害 10．前頭葉機能の障害 11．神経心理学的検査 12．神経心理学的検査 13．「知・情・意」の神経心理学 14．まとめ 15．期末試験 16．フィードバック（フィードバック方法は別途連絡します） 											
心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義A) (神経・生理心理学) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験（100点）によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

（参考書）

石合純夫 『高次脳機能障害学』（医歯薬出版）

山鳥 重 『神経心理学入門』（医学書院）

河村満・高橋伸佳 『高次脳機能障害の症候辞典』（医歯薬出版）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までには授業資料をクラスス上にアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37135 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 月浦 崇			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神経心理学									
【授業の概要・目的】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健常者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトのさまざまな認知機能が脳を媒体としてどのように表現されているのかについて、基礎科学としての認知神経科学についての理解を深める。 ・脳機能イメージングの方法についての基礎的知識を習得する。 ・脳を介して心の働きを客観的に理解することを通じて、自らを客観的にみつめる力を体得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。ヒト認知機能の脳内メカニズムに関しては、伝統的に脳損傷患者を対象として損傷領域と特定の認知機能の障害パターンから研究が行われてきた。しかし、近年の脳機能イメージング技術の発達により、健常者を対象として認知機能に 関与する脳内機構を可視化することが可能になってきた。本講義では、脳損傷患者に対する研究と 脳機能イメージング法から得られた様々な高次な認知機能を媒介する脳内機構の研究の両方を対比 して概説し、ヒトの高次な認知機能の基盤となる脳内機構を理解することを目指す。</p> <p>講義で扱う内容は概ね以下のとおり。以下のテーマについて、1テーマあたり1～2週の授業を行う。順番や番号は目安であり、多少変更する可能性もあります。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンスと神経心理学の方法の概説 2. 基本的脳解剖 3. 知覚の脳機能イメージング 4. 異種感覚統合と行為の脳機能イメージング 5. コミュニケーションの脳機能イメージング 6. コミュニケーションの脳機能イメージング 7. 記憶の脳機能イメージング 8. 記憶の脳機能イメージング 9. 感情と情動の脳機能イメージング 10. 前頭葉機能の脳機能イメージング 11. 社会的認知の脳機能イメージング 12. 脳機能イメージングの応用 13. 「知・情・意」の神経心理学 14. まとめ 15. 期末試験 											
心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義B) (神経・生理心理学) (2)

16. フィードバック (フィードバック方法については別途指示します)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

原則的に、試験(100点)によって評価する。ただし、試験の得点に平常点を考慮することもある。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。配布資料についてはKULASISにもアップするので、自習の際に活用すること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業の前日までには授業資料をクラスメイトにアップロードするので、事前に内容を確認しておくこと。授業後には授業内容と資料を照らし合わせた上で、必要に応じて復習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者が教室定員を大きく超える場合は履修制限を行う。履修制限の方法は別途指示する。オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系22

科目ナンバリング		U-LET28 37136 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義A)(知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(知覚・認知心理学)									
[授業の概要・目的]											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											
[到達目標]											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。 第1回 インTRODクシヨN 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 3次元構造の知覚 第7 - 8回 物体認識 第9 - 10回 視覚認知における記憶の機能 第11 - 12回 視覚認知における注意の機能 第13 - 14回 認知における特徴の統合 第15回 試験 第16回 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末試験											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。 (その他(オフィスアワー等))											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系23

科目ナンバリング		U-LET28 37137 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 齋木 潤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学 (知覚・認知心理学)									
【授業の概要・目的】											
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											
【到達目標】											
視覚に関する科学的研究を主な題材として、主観現象の科学である認知心理学の背後にある基本的な考え方を理解する。基本的な事実の習得とともに、研究すべき問題の立て方、それに対するアプローチ、実験結果の評価の仕方、を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のトピックを取り上げる。各トピックにつき2 - 3回の講義を割り当てる。											
第1回 イン트로ダクション 第2 - 4回 視覚システムの基礎 第5 - 6回 シーンの認知 第7 - 8回 探索行動における視覚の機能 第9 - 10回 視覚探索と眼球運動 第11 - 12回 探索行動における意思決定 第13 - 14回 探索行動における記憶の役割 第15回 試験 第16回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 特になし											
----- 心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)へ続く -----											

心理学(特殊講義B) (知覚・認知心理学) (2)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱った内容について、他の解釈、他の可能性、発展研究など、自分自身で考えてみること。

(その他 (オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系24

科目ナンバリング		U-LET28 37138 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 阿部 修士			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		心理学(特殊講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、心理過程と生理学的な活動との対応関係を探る研究分野における、主要な方法論 - 具体的には、神経心理学や脳機能イメージングといった認知神経科学的手法 - を解説する。研究手法についての理解を深めた後に、前頭葉機能・記憶・情動・意思決定など、主に社会神経科学 (Social Neuroscience) における知見を中心に概説する。これまでに得られている基礎的な知見に加え、発展的・建設的な思考能力を身につけることで、受講者がそれぞれの研究に活かせるようにすることを目的とする。</p> <p>また本講義では、英語によるTED talksも活用する。第一線の研究者による英語のプレゼンテーションを視聴することで、研究を俯瞰的にとらえると共に、研究を行う上で必要なスキルを意識する機会を提供する。</p>											
【到達目標】											
<p>認知神経科学・社会神経科学の基礎を身につけ、自身の研究に活かせるようにする。 認知神経科学・社会神経科学の研究における発展的・建設的な思考能力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
初回にオリエンテーションを行う。2週目以降は以下のような内容について授業を行う予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 認知神経科学の研究手法：神経心理学による研究 3. 認知神経科学の研究手法：fMRI 4. 認知神経科学の研究手法：その他の脳機能の測定手法 5. 前頭葉機能：下位領域の区分 6. 前頭葉機能：機能の評価とこれまでの知見 7. 記憶の神経機構 8. 未来を展望する脳 9. 情動の神経基盤 10. 報酬と意思決定 11. 選好判断のメカニズム 12. 道徳的判断のメカニズム 13. 文化神経科学 14. 発達社会神経科学 15. 講義全体のまとめ及びフィードバック 											
<p>なお各講義の終盤には、取り扱うトピックに関連する英語のTED talks (http://www.ted.com/talks) を教材として用いる。TED talksでは世界的に著名な研究者による優れた講演が行われており、最新の研究成果・現在のトレンド・英語によるプレゼンテーションの方法など、研究を行うために必要な</p>											
心理学(特殊講義) (神経・生理心理学) (2)へ続く											

心理学(特殊講義)(神経・生理心理学)(2)

多くの知識とスキルを学ぶ貴重な機会を提供するものである。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価(50%)及びレポート(50%)。
4回以上欠席した場合には単位を認めない。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回のオリエンテーション時に、教材として使用するTED talk (<http://www.ted.com/talks>) についての紹介を行う。予習は必須ではないが、繰り返し視聴することによって、理解を深めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET28 37139 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(特殊講義)(臨床心理学概論) Psychology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 松下 姫歌			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目 [授業の概要・目的] 心とは何か、心理療法とは何か、治癒や成長とは何か、という本質的問題を根底において、心理療法とその基礎理論である臨床心理学について概説する。 具体的には、臨床心理学および心理療法の歴史的背景と代表的理論の3大潮流について概観しそれらの共通点と相違点について論じる。 それを踏まえた上で、主として、ユングの分析心理学を中心に、その理論と実践のエッセンスについて論じる。その具体的な問題理解の視点、心的リアリティの性質を捉えアプローチする視点、研究・探究の視点について論じる。 そのことを通じて、他学派の心理療法の理論や関連領域の理論とのより具体的な比較をおこない多面的な理解の視点について論じる。 これらを通じ、分析心理学的アプローチの基本となる点を理解すること、および、分析心理学の理論をクリティカルに敷衍することで、心における普遍的問題と現代的問題とそのアプローチについて考え、理解を深めることを目的とする。 また、心の問題は、人が生きるさまざまな分野・領域にかかわる。保健医療分野や学校教育分野をはじめ、主要5分野において、乳幼児期から老年期にわたって幅広くみられる様々な問題に関して、事例をとりあげつつ、問題の理解と支援の実際について具体的検討を通じて学ぶことを目的とする。											
[到達目標] 授業の到達目標及びテーマ 1) 臨床心理学および心理療法の歴史的背景と成り立ちについて理解し、代表的なアプローチ(理解と支援のための理論と方法)の特徴および相違点・共通点を理解する。 2) ユングの分析心理学の基本理論を理解することで、臨床心理学および心理療法における代表的理論の相違点・共通点を検討し、臨床心理学と心理療法の本質的理解を深める。 3) 心理療法の基本的姿勢と技法について理解する。 4) 発達期上の課題および心的問題(精神科的問題を含む)について理解する。 5) 具体的な事例について理解し、支援について考えることができる。 6) 主要5分野(保健医療, 福祉, 学校教育, 司法・犯罪, 産業・労働)における心理臨床とその意義、多職種連携・地域連携の重要性を理解する。											
[授業計画と内容] 第1回: オリエンテーション 第2回: 臨床心理学とその成り立ち 第3回: 臨床心理学と心理療法: 代表的理論の3大潮流をめぐって : 力動的アプローチ 第4回: 臨床心理学と心理療法: 代表的理論の3大潮流をめぐって : 認知行動的アプローチ・人間学的アプローチ											
----- 心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)へ続く											

心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(2)

第5回：心の成長と心的体験の理解

第6回：心の危機とその理解

第7回：ユングにおける心の危機論： 中年期の問題・うつ病の理解と支援

第8回：心の危機論： 思春期の問題・不登校の理解と支援

第9回：心の危機論： 思春期の問題・いじめの理解と支援

第10回：心の危機論： 親子の問題（非行，虐待）の理解と支援

第11回：心の危機論の敷衍・主体の問題： 強迫性障害の理解と支援

第12回：主体の問題： 思春期妄想症・妄想型統合失調症の理解と支援

第13回：主体の問題： 統合失調症の理解と支援

第14回：主体の問題： 発達障害の理解と支援

第15回：期末試験 / 学習到達度の評価，心理療法と臨床心理学の本質・まとめ

第16回：フィードバック（方法は別途連絡します）

但し，学修状況等に応じて，内容や順序が変更される場合がある。

[履修要件]

講義で呈示された事例についての守秘義務に関する約束を守れること（オリエンテーションで説明します）。

[成績評価の方法・観点]

出席を前提として，

1．毎回の授業終了時に提出する小レポート

2．年度末(授業の最終回頃)に行う筆記試験

をもとに，

上記の到達目標の観点から総合的に評価する。

[教科書]

松下 姫歌 『心的現実感と離人感』（創元社, 2019）ISBN:978-4422116471

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

1) 授業で紹介するテキストや文献を読む。

2) 授業やテキスト・文献などで，わからない点・疑問点や興味をもった点などは，自分でも調べてみる。

3) 他の知識等ともすり合わせて，自分なりの理解を組み立てたり，パースペクティブを広げ深めてみたり，という知的作業をくりひろげてみる。

4) 臨床心理学は心の生き死にに関わる学問であり，心が体験するありとあらゆることが関係する。一見，臨床心理学とは関係ないように見えることでも，関連付けてみる発想や問題意識をもって，さまざまなことを自分なりに調べてみたり，体験してみたりしてみる。

直接の質問を受け付ける他，毎回の小レポートで考えたことや疑問等も受け付け，必要に応じてフィードバックするといった形で，対話的に授業をすすめる方針。

心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(3)

(その他(オフィスアワー等))

【関連する科目】心理学(特殊講義)(臨床心理学概論)(心理学的支援法)

【オフィスアワー】希望者はメールにてアポイントをとってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系26

科目ナンバリング		U-LET28 37140 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習 I) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 黒島 妃香 文学研究科 准教授 森口 佑介			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理学演習I									
[授業の概要・目的]											
3回生対象の演習。 受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこなう。 オリジナル研究を開始するための基盤を形成し、卒業研究への足がかりを作る。											
[到達目標]											
研究発表の能力および討論の能力を身につける。また、卒業研究への取り組み方を理解する。											
[授業計画と内容]											
各人が自由に選定した内容について研究発表し、その内容及びそれに関連した事柄について全員で 討論する。前期後期、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。発表者は発表内容に関するレジュメを 配布する。発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。討論への積極的な参加 が期待される。 授業計画の目安は以下の通りである。 第1回 研究発表の仕方などの説明 第2回～29回 学生の発表およびそれに関する討論 第30回 発表に関する講評											
[履修要件]											
原則として、心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表する内容のレジュメおよびスライドの作成を着実にを行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系27

科目ナンバリング		U-LET28 37140 SJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(演習II) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 こころの未来研究センター 助教 上田 竜平			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理学演習II									
[授業の概要・目的]											
4回生対象の演習。 主に卒業研究に関する受講者の研究発表とそれを題材とした討論をおこない、卒業研究の遂行を支援する。											
[到達目標]											
卒業研究遂行における技術および討論の仕方を理解する。また、研究発表の技能を身につける。											
[授業計画と内容]											
主に卒業研究の進捗状況あるいはそれに関連する事項に関して受講者が研究発表し、その内容をもとにして全員で討論する。前期と後期に、それぞれ1回ずつの研究発表を課す。発表者は発表内容に関するレジユメを配布する。発表はコンピュータを使用したプレゼンテーションが望ましい。討論への積極的な参加が期待される。 第1回 発表の仕方およびレジユメ作成の仕方等の説明 第2回～29回 学生の発表およびそれに関する全体討論 第30回 フィードバック											
[履修要件]											
心理学専修に所属する者であること。 原則として心理学演習Iを履修済みであることが必要。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
それぞれの研究を着実に進め、発表用のレジユメやスライドの作成を適切に行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		心理学(演習)(心理演習) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 教授 河合 俊雄 こころの未来研究センター 特定講師 畑中 千紘 こころの未来研究センター 特定助教 鈴木 優佳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		心理演習									
【授業の概要・目的】											
<p>臨床心理学は心理療法・カウンセリングおよび心理査定の基礎をなす学問であり、理論と実践が不可分に連関しているという特徴がある。心理的問題や発達課題は、心的次元における自分と他者の成立のあり方と深く関わっており、心理支援においては他者理解のための基礎知識のみならず、自己についての理解が不可欠である。</p> <p>これを踏まえ本授業では、基本的にグループやペアでの課題演習の形式で心理療法およびカウンセリングの基礎について体験的に習得すると共に、臨床心理学においてきわめて重要な「自分」のあり方について気づきを深めることを目指す。さらに、心理療法や心理査定等の心理的支援に関する基礎的な知識と技能についてロールプレイと事例的検討を通じて学ぶ。</p> <p>これらの体験的演習を通して、大学院における心理療法や心理査定の実践的訓練への橋渡しをするとともに、人間のこころについての深い理解を得ることを目指したい。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 課題演習への取り組みの中で、普段は明確に意識されることが少ない、こころの基礎的な働きにフォーカスし、心的体験をモニターすることを通じて自分やこころについての気づきを深める</p> <p>2) 課題に取り組む中で現れてくる自身の態度や特徴について心理学的に考察し、よりよい形で自分および他者のこころに開かれていくような心的態度を養う。</p> <p>3) これらを踏まえ、次の(1)から(5)に掲げる事項についてロールプレイ等を行いながら基本的な水準の知識および技能を習得する。</p> <p>(1) 心理的支援および心理に関する支援を要する者等に関する コミュニケーション・ 心理検査・ 心理面接・ 地域支援等に関する知識および技能</p> <p>(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(3) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(4) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(5) 公認心理師・臨床心理士としての職業倫理および法的義務の理解</p>											
【授業計画と内容】											
本授業では、以下の計画に添って実習的演習を行う。											
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分を知る(1)</p> <p>第3回 自分を知る(2)</p> <p>第4回 自己表現(1)</p> <p>第5回 自己表現(2)</p> <p>第6回 他者を知る(1)</p> <p>第7回 他者を知る(2)</p> <p>第8回 コミュニケーション(1)</p>											
心理学(演習)(心理演習)(2)へ続く											

心理学(演習)(心理演習)(2)

- 第9回 コミュニケーション(2)
- 第10回 こころとイメージ(1)
- 第11回 こころとイメージ(2)
- 第12回 こころとイメージ(3)
- 第13回 個人と集団
- 第14回 臨床的態度
- 第15回 まとめ

【履修要件】

・本授業は演習形式であるため、毎週の授業に出席し、課題に真摯にコミットし、グループディスカッションに積極的に参加する意思のあることが要件となる。

【成績評価の方法・観点】

授業への出席を前提に、演習の中で課されるレポート等の課題、演習活動へのコミットメント、ディスカッションでの発言をもとに評価を行う。
上記到達目標に掲げた観点を総合し、課題(70%)、平常点評価(30%)を基本として担当教員合議の上で評価する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

・課題を通じて生じた疑問や新たな興味にしたがって、自発的に心理学やその他の関連文献を調べることで、こころについて考える視野を広げ、問題意識を深めることが重要である。
・課題において体験された心的体験や、それに付随する気づきについて中立的に振り返ることが重要であろう。善し悪しの評価ではなく、一回限りの自身の体験をとらえ、そこから新たな気づきを得る力を養うことで、心理学的な視点が養成されるだろう。

(その他(オフィスアワー等))

・本授業は実習的要素を含む演習であるため、毎回の出席と積極的な授業参加が望まれる。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系29

科目ナンバリング		U-LET28 37151 LJ46											
授業科目名 <英訳>		心理学(講読) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 心理学部 特任助教				藏口 佳奈	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語		
題目		心理学英語文献講読											
【授業の概要・目的】													
英語で書かれた論文から最新の知見を得ることは、心理学分野において必要不可欠である。前期の心理学講読では、「科学英語を読むスキル」を向上させるため、実験心理学の幅広い知見を紹介する英語教科書の輪読を行う。実験心理学の基本的な内容について精読することで、論文を読むにあたって前提となる知識を習得しながら、その素地を養うことを目的とする。心理学論文で頻出する用語や表現に通じることで、今後より多くの文献をスムーズに読み進めることができるだろう。また、該当箇所の理解を深められるように、発表内容に関するディスカッションやまとめの機会を設ける予定である。													
【到達目標】													
実験心理学に関する英語文献を読むうえで必要な知識を習得する。													
【授業計画と内容】													
【第1回】 次回以降の発表予定を決定する。(履修希望者は必ず出席すること) 【第2回～第15回】 E. Bruce Goldstein “Cognitive Psychology:Connecting Mind, Research, and Everyday Experience (5th Edition)” の輪読を行う。受講者には、担当箇所のレジュメを作成し、発表してもらうことを予定している。発表担当でない場合でも、課題やディスカッション時には積極的な参加が求められる。なお、フィードバック方法は授業中に指示する。													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
平常点で評価する。評価対象となるのは、発表および授業内で実施する課題(ディスカッション含む)である。													
【教科書】													
E. Bruce Goldstein 『Cognitive Psychology:Connecting Mind, Research, and Everyday Experience (5th Edition)』(CENGAGE) ISBN: 978-1337408271 こちらから使用する範囲のコピーを配布するため、各自での購入の必要はない。													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
											心理学(講読)(2)へ続く		

心理学(講読)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

自身の発表担当範囲は前もって確認し、十分に準備を行うことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系30

科目ナンバリング		U-LET28 37151 LJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(講読) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山崎 大暉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		心理学英語文献講読									
[授業の概要・目的]											
英語で論文を読み、他者と議論することは、研究を遂行するための重要な能力の一つである。本授業では、実験心理学関連の原著論文を読み、その内容についての議論を行う。論文を探し、読み、発表することで、研究の背景や方法論・議論の組み立て方などを知る。また受講者間の議論を通して、論文・研究を包括的に理解し、生産的に意見を交換する姿勢を養う。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの興味関心に基づき、論文を検索できるようになる ・ 英語論文を読むことに慣れる ・ 内容をまとめ、効果的に発表する能力を身につける ・ 論文内容を、他者と生産的に議論する 											
[授業計画と内容]											
<p>実験心理学関連の学術論文を、発表形式で読んでいく。 受講者には期間内に1～数回、スライドを作成し、論文内容を発表してもらう。発表担当外の回には、他者の発表に関する質問をし、積極的に議論に参加することが求められる。受講者数によっては簡単な授業内課題を行うこともある。</p> <p>第1回 授業の進め方・論文の読み方や検索管理方法等について 第2回～第15回 受講者による発表、議論</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。評価対象は、発表内容＋授業内での発言（議論への積極的な参加）とする。実施した場合は授業内課題も加点対象とする。											
[教科書]											
使用しない 必要に応じて資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自身の担当する論文を読み、その内容を要約した発表スライドを作成する。可能であれば担当外の論文、関連論文なども読んで理解を深める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系31

科目ナンバリング		U-LET28 27163 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習IA)(心理学実験) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 非常勤講師 山本 寛樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4,5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学基礎実験A									
【授業の概要・目的】											
心理学実験の基礎についての実習。心理学の多様な研究手法を、具体的作業を通じて学ぶ。											
【到達目標】											
心理学の基礎的な研究手法を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>本科目は心理学連合共通科目(心の先端研究ユニット提供科目)として実施される。初回に内容の紹介と実習項目の選択のためのオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。初回の集合場所はシラバス掲載の教室とは異なるので必ず掲示を参照すること。</p> <p>3週まではレポート(論文)の書き方など基礎的な内容を全体で学び、その後(4週から14週)は指定された実習項目を実施する。毎回簡単な心理学実験を自ら実施し、データを集め、分析し、レポートにまとめる。内容は、知覚・認知の研究法、動物研究法、発達研究法、質問紙法、調査法等が予定されているが、変更の可能性もある。</p> <p>15週目は総括とフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。毎回のレポートによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
毎回レポートが課されるので、着実に取り組むこと。また、必要に応じて、関連文献を精読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>心理学専修希望者は必ず文学部で「心理学実習IA(心理学実験)」として登録すること(全学共通科目や他学部科目として登録しない)。</p> <p>心理学専修を希望する可能性がある者は2回生で履修することが望ましい。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

行動・環境文化学系32

科目ナンバリング		U-LET28 27167 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習IB) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香 非常勤講師 山本 寛樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4,5	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学基礎実験B									
【授業の概要・目的】											
心理学実験の基礎についての実習。心理学実習IAに引き続き、実験心理学の多様な研究手法を、具体的作業を通じて学ぶ。											
【到達目標】											
実験心理学の発展的な研究手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
心理学実習IAで学ぶ基礎的な研究手法を踏まえて、文学部で行われる実験心理学のために、さらに発展的あるいは実践的な研究手法を学ぶ。内容は、知覚、認知、比較認知、認知発達など、1週目から14週目までは、担当者ごとに決められた課題内容の実験を行い、それぞれが研究計画を立案する心理学特殊実験(実習III)への足がかりとする。15週目には総括とフィードバックを行う。実施時に最新の研究知見をもとにして実験内容が決められることもある。											
【履修要件】											
原則として心理学専修所属あるいは分属希望であること 原則として心理学実習IAを受講済であること											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。毎回のレポートによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
毎回レポートが課されるので、着実に取り組むこと。また、必要に応じて、関連文献を精読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
心理学専修を希望する可能性がある者は2回生で履修することが望ましい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET28 27165 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学（実習IIA）（心理学統計法） Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山崎 大暉			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学統計の基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>実験心理学では、実験や調査で得られたデータの解析が欠かせない。この授業では、実験心理学研究で用いられる統計解析手法について基礎から解説する。手法の原理とともに、それをコンピュータで実行する方法を実習形式で解説し、実践的なデータ解析技能の習得を目指す。主に統計解析のためのフリーソフトウェアであるR（およびRStudioとそのパッケージ）を使用する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・実験心理学研究で用いられる統計解析手法の原理を理解する。 ・データを整理、要約、図示し、検定や推定を行うという一連の過程を、コンピュータを用いて実行できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第01回 イン트로ダクション 第02回 R・RStudioの導入 第03回 尺度水準 第04回 要約統計量 第05回 相関 第06回 データの可視化 第07回 tidyverse (1) 第08回 tidyverse (2) 第09回 正規分布・標準化 第10回 母集団と標本 第11回 仮説検定 (1) 第12回 仮説検定 (2) 第13回 仮説検定 (3) 第14回 仮説検定 (4) 第15回 まとめと補足</p> <p>フィードバック方法は授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 心理学（実習IIA）（心理学統計法）(2)へ続く -----											

心理学（実習IIA）（心理学統計法）(2)

[成績評価の方法・観点]

授業の終わりに課題を課す。また、期末に1回レポート試験を行う。平常点および課題50点、期末レポート50点で評価を行う。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

堀裕亮 『ゼロからはじめる統計モデリング』（ナカニシヤ出版）

[授業外学修（予習・復習）等]

RとRStudioを自身のコンピュータにインストールし、実際に操作して使い方を学習する。

（その他（オフィスアワー等））

授業内容に関して、メールによる質問は随時受け付ける。アドレスは授業中に連絡する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系34

科目ナンバリング		U-LET28 27166 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学（実習IIB）（心理学統計法） Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山本 寛樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学統計の基礎									
【授業の概要・目的】											
心理学実習IIAに引き続き、心理学研究で用いられる統計解析手法について解説する。IIBでは、統計モデリングを中心に取り上げる。IIAに引き続き、統計解析のためのフリーソフトウェアであるRを主に使用する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・統計モデリングの基本的な考え方を理解する ・統計モデリングをコンピュータで実行する方法を習得する ・自身の研究のデータ分析に統計モデリングを利用できるようになる 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、内容を解説した後に問題演習を行う。 演習問題を解くのにRとRStudioを使用する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 ベクトルと行列 統計モデルを記述する際の"言葉"となるベクトルと行列の基本的な性質を解説する</p> <p>第3回～第4回 確率分布 統計モデリングの基礎となる確率分布について解説する</p> <p>第5回～第6回 統計モデリングの基礎 統計モデリングの基本的な考え方と、よく使われる推定法である最尤法およびベイズ法について解説する</p> <p>第7回～第10回 具体的な統計モデル 心理学のデータ分析でよく使用される一般化線形モデル、階層モデル、次元削減モデルについて紹介する</p> <p>第11回～第13回 モデルの比較 統計モデルを比較する方法として、仮説検定と、情報量規準によるモデル選択について解説する</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック（方法は授業中に説明する）</p>											
----- 心理学（実習IIB）（心理学統計法）(2)へ続く -----											

心理学（実習IIB）（心理学統計法）(2)

【履修要件】

心理学実習IIAを受講済みであること。IIAの内容の中でも特に、RとRStudioの基本的な使い方、R markdownを利用した分析レポートの作成方法については復習しておくこと。

【成績評価の方法・観点】

毎回授業の最後に課題を出す。また、期末に1回レポート試験を行う。毎回の課題50%、期末レポート50%で評価を行う。

【教科書】

堀裕亮『ゼロからはじめる統計モデリング』（ナカニシヤ出版）
教科書とは別に、内容の要点と演習問題をまとめた講義ノートを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・毎回の課題を確実に提出すること。
- ・教科書や講義ノートで適宜予習・復習を行い、演習問題を自身で解いてみること。

（その他（オフィスアワー等））

メールによる質問は随時受け付けるので、わからないところがあれば積極的に質問すること。アドレスは授業中に連絡する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系35

科目ナンバリング		U-LET28 37164 PJ46									
授業科目名 <英訳>		心理学(実習III) Psychology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 蘆田 宏 文学研究科 准教授 森口 佑介 文学研究科 准教授 黒島 妃香			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		心理学特殊実験									
【授業の概要・目的】											
3回生対象の実験実習。 各自が研究テーマを設定し、具体的研究を通じて、卒業研究への足がかりを得る。											
【到達目標】											
心理学における実験計画の立案からデータの解析、発表の仕方および報告書の書き方を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
受講者がそれぞれオリジナルの研究テーマを設定し、研究計画の策定から研究の実施、分析、まとめを、年間を通しておこなう。											
1回目はオリエンテーションを行う。											
2回目～29回目は、履修者による自身の研究の進捗状況報告とそのフィードバックを行う。											
30回目は、履修者全員による最終結果報告とフィードバックを行う。											
初めて自分で計画した実験をおこなうことになるので、履修にあたっては、計画立案の段階からデータのまとめに至るまで、教員、大学院生を始め、関連研究室の諸先輩に積極的に相談し、アドバイスを受けることが重要である。											
【履修要件】											
原則として心理学専修に所属するものであること。 心理学実習I、実習II、講義Iを履修済みであることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。最終成果の研究発表が必須要件である。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
必要に応じて、関連文献を広く精査し、精読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エスペラントと言語学									
【授業の概要・目的】											
この講義では、エスペラントの実態を示すとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を辿り、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について考察を深める。前期は主にエスペラントの実態と歴史に焦点をあてる。											
【到達目標】											
この講義の到達目標は、エスペラントの実態を把握するとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を学び、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について自身の考察を深めることである。											
【授業計画と内容】											
以下のとおり予定しているが、受講者の理解度によって変更する可能性がある。											
<p>第1回 ザメンホフ、アルファベットと発音、語順</p> <p>第2回 エスペラントの使用実態、形容詞と数</p> <p>第3回 ウェブとエスペラント(1)、所有表現、比較級・最上級</p> <p>第4回 二葉亭四迷とエスペラント、對格</p> <p>第5回 ウェブとエスペラント(2)、相關詞、命令形</p> <p>第6回 フundament(土臺、基礎)、前置詞、過去時制</p> <p>第7回 プロ・ニュー宣言、エスペラントと宗教、數量、關係詞</p> <p>第8回 プラハ宣言、不定詞、未來時制</p> <p>第9回 ラウマ宣言、接續法</p> <p>第10回 エスペラント原作作品、ウィリアム・オールド、能動分詞</p> <p>第11回 種々の計画言語とエスペラントとの因縁</p> <p>第12回 日本からのエスペラントによる発信、宮澤賢治</p> <p>第13回 エスペラントの人工性、派生形態法</p> <p>第14回 新村出とエスペラント、數表現</p> <p>第15回 受動分詞、言語の「完成」、まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(30%)とレポート(70%)											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系37

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
<p>前期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。</p> <p>[第1部] 基礎編</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 中国語の音韻構造と現代北京音</p> <p>第3回 中古音概説(1)：韻書・反切・韻図</p> <p>第4回 中古音概説(2)：『切韻』の韻母・声調体系</p> <p>第5回 中古音概説(3)：『切韻』の声母体系</p> <p>第6回 中古音概説(4)：唐代中期の長安音</p> <p>第7回 近世音概説：元代の大都音</p> <p>[第2部] 声母編</p> <p>第8回 中近世諸文献概説</p> <p>第9回 清濁論(1)：唐代音の清濁と近世への変化</p> <p>第10回 清濁論(2)：中近世諸文献における全濁音</p> <p>第11回 清濁論(3)：中近世諸文献における次濁音</p> <p>第12回 五音論(1)：唇牙喉音に関する諸問題</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

第13回 五音論(2)：舌歯音に関する諸問題

第14回 声母総論

第15回 フィードバック

【履修要件】

中国語の知識は必須ではない。中国語学習の経験や中国語学の知識のない者の受講も歓迎する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN: 9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

特に第1部で扱う術語・概念はその後の授業に必須の知識なので、定着するまで復習してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		上古音講義									
【授業の概要・目的】											
<p>上古音研究は清朝考証学者らによる押韻・諧声系列の整理にはじまり、20世紀初頭のKarlgrenの登場によって大きく進展し、Karlgren以降になると、董同[和]、李方桂、Yakhontov、梅祖麟、Baxter、鄭張尚芳、潘悟雲、Schuessler、Sagartらの研究が中心となる。</p> <p>本講義は上古中国語音韻史（上古音研究）の概要と近年の発展について、その大まかな流れを概観し、議論することである。特に、近年の研究について紹介する予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>中国語の上古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、詩経の押韻および諧声符から推定される上古中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。</p> <p>また出土資料等でみられる通仮（当て字の用法）の可否を判断できるようになることを目標の一つとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。</p> <p>前半：基礎的な内容 第1回、第2回、第3回：ガイダンス 中国語音韻学の述語の確認、中古音 第4回、第5回、第6回：上古音の時代区分、上古音研究の方法と蓋然性、問題点 第7回、第8回、第9回：伝統的手法「韻部」「声母」</p> <p>後半：近年の研究成果 第10回、第11回、第12回、第13回、第14回： 出土資料とびん語を用いた上古音研究：舌音2タイプ、*s- preinitial、円唇母音仮説、前舌母音仮説、*r-の再構 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
配布資料を準備する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系40

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法・構文文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%)、学期末のレポート(70%)から総合的に評価する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
後期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。											
<p>[第1部] 韻母編</p> <p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 中心音論</p> <p>第3回 陽声韻論(1)：-n, -m韻尾類</p> <p>第4回 陽声韻論(2)：-ng韻尾類</p> <p>第5回 陰声韻論(1)：-y, -w韻尾類</p> <p>第6回 陰声韻論(2)：ゼロ韻尾類</p> <p>第7回 入声韻論(1)：-d, -b韻尾類</p> <p>第8回 入声韻論(2)：-g韻尾類</p> <p>第9回 韻母総論</p> <p>[第2部] 声調編</p> <p>第10回 声調論(1)：唐代音の調類と調値</p> <p>第11回 声調論(2)：声調の付随特徴について</p> <p>第12回 声調論(3)：陰陽調について</p>											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

第13回 声調総論
第14回 まとめ
第15回 フィードバック

【履修要件】

前期の中近世中国語音史 を受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）
牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN:
9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

前期の復習をして臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 山本 武史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語の音声・音韻									
【授業の概要・目的】											
英語の音声・音韻について概説し、特に音節構造、強勢付与、形態論との関わりなどにおいてまだ解決されていない問題や意見が分かれている問題について議論する。テキストを使用するが、授業内容はそれに縛られず、受講生が自身の考えでデータを分析することに重きを置く。											
【到達目標】											
英語の音声・音韻に関する基本的知識を習得し、さまざまな問題を定説にとらわれず自身で解決する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下に各回の内容を当初の予定として示すが、初回の授業で受講者の知識を確認して変更することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要の説明 2. English phonetics: Consonants 3. English phonetics: Vowels 4. The phonemic principle and English phonemes 5. English syllable structure (1): Phonotactics 6. English syllable structure (2): Syllabification 7. Rhythm and word stress in English (1): The Latin stress rule 8. Rhythm and word stress in English (2): Remaining problems 9. Rhythm, reversal, and reduction 10. English intonation 11. Graphophonemics: Spelling-pronunciation relations 12. Variation in English accents 13. An outline of some accents of English 14. First language (L1) acquisition of English phonetics and phonology 15. Second language (L2) acquisition of English phonetics and phonology 											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）および期末レポート（70点）による。平常点は授業中の議論への活発な参加によるもの（15点）と各自の判断で随時提出する任意のレポート（15点）による。4回以上（4回を含む）欠席した者には単位を与えない。

[教科書]

Carr, Philip 『English Phonetics and Phonology: An Introduction, 3rd edn.』 (Wiley-Blackwell) ISBN: 9781119533740

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習、復習はもちろんであるが、調音音声学や音韻論に関する基礎的知識が不足している者は各自その補強に努めること。

（その他（オフィスアワー等））

授業時以外の連絡はメール（ichheissetakeshi@lang.osaka-u.ac.jp）によること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 宮本 陽一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		統語論研究									
【授業の概要・目的】											
統語理論のゴールは、人間の持つ言語能力の研究を通して人間の心（mind）を理解することにある。この1つの試みとして生成文法理論がある。本講義では、生成文法理論において広く議論されている英語の疑問文（移動現象）に注目しながら、生成文法理論の考え方を学んでいく。											
【到達目標】											
<p>(1) 生成文法理論の基本的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 疑問文に関する理論発展が理解できるようになる。</p> <p>(3) 樹形図, ブラケット等を用いて言語（特に英語と日本語）の基本的な文の構造が表現できるようになる。</p> <p>(4) 生成文法理論の枠組みにおいて日英語の統語的な違いが理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で講義を進める。但し、講義の進み具合により、多少の変更はあり得る。</p> <p>第1回：オリエンテーションならびに文の構造</p> <p>第2回：平叙文の構造</p> <p>第3回：疑問文の構造</p> <p>第4回：疑問文にかかる制約（基本概念）</p> <p>第5回：疑問文にかかる制約（帰結）</p> <p>第6回：疑問文にかかる制約（問題点）</p> <p>第7回：格</p> <p>第8回：障壁理論（基本概念）</p> <p>第9回：障壁理論（練習）</p> <p>第10回：障壁理論（帰結）</p> <p>第11回：障壁理論（問題点）</p> <p>第12回：相対最小性</p> <p>第13回：ミニマリストプログラム</p> <p>第14回：日英語比較（削除と移動）</p> <p>第15回：日英語比較（数量詞と量化詞）</p>											
【履修要件】											
言語学概論程度の知識があることが望ましい。											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

課題（20%）と期末レポート（80%）の成績を総合的に評価する。授業の内容を踏まえ、独創的な視点のもと、必要なデータ収集・分析を行った期末レポートを高く評価する。

[教科書]

使用しない
ハンドアウトを配布する場合もあるが、授業は基本的に板書で進める。

[参考書等]

（参考書）
宮本陽一 『生成文法の展開：「移動現象」を通して』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-288-7

[授業外学修（予習・復習）等]

予習・復習を必ず行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松岡 和美 非常勤講師 前川 和美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		手話言語学概論									
【授業の概要・目的】											
ろう者の大多数は聴の親のもとに生まれるため、手話言語を母語とするネイティブサイナーは数が限られている。つまり、多くの地域において手話言語は「少数言語」であり、それゆえに根強い誤解・偏見が広くみられる。この講義の目的は、音声言語と手話言語に見られる普遍的な性質と同時に、空間を用いる言語独特の性質の両方を概観し、文字を持たない少数言語である手話をとりまく社会的環境についても考察することである。手話の社会言語学を扱う回では、日本手話のネイティブサイナーであるろう者の講師が講義を担当し（音声への通訳あり）、聴者の講師が議論のファシリテーターの役割を務める。											
【到達目標】											
手話言語が身振り（ジェスチャー）の寄せ集めではなく、自然言語としての性質を備えていることを理解する。手話言語の性質を示す具体例やろう者の文化の知識を得ることで、人間の言語とは何かについて「音声言語」の枠を越えて考える態度を養う。											
【授業計画と内容】											
【9月6日】											
第1回：オリエンテーション・日本手話と日本語対応手話											
第2回：音韻論1：手話の音韻パラメータと初期の表記システム											
第3回：音韻論2：手話の音韻表記と音韻変化											
【9月7日】											
第4回：形態論1：形態素の種類・手話の複合語											
第5回：形態論2：手話の語形成											
第6回：統語論1：否定表現・NM表現											
【9月8日】											
第7回：統語論2：構造依存性と文末コピー											
第8回：CLとRSの分類											
第9回：CLとジェスチャーの違い											
【9月9日・前川・松岡のチームティーチング】											
第10回：手話のバリエーション1：地域差・年齢差・男女差											
第11回：手話のバリエーション2：言語接触・国際手話・触手話											
第12回：手話を取り巻く社会的状況とろう教育											
【9月10日】											
第13回：ろう児の手話の発達											
第14回：ホームサイン・コミュニティと手話の発生											
第15回：試験・フィードバック											
----- 言語学(特殊講義)(2)へ続く -----											

言語学(特殊講義)(2)

【履修要件】

言語学の入門・概論クラスを履修していることが望ましいが必須ではない。手話の知識は不要である。

【成績評価の方法・観点】

試験（50%）
課題（5%×4回＝20%）
授業内ミニレポート（6%×5回＝30%）

【教科書】

松岡和美 『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』（くろしお出版 2015年）ISBN:9784874246702

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業開始日の前もしくは授業内で追加文献のPDFファイルを配布する。

【授業外学修（予習・復習）等】

初回授業で別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

この集中講義は前期の採点報告日以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。
授業を通して、履修者からの積極的な質問やコメントを歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 千田 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エスペラントと言語学									
【授業の概要・目的】											
この講義では、エスペラントの実態を示すとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を辿り、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について考察を深める。後期は計画言語論が言語研究にいかなる影響を及ぼしたか、エスペラント界が言語的・社会的にいかなる変遷を辿ったかを議論し、またエスペラント以外の計画言語についても紹介する。											
【到達目標】											
この講義の到達目標は、エスペラントの実態を把握するとともに、ザメンホフの創案以降のエスペラントの歴史を学び、言語の理解について計画言語論の提起した問題とその言語研究史上の意義について自身の考察を深めることである。											
【授業計画と内容】											
スケジュールは以下の通りだが受講者の理解度に応じて変更する可能性がある。											
第1回 はじめに 第2回 エスペラントの十六箇條文法の内容と意義 第3回 エスペラントの音韻論と類型的位置付け 第4回 エスペラントの形態法と類型 第5回 量化 第6回 接置詞 第7回 関係節 第8回 時制 第9回 計画言語の類型 第10回 品詞 第11回 イード、ヴォラピュク 第12回 言語学者と計画言語(1): シューハルト、クルトネ、イエスペルセン 第13回 言語学者と計画言語(2): サピア、トルベツコイ、マルチネ 第14回 母語とは何か 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(30%)とレポート(70%)											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないでほしい。

(その他(オフィスアワー等))

質問は随時受け付けますが、メールなどでアポイントメントをとっていただければ面談にも応じます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系47

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松本 亮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
[授業の概要・目的]											
[到達目標]											
[授業計画と内容]											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
[教科書]											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET29 37231 LJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(特殊講義) Linguistics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 荻原 裕敏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コータン語文献から見る文献言語研究									
【授業の概要・目的】											
<p>大量の写本断片が中国・新疆ウイグル自治区のコータン及び敦煌から発見されているコータン語は、中期イラン語に属する文献言語で、古期コータン語・後期コータン語という二つの段階に大きく分類される。5～11世紀頃と推定されるコータン語文献は宗教文献と非宗教文献に大別され、宗教文献は主にサンスクリットに基づいた仏教文献であるが、非宗教文献には契約文書や手紙・会話集なども含まれている。今回の講義では、研究史並び文法を概観した後、古期コータン語・後期コータン語で書かれた代表的なテキストの講読を通して、出土文献資料を利用した文献言語研究の方法論やその可能性について解説する。</p>											
【到達目標】											
<p>文字とその背後にある言語体系との関係や文献資料を通じた言語研究の方法論について理解し、文献言語研究に取り組む能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <p>1 導入【1週】 コータン語文献及び研究史の紹介</p> <p>2 コータン語の基礎【4週】 南トルキスタン・ブラーフミー文字写本 コータン語の音韻・文法 古期コータン語・後期コータン語</p> <p>3 出土文献資料による文献言語研究の方法論【9週】 出土文献資料の扱い方 コータン語文献講読 出土文献解読による言語体系の解明とその可能性 出土文献資料に反映される文化と社会</p> <p>4 フィードバック【1週】 期末レポート フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 言語学(特殊講義) (2)へ続く -----											

言語学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(70%)・平常点(小レポート)(30%)

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

Ruediger Schmitt (ed.), Compendium Linguarum Iranicarum. (Wiesbaden: Reichert, 1989)

Gernot Windfuhr (ed.), The Iranian Languages. (London: Routledge, 2009)

H. W. Bailey, Dictionary of Khotan Saka. (Cambridge: CUP, 1979)

その他、授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を自主的に学習すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪学院大学 情報学部 准教授 笹間 史子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		調音音声学									
【授業の概要・目的】											
世界の言語の大半は音声を媒体としており、音声学の知識は言語記述に欠かせない。一般に音声の記述にはIPA (International Phonetic Alphabet, 国際音声記号) が用いられる。本演習は、実習をとおしてIPAに習熟することを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ IPAの発音を身につける。 ・ 音声を発する際に、音声器官のどこで何が起きているのか内省できるようになる。 ・ IPAを用いて音声表記ができるようになる。 ・ IPAの発音・聞き取りの習得をとおして、さまざまな言語音の記述をおこなうための基礎をつくる。 											
【授業計画と内容】											
<p>音声器官、気流、発声について説明したのち、IPAの発音・聞き取り練習をおこなう。また、受講生に各自の学習言語からの例を持ちよってもらい、その発音・表記について検討する。</p> <p>第1回 イントロダクション、音声器官のしくみ 第2回 気流と発声 第3回 破裂音 第4回 鼻音、ふるえ音、はじき音 第5回 摩擦音、小テスト 第6回 摩擦音 第7回 接近音、その他の子音 第8回 非肺気流による子音 第9回 非肺気流による子音、小テスト 第10回 子音のまとめ、表記練習 第11回 第一次基本母音 第12回 第二次基本母音、その他の母音 第13回 母音のまとめ、表記練習、小テスト 第14回 総復習と発音テスト 第15回 総復習と発音テスト</p> <p>小テストは第5回、第9回、第13回を予定しているが、授業の進み具合により変更する可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特に要件は設けないが、言語学概論等の授業で音声学の基礎を学んでいることが望ましい。											
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----											

言語学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計で評価する。

- ・平常点（20点、発表を含む）
- ・小テスト（3回の聞き取りテスト、各10点）
- ・発音テスト（40点）
- ・レポート（10点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で学んだ音の発音・表記を確認しておくこと。

授業中にできるようにならなかった発音については各自で練習し、必要ならば次回以降の授業時（授業の前後）に担当者に確認すること。

授業で学んだことにもとづき、自らが学習する言語の音声をあらためてよく観察するとともに、観察結果を授業に持ち寄ること。

（その他（オフィスアワー等））

実習であるので、休まないこと。

休んだ回の内容については、書籍、CDやネット上の音声などを活用して確認しておくこと。

授業中は他の受講生の発音にもよく耳を傾けること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37											
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授				パリハワダナ ルチラ	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		「魅力的な日本語」・「難しい日本語」を題材とした日本語学・日本語教育的探究											
【授業の概要・目的】													
日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何か。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、日本語・日本文化を主専攻とする日本語・日本文化研修留学生(日研生)と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。													
【到達目標】													
本授業の到達目標は、 (1) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めること (2) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得することである。													
【授業計画と内容】													
以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。													
第1回 ガイダンス、日本語学習者の初歩的動機													
第2回 学習ニーズ/グループワーク : テーマ選定													
第3回 漫画・アニメ・J-Popの日本語/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第4回 教授法とシラバス/グループワーク : 選定した学習項目の分析													
第5回 日本語らしさとは? /グループワーク : 他言語との比較													
第6回 アクティブ・ラーニング/グループワーク : 教案作成													
第7回 文化リタラシーと学習者の自己確立/グループワーク : 中間発表の準備													
第8回 グループ別中間発表及び前半の総括													
第9回 学習困難な日本語 学習を困難にしている理由とは? /グループワーク : テーマ選定													
第10回 <やさしい日本語>/グループワーク : 選定した学習項目の分析、他言語との比較													
第11回 社会・文化的諸要素への依存度の高い学習項目/グループワーク : 使い分け基準													
第12回 教科書分析の方法/グループワーク : 教科書分析													
第13回 誤用分析の方法/グループワーク : 誤用分析													
第14回 <自然な日本語>とは? /グループワーク : 期末発表の準備 グループ別期末発表													
第15回 フィードバック													
----- 言語学(演習)(2)へ続く -----													

言語学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

以下の通りに評価する。

授業活動への参加度合：20%

中間発表・中間レポート：30%

期末発表・期末レポート：50%

なお、演習科目であるため出席も重視する。

【教科書】

使用しない

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク)
ISBN:ISBN:ISBN4-88319-201-6

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上)』(ひつじ書房)
ISBN:ISBN:ISBN4-89476-251-X

川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下)』(ひつじ書房)
ISBN: ISBN:ISBN4-89476-252-8

その他適宜授業中に提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

グループ活動を遂行する上で事前準備・授業外の共同学習が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		語をめぐる通言語的検討									
[授業の概要・目的]											
本演習では通言語的な論文集をテキストとして使用し、語を音韻面や文法面、さらに社会や文化とのつながりの中で理解しようとするいくつかの論文を通して、語のあり方に関する基本的な知識を得ることを目的とする。											
[到達目標]											
世界の諸言語が語に関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。											
[授業計画と内容]											
授業では各回、学部の学生と大学院の学生がペアになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。(Zoomによるリモート形式でおこなう。)											
第1回：教材紹介，授業の進め方 第2回・第3回：The essence of ‘ word ’ 第4回・第5回：Words within words: Examples from Yidin, Jarawara, and Fijian 第6回・第7回：Words in Japanese 第8回・第9回：Wordhood in Chamacoco 第10回・第11回：The phonological and grammatical status of Murui ‘ word ’ 第12回・第13回：Word in Yalaku 第14回・第15回：Word in Lao，全体総括 (但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
以下の合計による：(1) 授業での発表 (30%)、(2) 討論への積極的な参加 (10%)、(3) 期末レポート (60%)。											
[教科書]											
Alexandra Y. Aikhenvald, R.M.W. Dixon, and Nathan M. White. (eds.) 『Phonological Word and Grammatical Word: A Cross-Linguistic Typology』 (Oxford University Press, 2020) ISBN:0-15-648233-9											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき、授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 17241 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オノマトペをめぐる通言語的検討									
[授業の概要・目的]											
本演習では通言語的な論文集をテキストとして使用し、オノマトペを文法や語用論、さらに社会や文化とのつながりの中で理解しようとするいくつかの論考を通して、オノマトペのあり方に関する基本的な知識を得ることを目的とする。											
[到達目標]											
世界の諸言語がオノマトペに関して有する個別的特徴、さらに言語一般に共通する特徴について、多彩な現象と分析方法を知ることができる。											
[授業計画と内容]											
授業では各回、学部の学生と大学院の学生がペアになり、割りあてられた部分について、ハンドアウトを使って内容を解説するとともに、問題となる事項について討議する。なお今年度は定延利之がすべての授業を担当する。											
第1回：教材紹介，授業の進め方 第2回・第3回：'Ideophone' as a comparative concept 第4回・第5回：Cross-linguistic variation in phonaesthetic canonicity, with special reference to Korean and English 第6回・第7回：Monosyllabic and disyllabic roots in the diachronic development of Japanese mimetics 第8回・第9回：Towards a semantic typological classification of motion ideophones: The motion semantic grid 第10回・第11回：Mimetics, gaze and facial expression in a multimodal corpus of Japanese 第12回・第13回：The sensori-semantic clustering of ideophonic meaning in Pastaza Quichua 第14回・第15回：Ideophones as a measure of multilingualism，全体総括											
(但し受講者の理解度等に応じて変更の可能性はある)											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(演習) (2)へ続く -----											

言語学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

以下の合計による：（１）授業での発表（30％）、（２）討論への積極的な参加（10％）、（３）期末レポート（60％）。

[教科書]

Kimi, Akita, and Prashant Pardeshi. (eds.) 『Ideophones, Mimetics and Expressives』 (John Benjamins, 2019) ISBN:978-90-272-0311-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受け持ち部分以外も事前に目を通しておき，授業中の討議や質問を通じて分からない部分を解決することが望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

研究室でも質問や相談を受け付けます。事前に連絡して時間の調整を行ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系54

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		サピアの言語学									
[授業の概要・目的]											
この授業では、サピアの言語学的なエッセイをいくつか選び、講読する。そのことで、言語現象の多様性を把握するとともに、言語とは何か、言語学が何を目指すべきかを議論する。											
[到達目標]											
言語現象の多様性を把握するとともに、言語とは何か、言語学が何を目指すべきかを考察する力をつける。											
[授業計画と内容]											
<p>次のテーマ別にサピアのエッセイを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：はじめに 第2回：Status of linguistics as a science (1) 第3回：Status of linguistics as a science (2) 第4回：Grammarians and his Language (1) 第5回：Grammarians and his Language (2) 第6回：Language (1) 第7回：Language (2) 第8回：The function of an international auxiliary language (1) 第9回：The function of an international auxiliary language (2) 第10回：Grading, a Study in Semantics, Philosophy of Science (1) 第11回：Grading, a Study in Semantics, Philosophy of Science (2) 第12回：Grading, a Study in Semantics, Philosophy of Science (3) 第13回：Language and Environment (1) 第14回：Language and Environment (2) 第15回：まとめ <p>(ただし、受講者数や理解度に応じてスケジュールを変更することがある)</p> <p>この講義ではいくつかの論考を取り扱うが、同じ論考について他の回で異なる視点から取り組む場合が含まれる。そのため、回ごとの区切りが設けにくいところがあるが、上記の大テーマに沿って話が進むものと心得ていただきたい。</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加(20%)，レポート(40%)，発表(40%)の合計による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

復習を怠らないこと。

(その他(オフィスアワー等))

予約をとってもらえば質問などに応じます。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系55

科目ナンバリング		U-LET29 27246 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(基礎演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		言語分析入門 日本語を題材に									
[授業の概要・目的]											
この授業では、日本語を題材として言語学的な基礎知識および言語分析の方法を学ぶ。具体的には、日本語を対象とした言語研究入門書を教科書として、その内容に沿って受講者が発表し、参加者全員で討論することで主体的に言語研究の方法を理解することを目指す。											
[到達目標]											
発表および議論を通して言語学の基礎的知識を体得する。 修得した知識に基づいてそれを実際の言語分析に適用できる実践的能力を養う。											
[授業計画と内容]											
教科書の各項目に担当者を割り当てるので、担当者はその項目についてまとめ、発表する。その内容について参加者全員で討論を行なう。授業の進め方に関する詳細は第1回の授業で説明する。今年度は大竹昌巳がすべての授業を担当する。 以下に授業スケジュールを示すが、各テーマに割り当てる週数は受講者の理解の状況等に応じて変動がある。											
ガイダンス【1週】 音声学【1週】 音韻論【3週】 形態論【3週】 統語論【3週】 意味論【3週】 フィードバック【1週】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
2, 3回の発表（50%）と数回の小レポート（30%）および議論への積極的な参加（20%）に基づき総合的に判断する。											
----- 言語学(基礎演習)(2)へ続く -----											

言語学(基礎演習)(2)

[教科書]

Natsuko Tsujimura 『An Introduction to Japanese Linguistics: Third Edition』 (Wiley-Blackwell) ISBN: 9781444337730

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は教科書の担当項目以外の部分も予め読んで内容をそれなりに把握して授業に参加することが求められる。担当項目の発表準備に当たっては、指定の教科書の内容をただまとめるだけでなく他の資料にも当たって自分なりに調べる必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系56

科目ナンバリング		U-LET49 29612 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語（初級）（語学） Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 教授 河崎 靖			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語初級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRのおよそA1/A2レベルの語学力を目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め（第1～5回、各回：発音・人称変化・代名詞など）、話す・聴く能力を高めるドリルも行い（第6～10回、各回：助動詞・時制・前置詞など）、併せて、ランデスキュンデ的な情報を盛り込む（第11～15回、各回：受動態・erの用法・指小辞など）。専門分野を問わず熱心な参加（予習・復習ふくめ）を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
使用しない こちらで教材を準備する。											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 靖 『オランダ語学への誘い』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後（予習・復習）確実に準備してもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系57

科目ナンバリング		U-LET49 29613 LJ48									
授業科目名 <英訳>		オランダ語(中級)(語学) Dutch				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		オランダ語 初・中級									
[授業の概要・目的]											
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。											
[到達目標]											
CEFRでB1レベルに達することを目指す。											
[授業計画と内容]											
入門レベルの文法解説から始め(第1~5回、各回:発音・人称変化・代名詞など)、話す・聴く能力を高めるドリルも行い(第6~10回、各回:助動詞・時制・前置詞など)、併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込む(第11~15回、各回:受動態・erの用法・指小辞など)。専門分野を問わず熱心な参加(予習・復習ふくめ)を期待する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 河崎 靖 『オランダ語の基礎』(白水社) 河崎 靖 『低地諸国の言語事情』(大学書林)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
こちらで用意する教材を、授業の前後(予習・復習)確実に準備してもらう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET49 39620 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シュメール語（初級）（語学） Sumerian				担当者所属・ 職名・氏名		国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介									
[授業の概要・目的]											
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。</p> <p>この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。</p> <p>文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。</p> <p>比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。</p>											
[到達目標]											
<p>世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する。</p> <p>また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。</p> <p><前期> 楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。</p> <p>第1回 シュメール語の背景 メソポタミア文明の世界について</p> <p>第2回 シュメール語と楔形文字について</p> <p>第3回 楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）</p> <p>第4回 楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）</p> <p>第5回 シュメール語文法（1）、楔形文字文献について</p> <p>第6回 シュメール語文法（2）、王碑文を読む</p> <p>第7回 シュメール語文法（3）、王碑文を読む</p> <p>第8回 シュメール語文法（4）、行政文書を読む</p> <p>第9回 楔形文字粘土板・円筒印章実習 - 粘土板と印章を作成</p> <p>第10回 シュメール語文法（5）、行政文書を読む</p> <p>第11回 シュメール文学の紹介</p> <p>第12回 シュメール文学作品を読む</p> <p>第13回 シュメール・メソポタミアの「法典」紹介</p> <p>第14回 裁判記録を読む</p> <p>第15回 行政文書・裁判記録を読む</p>											
----- シュメール語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

シュメール語（初級）(語学)(2)

<後期>

文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。

- 第1回 文献から見るシュメールの生活
- 第2回 シュメール語文法（6）、行政文書を読む
- 第3回 シュメール語文法（7）、行政文書を読む
- 第4回 シュメール語文法（8）、行政文書を読む
- 第5回 シュメール文学作品を読む
- 第6回 シュメール語文法（9）、行政文書を読む
- 第7回 シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
- 第8回 京都大学総合博物館所蔵資料紹介
- 第9回 京都大学総合博物館所蔵資料を読む
- 第10回 京都大学総合博物館粘土板見学実習
- 第11回 シュメール文学作品を読む
- 第12回 シュメール文学作品、王碑文を読む
- 第13回 行政文書、王碑文を読む
- 第14回 行政文書、王碑文を読む
- 第15回 まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定。

[教科書]

授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29624 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（初級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29625 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語（中級）(語学) Swahili				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スワヒリ語（中級）									
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子 『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系61

科目ナンバリング		U-LET49 29648 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級A）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：文字(1)（第1課相当）</p> <p>第3回：文字(2)（第1課相当）</p> <p>第4回：発音(1)（第2課相当）</p> <p>第5回：発音(2)（第2課相当）</p> <p>第6回：単語の表記(1)（第3課相当）</p> <p>第7回：単語の表記(2)（第3課相当）</p> <p>第8回：単語の発音(1)（第4課相当）</p> <p>第9回：単語の発音(2)（第4課相当）</p> <p>第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）</p> <p>第11回：名詞と助詞（第6課相当）</p> <p>第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）</p> <p>第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）</p> <p>第14回：否定と肯定（第8課相当）</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系62

科目ナンバリング		U-LET49 29649 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語（初級B）(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 助教 杉山 豊			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語（初級）									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。											
【到達目標】											
終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。											
【授業計画と内容】											
一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：略待上称体(1)（第9課相当）</p> <p>第3回：略待上称体(2)（第9課相当）</p> <p>第4回：変則用言(1)（第10課相当）</p> <p>第5回：変則用言(2)（第10課相当）</p> <p>第6回：過去終止形（第11課相当）</p> <p>第7回：未来終止形（第12課相当）</p> <p>第8回：敬語形（第13課相当）</p> <p>第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）</p> <p>第10回：連用形（第15課相当）</p> <p>第11回：連体形（第16課相当）</p> <p>第12回：各種接続語尾（第17課相当）</p> <p>第13回：各種補助用言（第18課相当）</p> <p>第14回：各種補助用言(第18課相当)</p> <p>第15回：期末試験・フィードバック</p>											
【履修要件】											
前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30点）と学期末試験（70点）。											
----- 朝鮮語（初級B）(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（初級B）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系63

科目ナンバリング		U-LET49 29650 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級A)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
朝鮮語文法における用言の活用、助詞の用法、接続語尾にいたるまで、中級文法を一通り解説する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。また、適宜文化、歴史の話題を折り込み韓国・朝鮮についての理解も深めてゆきたい。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 発音の注意点 第2回 音変化 第3回 発音の注意点 第4回 丁寧語尾(平叙) 第5回 丁寧語尾(疑問) 第6回 尊敬 第7回 接続語尾 第8回 時制(過去) 第9回 時制(未来) 第10回 連体形 第11回 助詞の形式と用法 第12回 変則活用 1 第13回 変則活用 2 第14回 数詞と助数詞 第15回 期末試験、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表(20点)、小テスト(1回、20点)、期末試験(60点)											
----- 朝鮮語(中級A)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級A）(語学)(2)

[教科書]

熊谷明泰 『アリラン』（朝日出版社）ISBN:978-4255556185

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系64

科目ナンバリング		U-LET49 29651 LJ48									
授業科目名 <英訳>		朝鮮語(中級B)(語学) Korean				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 外国語学部 教授 朴 真完			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		朝鮮語(中級)									
【授業の概要・目的】											
中級レベルの文法、発音、会話、作文、読解を学習する。主要テーマとして日韓交流の歴史を挙げ、語学だけではなく、文化・社会・歴的事情も視野に入れ、総合的に韓国・朝鮮の諸般事情について情報を与える。授業内容の理解を確認するために小テストを実施する。必要に応じて、プリント教材を配布して内容の理解を助ける。											
【到達目標】											
中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 受け身 第2回 名詞化語尾 第3回 形容詞からの派生動詞 1 第4回 形容詞からの派生動詞 2 第5回 選択否定 第6回 限定 第7回 引用 第8回 漢字語 1 第9回 漢字語 2 第10回 主要な助詞 1 第11回 主要な助詞 2 第12回 主要な語尾 1 第13回 主要な語尾 2 第14回 疑問形 第15回 期末試験、フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表(20点)、小テスト(1回、20点)、期末試験(60点)											
----- 朝鮮語(中級B)(語学)(2)へ続く -----											

朝鮮語（中級B）(語学)(2)

[教科書]

曹美庚, 林炫情, 金眞 『韓国文化を読む』（朝日出版社）ISBN:978-4255556147

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』（小学館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（初級） Ancient Egyptian and Coptic				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の基礎									
[授業の概要・目的]											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒエログリフとコプト文字を読めるようになる。 ・中エジプト語とコプト語の文法を学んでこれらの言語のテキストの基礎的な文法解析ができるようになる。 ・中エジプト語とコプト語という同一言語の異なる通時的言語変種を学び、言語変異を分析できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
エジプト語は紀元前34～32世紀頃から現代まで文字記録があり、様々な言語変種がある。											
この「古代エジプト語・コプト語（初級）」の授業では、古代エジプト語の中、古典語となった中エジプト語と古代エジプト語の解読の鍵となった、古代エジプト語の直接の末裔であるコプト語について学ぶ。											
中エジプト語は、紀元前23世紀頃から使われ、『シヌへの物語』など古代エジプト文学の白眉となる作品を多数生み出した。その後、紀元後4世紀まで、古典語として用いられ、古代エジプト文明を象徴するエジプト語の一変種となった。この言語は、ヒエログリフとヒエラティックという2種類の文字で書かれた。											
これに対して、コプト語はエジプト語の最終段階であり、ギリシア文字24文字に6#123167程度の民衆文字由来の文字を加えたコプト文字で書かれたエジプト語である。コプト語は、『トマスによる福音書』などのグノーシス主義の文献、『ケファライア』などのマニ教文献、様々な初期キリスト教の文献など、宗教学上重要な文献を多く有している言語であり、現在でもコプト・キリスト教会で典礼言語として用いられている。											
この授業では、エジプト語のこれらの2つの言語変種の文字・文法を学びながら、エジプト語の言語変化について深く分析する言語学的能力を身につける。その他、古代エジプトの歴史や宗教文化などの周辺事項についても学ぶ。											
第1回 古代エジプトとエジプト語の歴史 第2回 ヒエログリフとコプト文字（1） 第3回 ヒエログリフとコプト文字（2） 第4回 中エジプト語とコプト語の名詞 第5回 中エジプト語とコプト語の形容詞											
----- 古代エジプト語・コプト語（初級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（初級）(2)

- 第6回 中エジプト語とコプト語の前置詞
第7回 中エジプト語とコプト語の動詞
第8回 中エジプト語とコプト語の文型
第9回 中エジプト語とコプト語のその他の文法事項
第10回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（1）
第11回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（2）
第12回 コプト語『トマスによる福音書』を読む（3）
第13回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（1）
第14回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（2）
第15回 中エジプト語『難破した水夫の物語』を読む（3）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		古代エジプト語・コプト語（中級） Coptic and Ancient Egyptian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 宮川 創			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		中エジプト語とコプト語の知識を活用して古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
5,000年以上の書記記録を持つエジプト語の様々な変種の文法を学び、文法化・語彙化・音韻変化など歴史言語学で扱われる様々な事象を分析する。背景となった古代エジプトやコプトの歴史・宗教・文化についても学ぶ。											
【到達目標】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を活用して、他の古代エジプト語の変種、すなわち、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語の文法知識を身につけ、エジプト語の歴史変化をより深く分析できるようになる。											
【授業計画と内容】											
「古代エジプト語・コプト語（初級）」で学んだ中エジプト語とコプト語の知識を用いて、古エジプト語、新エジプト語、民衆文字エジプト語を学ぶ。											
古エジプト語は、主に紀元前27世紀から紀元前21世紀ころまで用いられ、最大のコーパスは第5王朝・第6王朝・第8王朝の王や王妃のピラミッドの内部にヒエログリフで刻まれている『ピラミッド・テキスト』である。古エジプト語は中エジプト語に似るが、相違点も多数ある。											
新エジプト語は、紀元前14世紀から紀元前4世紀まで用いられ、特に新王国第19王朝・第20王朝で発達した、口語に近い言語変種を書き記したものである。新エジプト語の文法は、中エジプト語の要素を残しながらも、コプト語に近くなっている。テキストのジャンルとしては、物語、恋愛詩、宗教詩などがある。											
民衆文字エジプト語は、紀元前8世紀から紀元後5世紀まで用いられ、民衆文字で表された。当時の口語をある程度反映しているものと思われ、文法はコプト語に極めて似ている。ロゼッタストーンの中段に書かれている言語もこの民衆文字エジプト語であり、物語、知恵文学から裁判記録や日常のメモや手紙など様々な文献がある。											
第1回 古エジプト語の文法（1）											
第2回 古エジプト語の文法（2）											
第3回 古エジプト語の文法（3）											
第4回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（1）											
第5回 古エジプト語『ピラミッド・テキスト』読解（2）											
第6回 新エジプト語の文法（1）											
第7回 新エジプト語の文法（2）											
第8回 新エジプト語の文法（3）											
第9回 新エジプト語『呪われた王子』読解（1）											
第10回 新エジプト語『呪われた王子』読解（2）											
----- 古代エジプト語・コプト語（中級）(2)へ続く -----											

古代エジプト語・コプト語（中級）(2)

第11回 民衆文字エジプト語の文字と文法（1）

第12回 民衆文字エジプト語の文字と文法（2）

第13回 民衆文字エジプト語の文字と文法（3）

第14回 民衆文字エジプト語『セトネ・カエムワセトの物語』読解（1）

第15回 民衆文字エジプト語『セトネ・カエムワセトの物語』読解（2）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への貢献、練習問題、課題など）60％・期末レポート40％

【教科書】

講師が用意する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習・復習となる練習問題や課題が課される。

（その他（オフィスアワー等））

研究室（文系学部校舎406室）でも質問や相談を受け付けます。月曜日2限目をオフィスアワーとします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET29 47245 SJ37									
授業科目名 <英訳>		言語学(卒論演習) Linguistics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 定延 利之 文学研究科 教授 千田 俊太郎 文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah 文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		言語学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の質の向上を目的とする。卒業予定者が自らが準備している論文について報告を行い、それに対する質疑応答、討論を通して、言語現象に関する観察力や思考力を培うとともに、言語を分析する能力を高める機会にする。											
[到達目標]											
テーマが言語学の卒論として適当であるかを判断できるようになる。自分の準備しているテーマに関してどのような方法が適当であるかがわかる。その方法に応じて、どのようなアンケート調査、実験デザイン、文献調査、フィールドワークが必要であるかがわかるようになる。卒論の構成、論理、議論が適切であるかを判断し、必要な修正ができるようになる。卒論完成の見通しが立つようになる。											
[授業計画と内容]											
卒業予定者は、各自が取り組んでいる卒業論文について、少なくとも2回の中間発表を行う。発表者はハンドアウトを用意し、当該のテーマを着想するに至った経緯、当該のテーマに関する研究史と研究史上の問題点、各自の研究の進捗状況などを説明する。発表の後に、質疑・討論を行い、さまざまな言語学的問題についての理解を深める。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業時での発表と出席状況など、平常点で評価する。											
[教科書]											
発表者が準備するハンドアウトを使用する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回目の発表の前に、テーマを確定し、基本的な調査を行い、必要な文献を理解しておくこと。基											
----- 言語学(卒論演習)(2)へ続く -----											

言語学(卒論演習)(2)

本格的な論文の構成を考えておくこと。
2回目の発表の前に一回目の発表で受けた意見を取り込み、必要な文献・フィールド調査、実験、アンケート調査を行っていること。また、提出にいたるまでの課題・展望も示すこと。

(その他(オフィスアワー等))

本年度卒業を予定している学生は必ず受講すること。
卒業予定者以外(3年生、院生)の出席も歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博 文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査入門 (社会調査士科目A)									
【授業の概要・目的】											
本講義では、社会調査の意義と限界、さまざまな方法、およびそれらに関する基本的事項を学ぶ。質的調査と量的調査の両方を含む。社会調査士科目全体への入門に当たる。											
【到達目標】											
社会調査の基本的考え方、および質的調査と量的調査の代表的な方法について理解する。											
【授業計画と内容】											
前半 7回を太郎丸、後半 8回を丸山が担当する。 1.社会調査とは何か 2.社会調査史と調査倫理 3.質的調査と量的調査 4.インタビュー調査とその事例(1) 5.インタビュー調査とその事例(2) 6.フィールドワークとその事例(1) 7.フィールドワークとその事例(2) 8.メディア分析とその事例(1) 9.メディア分析とその事例(2) 10.歴史資料の数量分析とその事例(1) 11.歴史資料の数量分析とその事例(2) 12.既存統計の利用法とその事例 13.質問紙調査とその事例(1) 14.質問紙調査とその事例(2) 15.社会調査の設計											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げるいずれかの方法により、自分で調査を設計して実施する。

(その他(オフィスアワー等))

他の社会調査士科目も受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		産業と労働社会学									
【授業の概要・目的】											
<p>産業と労働は、社会や経済の中で重要な役割を担っている。先進国において、18世紀から20世紀にかけて資本主義と製造業が大きな成長をとげ、現在は国際化とサービス産業が拡大され、さらに労働市場と雇用システムに様々な変化が起こっている。労働はモノやサービスを生産する経済的役割を果たしていると思われがちだが、社会的にはそれだけとは言えない。産業と労働は政治、市場、教育、社会階層などにも影響を与える。</p> <p>本授業では、「経済社会学」の観点から、労働と産業の経済・社会・政治的役割を考察する。日本の労働市場と雇用システム、欧州連合と労働問題、自動車産業の労働市場形成、サービス産業と就業形態の多様化、賃労働と福祉レジームの変化、などのケーススタディにおいて、産業と労働の社会的形成とその役割を学ぶことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本授業では、様々な事例を取り上げ、ディスカッションを交えながら産業・労働社会学の基本的な知識が得られる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 産業と労働社会学のアプローチ 第2回 雇用システムと労使関係 第3回 企業内労働市場の形成 第4回 日本型雇用システム 第5回 日本労働市場の形成 第6回 日本労働市場の変容 第7回 賃金格差と社会階層の変化 第8回 サービス産業の展開と就業形態の多様化 第9回 賃労働と福祉レジームの形成・課題 第10回 失業と非正規雇用の国際比較 第11回 欧州連合単一市場の形成と労働問題 第12回 フランスの雇用システム・賃金・労使関係 第13回 自動車産業と労働市場の国際比較 第14回 授業のまとめ 第15回 フィードバック</p> <p>受講生の関心により内容を変更することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点とレポートによる

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義で使用する説明資料は事前に配布します。授業までに読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系70

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期近代の政治・経済・文化(ドイツ書講読)									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に続いて「後期近代」の政治・経済・文化の構造的諸問題を論じたアンドレアス・レクヴィッツの近著のいくつかの章(ないし節)を精読し、現代の先進社会に共通する諸問題がドイツではどのように論じられているのか、日本とも比較しながら考察する。テキストの著者レクヴィッツは現在ドイツにおいて最も注目を集めている社会学者の一人で、現代社会論や文化社会学の分野で高く評価されている。</p> <p>受講者は毎回1人ずつ自分の担当箇所(1回につき1ページから2ページ程度)について日本語訳と用語解説等を用意し、レジュメを配布して報告する。他の出席者も予習してきた上で報告内容について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>ドイツ語の社会学文献の読み方を習得するとともに、現代社会への社会的アプローチについて学習する。辞書を引きながら独力で社会学のドイツ語文献を正確に読解できる能力の習得を目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の趣旨説明、テキストの紹介、担当者の割り当て等。</p> <p>第2回～第14回 テキストの輪読 毎回約1～2ページずつ読み進める(分量は受講者の語学力に応じて調整する)。</p> <p>第15回 まとめ 学習した重要な事項について総括する。</p>											
【履修要件】											
<p>前年度までにドイツ語の授業を少なくとも初級、できれば中級まで履修していること。社会学の知識は必要ない。また、後期からの受講も可能である。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>基本的には平常点(報告レジュメ)によって評価する。ただし、受講生が多い場合には試験を実施することもある。</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

Andreas Reckwitz 『Das Ende der Illusionen. Politik, Ökonomie und Kultur in der Spätmoderne』 (Suhrkamp Verlag, 2019) ISBN:978-3-518-12735-3 (授業で取り上げる章のコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

https://www.suhrkamp.de/buecher/das_ende_der_illusionen-andreas_reckwitz_12735.html(出版社によるテキストの紹介サイト)

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者には毎回読み進める箇所を予習してくることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 社会学部 教授 奥村 隆			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		知と境界性・周縁性・他者性									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、「知と境界性・周縁性・他者性」というテーマを軸として、知・知識・知識人と社会の関係を考える。エドワード・サイードは『知識人とは何か』で、「知識人とは亡命者にして周縁的存在であり、またアマチュアであり、さらには権力に対して真実を語ろうとする言葉の使い手である」と述べている。たとえば1929年の『イデオロギーとユートピア』で「知識社会学」をはじめて展開したカール・マンハイムはハンガリーからドイツへの亡命者だったし（さらにイギリスに二重亡命した）、1933年のナチスの政権奪取によって多くの知識人がヨーロッパ大陸からアメリカやイギリスに亡命し、そこで新たな知的活動を開始した。彼らは社会のどこに生きてその「知」を生産したのか。「知」とは彼らにとってなんだったのか。この講義では、前半でこうした亡命者＝知識人について検討を進めてみたい。後半では「創造性」をめぐるインターミッションをはさんだのち、ふたつの社会の間に生きた「境界人」としてのモーツァルト、漂泊を論じた柳田国男、転向を論じた鶴見俊輔などの日本の知識人について考え、私たちにとって「知」をはなにか、を考える手がかりをつかむことができればと思う。授業計画は準備の状況によって変更がありうる。</p>											
【到達目標】											
<p>社会のなかに生きた知識人たちの事例を知ることを通して、知識と社会の関係についての社会的な理解を修得するとともに、レポート作成によって具体的な事例を踏まえて「知識」について自ら考える能力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 大渦のなかの漁師 2. ふたりの知識人 ロバート・ベラーと丸山眞男 3. 亡命と知識社会学 カール・マンハイム 4. 「文明化」の過程 ノルベルト・エリアス(1) 5. 身体・暴力・スポーツ ノルベルト・エリアス(2) 6. アメリカへの亡命者たち ラザースフェルドとアドルノ 7. ナチズムの社会心理 アドルノとフロム 8. 「悪の陳腐さ」と「複数性」 ハンナ・アーレント 9. 不調和からの創造性 シェイクスピアとベイトソン 10. 境界人としてのモーツァルト 『フィガロの結婚』 11. ふたつの赦しなき世界 『ドン・ジョヴァンニ』と『コジ・ファン・トゥッテ』 12. 漂泊と定住 柳田国男 13. 「転向」の知識社会学 鶴見俊輔 14. むすびにかえて 反知性主義の時代に 15. フィードバック 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート70%、授業時のコメントペーパー30%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

奥村隆 『エリアス・暴力への問い』(勁草書房) ISBN:4-326-65253 (2001年)

奥村隆 『反コミュニケーション』(弘文堂) ISBN:978-4335501357 (2013年)

奥村隆 『社会学の歴史 社会という謎の系譜』(有斐閣) ISBN:978-4-641-22039-3 (2014年)

奥村隆 『社会はどこにあるか 根源性の社会学』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623080205 (2017年)

奥村隆 『反転と残余 社会の他者 としての社会学者』(弘文堂) ISBN:978-4623080205 (2018年)

奥村隆 『慈悲のポリティクス モーツァルトのオペラにおいて、誰が誰を赦すのか(仮題)』(岩波書店)(近刊予定)

上記以外の参考文献は授業時に指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習は不要。講義で指示する参考文献、とくに興味をもった知識人の著作を読むことが望ましい。期末レポート作成には検討対象となる文献を精読するなど、早い時期からの準備が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 社会学部 教授 奥村 隆			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会学の理論的思考法									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学固有の理論的思考法とはいかなるものか。この授業では、これをふたつのアプローチから検討していく。第一に、20世紀に新たな理論的地平を切り開いた4人の社会学者、アーヴィング・ゴフマン、ミシェル・フーコー、ピエール・ブルデュー、ニクラス・ルーマンについて担当者が話題提供し、その思考法について議論する。第二に、受講生が現在自分が進めている研究の内容について報告し、それを素材にしてどのようにすれば社会学的思考法を実践できるかを、担当者のコメントを踏まえて討論していく。このふたつのバランス、および以下の授業計画は、受講生の人数や希望によって変更がありうる。</p>											
【到達目標】											
<p>20世紀の社会学者の理論的検討および受講生の研究の実践的検討を通して、社会学の理論的思考法を修得し、自らの研究に応用できる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会学における「世代」 3. アーヴィング・ゴフマンの思考法 4. 研究報告と討論(1) 5. 研究報告と討論(2) 6. ミシェル・フーコーの思考法 7. 研究報告と討論(3) 8. 研究報告と討論(4) 9. ピエール・ブルデューの思考法 10. 研究報告と討論(5) 11. 研究報告と討論(6) 12. ニクラス・ルーマンの思考法 13. 研究報告と討論(7) 14. 研究報告と討論(8) 15. フィードバック 											
【履修要件】											
<p>自らのテーマでの研究(ゼミ論文、卒業論文など。準備段階でもかまわない)を進めており、この授業でその内容について報告を行うことが可能なこと。また、同担当者の「社会学(特殊講義)」(前期)を受講していることが望ましい(履修要件とはしない)。</p>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業内での報告・発言60%、期末レポート40%。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内での研究報告、期末レポートのために、十分な準備が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 金澤 悠介			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		基本的な統計資料とデータの分析(社会調査士科目C)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、社会調査や官庁統計などで得られたデータ(数量的データ)を分析する際に必要となる、基礎的な統計学の知識(記述統計)を教えます。具体的には、数量的データの特徴とその作成方法について簡単に解説した上で、一変数の情報を記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標、ジニ係数、箱ひげ図など)、二変数間の関係を分析する方法(クロス集計表、相関係数、回帰分析など)を解説していきます。なお、本講義は社会調査士科目Cに対応する科目です。											
【到達目標】											
本講義の到達目標は以下の4つです。 01. 数量的データの特徴とその分析方法を理解する 02. 一変数の情報を適切に記述する方法(度数分布表、代表値、散布度の指標など)を理解する。 03. 二変数の関係を適切に分析する方法(クロス集計表、相関係数など)を理解する。 04. 1~3をつうじて、統計分析を含んだ情報(マスコミ・専門論文)を適切に評価できるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の授業内容を組んでいます。ただし受講生のスキル、理解度に応じて順序や回数を変えることがあります。											
01. なぜ統計学を学ぶのか?(社会調査と統計分析、市民的教養としての統計学) 02. データのとりかたI:社会調査の概要(量的調査と質的調査) 03. データのとりかたII:量的調査法の基本発想(量的調査と統計学の関係) 04. データのとりかたIII:量的調査の方法(調査票とデータセットの作成) 05. データのもつ情報をまとめるI:度数分布表と代表値(平均値、中央値、最頻値) 06. データのもつ情報をまとめるII:散布度の指標(分散、標準偏差、四分位偏差) 07. 分布を比較する(標準化、偏差値、ジニ係数、箱ひげ図) 08. 2つの変数の関係を分析するI:変数の関係とは?(変数間の関連の意味、相関関係と因果関係) 09. 2つの変数の関係を分析するII:二重クロス集計表 10. 2つの変数の関係を分析するIII:属性相関の指標(オッズ比、ファイ係数、クラマーのV) 11. 2つの変数の関係を分析するIV:相関係数(散布図、ピアソンの積率相関係数) 12. 2つの変数の関係を分析するV:単回帰分析 13. 擬似相関と変数の統制I:擬似相関と変数の統制(擬似相関、変数の統制、三重クロス集計表、偏相関係数) 14. 擬似相関と変数の統制II:因果関係について推論する(因果推論、実験とリサーチデザイン) 15. より高度な統計分析に向けて:推測統計学と多変量解析											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業中に出す課題（45点 = 15点 × 3回）と期末レポート（55点）で成績を評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

廣瀬毅士・寺島拓幸 『社会調査のための統計データ分析』（オーム社）ISBN:4274067637

神林博史 『1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方』（ミネルヴァ書房）ISBN:4623075702

久米郁男 『原因を推論する - 政治分析方法論のすゝめ』（有斐閣）ISBN:4641149070

【授業外学修（予習・復習）等】

予習は基本的に必要ありませんが、統計ソフトを用いた実習（Excelなど）を含むので、適宜課題に応じて復習が必要となります。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 牟田 和恵			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		性暴力・セクハラとジェンダー									
【授業の概要・目的】											
<p>日本でのセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の問題化から30年以上が経過し防止の制度化も進んだ。また、2017年以降の#MeToo運動によってセクハラや性暴力問題への関心は一定広がったと言える。しかし、実際のところ、セクハラや性暴力についての現実的な理解はいまなお進んでおらず、法的・社会的取り組みも遅々たるものである。</p> <p>講義ではこうした状況について理解を深め、その背後・深層にあるものは何かを考えていく。</p>											
【到達目標】											
性暴力やセクハラ問題について深く理解できる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「性暴力」とは何か(1) 3. 「性暴力」とは何か(2) 4. 「性暴力」とは何か(3) 5. 「性暴力」とは何か(4) 6. 性表現と性暴力(1) 7. 性表現と性暴力(2) 8. 性表現と性暴力(3) 9. 性表現と性暴力(4) 10. 性表現と性暴力(5) 11. セクハラ：問題化の歴史と現在(1) 12. セクハラ：問題化の歴史と現在(2) 13. セクハラ：問題化の歴史と現在(3) 14. セクハラ：問題化の歴史と現在(4) 15. セクハラ：問題化の歴史と現在(5) <p>詳しい授業スケジュールは開講時に示すが、受講生の反応を見ながら進めていく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回のコメントカードによる）(40%)と、期末レポート(60%)によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

牟田和恵編 『架橋するフェミニズム---歴史・性・暴力』（松花堂書店、2017）ISBN:978-4-87974-740-2（無料電子書籍版 [info:doi/10.18910/67844](https://doi.org/10.18910/67844)）

牟田和恵 『部長、その恋愛はセクハラです！』（集英社、2013）ISBN:978-4-08-720696-8（電子版もあります）

そのほかの参考文献は授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献を読み授業に備えること。

（その他（オフィスアワー等））

講義テーマの性格上、暴力的な表現や事件を授業で取り上げることがあります。文脈がよくわかるような提示の仕方をしますが、見たくない方は退出してかまいません。それが評価に関わることは一切ありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系75

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		農学研究科 教授 秋津 元輝			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		農村と農業の社会学									
【授業の概要・目的】											
国内および国外を対象として、農村社会および農業世界は現在どのように変化し、どのような課題を抱え、それらをどのように研究すればよいのかについて考える。日本の農村・農業については、その分析のための基礎概念を紹介するとともに、自らの調査・研究経験をふまえた研究例を解説する。写真などを利用し、できるかぎり具体的に解説したい。											
【到達目標】											
日本を中心としてアジア、欧米も視野に入れつつ、農村社会の特徴と現代的課題について、その理論と研究課題が理解できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>< 現代農村研究の最前線 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代食農社会学を学ぶ意義 2. 現代における農村の社会的構築 3. Iターン研究と戦後史 4. Iターンの現状と移住後の変化 5. 農村ジェンダー研究 6. 農村ジェンダーの戦後史 7. 先進国の農村社会論：欧州 8. 先進国の農村社会論：米国 9. 農水省における農村政策の展開 <p>< 日本農村研究の理論 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 家（いえ）の理論 11. 村（むら）の理論 - 集団からの接近 - 12. むらと領域 - 保全との接続 - <p>< 現代農村のサバイバル ></p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 出会いと交流：都市農村交流のデザイン 14. 集落の存続問題と地域再生 15. 予備日・フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

基本的に各授業時に実施する小レポート（30%）
期末試験（70%）

[教科書]

使用しない。資料を毎回配布する。

[参考書等]

（参考書）

日本村落研究学会編 『むらの社会を研究する』『むらの資源を研究する』（農山漁村文化協会、2007年）

小池・新山・秋津編 『キーワードで読みとく現代農業と食料・環境』（昭和堂、2011年）

秋津・藤井・渋谷・大石・柏尾 『農村ジェンダー 女性と地域への新しいまなざし』（昭和堂、2007年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介する文献を読むことにより、講義内容を復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は秋津(akitsu@kais.kyoto-u.ac.jp)に、第三希望までの希望日時と、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀大学データサイエンス学部 伊達 平和 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査の意義と作法 (社会調査士資格認定科目 B)									
【授業の概要・目的】											
質問紙調査は、社会に関するデータ収集の方法として、官民間問わず多くの現場で必要不可欠なものとなっているが、正しい方法を理解していないと求める結果を得ることはできない。また、標本調査に関する正しい知識は、他人の論文・レポートを読む際に必要不可欠である。本授業では、標本調査を適切に実施し、正しい結論を得ることができるようになることを目的とする。授業内で質問票の作成を行いGoogle form, ExcelとRを利用する。											
【到達目標】											
標本調査を実施するために必要となる、調査設計・標本抽出・調査票作成・データ収集・データ集計・結果解釈の手法を理解できることを到達目標とする。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 社会調査の基礎知識 : 質的調査と量的調査 3 社会調査の基礎知識 : 調査の手順と調査の設計 4 文献調査と統計調査 5 理論仮説と作業仮説 6 調査票の構成と質問文の作り方 7 質問票を用いた様々な測定方法の紹介 : 社会編 8 質問票を用いた様々な測定方法の紹介 : 心理編 9 Google formを用いた質問票の作成実習 10 Google formを用いた質問票の作成実習 11 サンプルングと標本誤差 12 調査実務 : 予算管理、プリテストと実査、調査票の配布と回収 13 調査データの整理 : コーディングとクリーニング 14 Rを用いた集計と結果の解釈 15 Rを用いた集計と結果の解釈 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間でレポート(30%) + 最終のレポート試験(50%) + 平常点(20%) を基本とするが、授業の進度に応じて調整をする可能性がある。											
【教科書】											
伊達平和・高田聖治 『社会調査法』(学術図書出版) ISBN:978-4-7806-0704-8											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

社会調査関係の多くの教科書が出版されている。授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

Google form, ExcelとRを利用した実習を行う。実習は授業内でも行うが、授業外での復習が必要不可欠である。

(その他(オフィスアワー等))

授業形態ならびに授業実施場所(情報処理の教室など)を変更する場合がありますので、大学からの連絡をこまめに確認すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 岡邊 健			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査における多変量解析の利用 (社会調査士資格認定科目 E)									
【授業の概要・目的】											
量的な社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法の考え方とその利用方法について学習する。3元クロス表の分析(エラボレーション)、分散分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析等について、順次解説する。											
【到達目標】											
多変量解析の考え方と利用法を身につけ、統計ソフトウェアによる解析を行なうことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 統計ソフトウェアSPSSの操作の基本 3. 推測統計の復習 4. 2元クロス表と関連の指標 5. 3元クロス表の分析(1) 見せかけの関係 6. 3元クロス表の分析(2) 媒介変数による解釈 7. 分散分析 8. 相関と単回帰分析 9. 重回帰分析(1) その基本 10. 重回帰分析(2) 決定係数、偏回帰係数の検定 11. 重回帰分析(3) ダミー変数、多重共線性 12. ロジスティック回帰分析 13. 回帰分析の総合演習 14. 主成分分析 15. 復習とまとめ 											
【履修要件】											
社会調査士科目 A B C D を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の提出物(20%) + 定期試験(50%) + 最終レポート(30%) これらにより、到達目標について、文学部の評価方針に従って評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の中では実際の調査データを用いた演習を行なうが、事後の復習がなければ習得は容易ではない。毎回の復習に、少なくとも1時間程度の時間は割いてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解し、その視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1-2回 メディア社会とは何か</p> <p>第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究</p> <p>第4回 メディア都市の成立</p> <p>第5章 出版資本主義と近代精神</p> <p>第6回 大衆新聞の成立</p> <p>第7回 視覚人間の国民化</p> <p>第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア</p> <p>第9回 ラジオとファシスト的公共性</p> <p>第10回 トーキー映画と総力戦体制</p> <p>第11回 テレビによるシステム統合</p> <p>第12回 情報化の未来史</p> <p>第13回 脱・情報社会へ</p> <p>第14回 総論・試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

[教科書]

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波書店）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

[参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN: 9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN: 9784004317647（メディア・リテラシー関連を中心に）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>（メディア文化論研究室HP）
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>（佐藤卓己研究室）

[授業外学修（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア論の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系79

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 吉田 純			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		情報ネットワーク社会論									
【授業の概要・目的】											
ハーバーマス、ギデنز、ベック、ルーマンらの社会理論を基本的な枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。											
【到達目標】											
現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
以下の計画で15週の講義をおこなう。											
1 オリエンテーション											
2 情報ネットワーク社会への視点											
3 日本社会の情報化 情報化の現代史(1)											
4 アメリカ社会の情報化 情報化の現代史(2)											
5 監視社会論 社会システムの情報化(1)											
6 リスク社会論 社会システムの情報化(2)											
7 経済システムの情報化 社会システムの情報化(3)											
8 ネット空間の展開 生活世界の情報化(1)											
9 再帰的近代化としての情報化 生活世界の情報化(2)											
10 生活世界のリアリティの再構築 生活世界の情報化(3)											
11 公共圏の情報化											
12 親密圏の情報化											
13 公共圏/親密圏の再編成											
14 情報ネットワーク社会論の再構築											
15. フィードバック (PandA上で実施)											
【履修要件】											
社会学関係の全学共通科目または学部での概論科目を履修していることが望ましい											
【成績評価の方法・観点】											
素点(100点満点)で評価する。											
・ 平常点(40点)+期末レポート(60点)											
・ 平常点は、PandAまたはTwitterを用いた課題の提出による											
(詳細はオリエンテーションで説明)											
・ 素点に基づき、到達目標の達成度を、文学部の評価基準に従って評価する											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ PandA上で事前配布する資料を予習しておくこと
- ・ 資料の当日配布は行わないので、必ず各自で事前にダウンロードし、講義当日持参すること(必ずしも印刷の必要はない)
- ・ PandAサイトで復習用課題を実施する(詳細は初回授業で説明)

(その他(オフィスアワー等))

PandAサイトを上記の課題実施ほか、授業に関する各種連絡に活用する(利用方法は初回の授業で説明)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系80

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 准教授 岡邊 健			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		非行の社会学									
【授業の概要・目的】											
少年非行を題材に、現代社会（とりわけ現代日本社会）について社会的に考察する構えを身につけるための講義です。犯罪社会学の方法、非行の測定法、非行の原因・要因に関する学術的説明、非行少年への処遇、非行対策のあり方等について概説します。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・少年非行の原因や要因に関する理論的・実証的研究の動向を理解する。 ・犯罪・非行の統制の態様とその前提となる考え方を理解する。 ・犯罪学や犯罪社会学の研究方法を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 非行とは何か 2 犯罪社会学の方法 3 非行の測定 4 公式統計でみた非行 5 非行の原因・要因(1)緊張理論 6 非行の原因・要因(2)学習理論とコントロール理論 7 非行の原因・要因(3)ラベリング論 8 非行の原因・要因(4)最新の研究動向 9 少年非行に関する報道と社会意識 10 少年事件の法的手続き(1)警察・家庭裁判所での対応 11 少年事件の法的手続き(2)少年鑑別所での対応 12 非行少年の処遇(1)少年院での処遇 13 非行少年の処遇(2)少年刑務所での処遇 14 非行少年の処遇(3)保護観察 15 最終試験 16 フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>【評価方法】 最終試験（80%）、平常点評価（20%） 平常点評価には、講義中に課す小レポートの評価を含みます。</p> <p>【評価方針】</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

到達目標について、文学部の成績評価の方針に沿って評価します。

[教科書]

岡邊健編 2020 『犯罪・非行の社会学 常識をとらえなおす視座〔補訂版〕』（有斐閣）ISBN: 9784641184534

教科書はかならず事前に入手しておいてください。

[参考書等]

（参考書）

岡邊健 2013 『現代日本の少年非行 その発生態様と関連要因に関する実証的研究』（現代人文社）ISBN:9784877985684

岡本英生・松原英世・岡邊健 2017 『犯罪学リテラシー』（法律文化社）ISBN:9784589038616

浜井浩一編 2013 『犯罪統計入門 犯罪を科学する方法〔第2版〕』（日本評論社）ISBN: 9784535519619

上記のほか、講義のなかで示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

講義の中で教科書を用いますが、教科書の全内容には言及できません。教科書の指定箇所を読んでおくよう講義のなかで伝えます。復習と発展的学習の意味がありますので、必ず読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 哲彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語をめぐる調査研究とディスコースの分析(社会調査士科目F)									
【授業の概要・目的】											
本講義は質的分析を行う方法に関するものである。とくに参与観察やインタビューなどの質的調査で得られたデータの分析方法について言語使用という根本的な観点から解き明かし、とくに社会学的研究で有用であるナラティブ分析やディスコース分析の特徴とその実践方法について検討する。それらを踏まえて質的分析の基礎を習得することが目的である。											
【到達目標】											
質的調査で得られたデータを分析する際の分析方法の基礎を習得すること。											
【授業計画と内容】											
第1回 質的調査と質的分析 第2回 どうして社会学において言語が調査研究の論点となるのか(1) 第3回 どうして社会学において言語が調査研究の論点となるのか(2) 第4回 言語をめぐる調査研究と倫理(1) 第5回 言語をめぐる調査研究と倫理(2) 第6回 質的調査の実践 第7回 参与観察とインタビューの分析(1) 第8回 参与観察とインタビューの分析(2) 第9回 ナラティブ分析(1):系譜と概要 第10回 ナラティブ分析(2):分析例の検討 第11回 ディスコース分析(1):系譜と概要 第12回 ディスコース分析(2):分析例の検討 第13回 ディスコース分析(3):分析例の検討 第14回 ディスコース分析(4):分析例の検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(50%) 平常点(50%)											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次の回の課題となる文献等を読んで、自分の考えをまとめておく。課題が出された場合には忘れずに行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 溝口 佑爾			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会調査のための統計学(社会調査士科目D)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)に対応している。社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計的な手法について、その原理と適用方法を修得することが本講義の目的である。確率分布とモーメント母関数に関する理解を下地とし、中心極限定理およびその応用としての推測統計(区間推定と仮説検定)について解説する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査に必要な統計学の基礎を修得する。 ・統計解析がどのような原理に基づいているのかを理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 データの縮約と記述統計 変数と尺度 データの縮約</p> <p>第2回-第8回 確率変数と確率分布 離散型の確率分布 確率変数 1変数の記述統計 2変数の記述統計 離散変数と連続変数 連続型の確率分布 正規分布と連続型の確率分布 モーメント母関数 大数の法則と中心極限定理 母集団と標本</p> <p>第9回-第14回 推測統計 推測統計の発想 区間推定 仮説検定 回帰分析と相関係数 重回帰分析 多変量解析の意義</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

高校卒業程度の数学の知識を有していることが前提である。

【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）と平常点（小テスト：20％）による。

【教科書】

盛山和夫 『社会調査法入門』（有斐閣）ISBN:978-4641183056
馬場敬之 『統計学キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151021

【参考書等】

（参考書）

石井俊全 『意味がわかる統計学』（ペレ出版）ISBN:978-4860643041
石井俊全 『意味がわかる多変量解析』（ペレ出版）ISBN:978-4860643980
篠原清夫・榎本環・大矢根淳・清水強志 『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』（弘文堂）ISBN:978-4335551338
馬場敬之 『微分積分キャンパス・ゼミ』（マセマ）ISBN:978-4866151281

【授業外学修（予習・復習）等】

復習をして、分からないことがあれば次の授業時に遠慮なく申し出ること。

（その他（オフィスアワー等））

質問・連絡等はy.mizo@kansai-u.ac.jpまで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の前半（第1・2章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系84

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の後半（第3・4章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系85

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 都留 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
中国近代社会史研究で知られる王笛の論説を読む。インタビュー、エッセイ、短編の学術論文へと、徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な中国文化と社会の実態を掘削し理解してゆくための手掛かりを提供したい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・現代中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・社会史の方法論の基礎を身につける。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-15回 講読											
[履修要件]											
独学でもかまわないので、初級中国語の知識を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する）											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系86

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 都留 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
<p>台湾で新世代のジェンダー史研究を代表する人物として知られる梁秋虹の文章を読む。彼女は、日本統治期台湾の性産業、性病、ヤクザ等について興味深い研究を数多く著す一方で、M・フーコーの権力論の応用を試みており注目される。また、映画評論や現代の社会運動にかんするエッセイなど、幅広いテーマを手掛けている。</p> <p>簡単なものから徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な台湾社会を理解してゆくための手掛かりを提供したい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・ 台湾近現代史およびジェンダー論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2-14回 講読（日本語訳、文法的説明、背景説明）</p>											
[履修要件]											
自習でも構わないので中国語初級を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。受講者は毎回一度は現代中国語で読み上げ、日本語訳せねばならない。毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する。											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
前期と後期で取り上げる文章は異なるので、後期のみの受講も認める。ただし、中国語に苦手意識があるようであれば、まず前期に受講することを推奨する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 柴田 悠			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人間行動論 (Human Behavior)									
[授業の概要・目的]											
<p>この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ 身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？ そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？</p> <p>「幸せ」という概念は「本人がそうありたいと望む状態」として使われることが多い。そのため、上記の問いは、人間行動についての究極的な問いの一つといえる。</p> <p>そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者とともに上記の問いへの答えを考究する。 (なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学I」・後期「社会学II」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。多角的な理解を深めるためには「社会学I」「社会学II」の受講も推奨する。)</p>											
[到達目標]											
人間行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>毎回、主に担当教員（柴田）の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて、順を追って詳しく紹介していく。</p> <p>その際、参考として以下の内容も必要に応じて紹介する（ただし授業回とテーマの対応は目安であり、受講者の状況などに応じて順番や内容を変更する可能性がある）。</p> <p>また、一方的な講義にならないように、全体討論やグループディスカッションなども適宜行う。</p>											
<p>第1回 研究とは何か</p> <p>第2回 現在の幸福研究（1）</p> <p>第3回 現在の幸福研究（2）</p> <p>第4回 どうしたら幸せに生きられるのか（1）遺伝子と行動 PDFテキスト第11章11.1～11.2</p> <p>第5回 どうしたら幸せに生きられるのか（2）環境と社会保障 PDFテキスト第11章11.3～11.5</p> <p>第6回 社会保障の起源（1） 『子育て支援と経済成長』第4章114～133頁（PDF配布）</p> <p>第7回 社会保障の起源（2） 『子育て支援と経済成長』第4章134～149頁（PDF配布）</p> <p>第8回 社会保障の効果（1） 「子どもの貧困と子育て支援」191～207頁（PDF配布）</p> <p>第9回 社会保障の効果（2） 「子どもの貧困と子育て支援」207～217頁（PDF配布）</p> <p>第10回 社会保障の未来（1） 内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）</p> <p>第11回 社会保障の未来（2） 内閣府「選択する未来2.0」講演資料（PDF配布）</p> <p>第12回 AIと社会の未来（1） 「不可知性の社会」244～260頁（PDF配布）</p> <p>第13回 AIと社会の未来（2） 「不可知性の社会」260～272頁（PDF配布）</p> <p>第14回 これからの社会をどう生きるか、どう変えるか</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明）</p>											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末レポート(100点満点)によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

柴田悠 『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』(勁草書房) ISBN:4326654007 (社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

柴田悠 『子育て支援と経済成長』(朝日新聞出版) ISBN:4022737069 (朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んでおくこと。事前に文献を読んでいることを前提に講義を進める。文献が指定されていなければ、次回の内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。また、学期末レポートの執筆にむけて、適宜学習を進めておくこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、講義中かPandAフォーラムで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

(その他(オフィスアワー等))

総合人間学部、人間・環境学研究科、文学研究科と共通の授業。

履修人数をグループディスカッションに適した人数に制限する可能性がある。

また、Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業を行う場合は、履修者全員がそれに参加可能な通信環境(例:通信容量制限なしに安定したビデオ通話ができる環境)にあることを前提に授業を進める。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Asian Families and Intimacies: Intra-regional Diversity and Transcultural Dynamics									
【授業の概要・目的】											
<p>To date, the research work of Asian scholars on their respective societies has typically been relayed to other areas of Asia through European and North American academic circuits. This mediated communication has not only produced a significant distortion in focus, but has also resulted in a failure to appreciate the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the differences of emphasis and orientation among them. The ‘ Asian Families and Intimacies ’ series, the textbook used in this course, has been planned by the Asian researchers from 9 societies who have been collaborating with Kyoto University Asian Studies Unit (KUASU) for years as the first realization of a larger project, entitled ‘ Asian Intellectual Heritage ’, designed to collect, translate and share important and influential writings that are key texts of the academic and intellectual heritage of societies across Asia. The editors have decided to launch this ambitious project with a series on families and intimacies because ‘ the family ’ has typically been attributed a special cultural value in Asian societies.</p> <p>This course will enable students with diverse backgrounds to engage directly and unmediatedly with the insights into the key issues of our times from the ‘ insiders ’ perspective ’ of Asian intellectuals and provide them chances to discuss with each other and contribute to imagining the foundation on which future collaborations across the Asian region can be built.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) To learn about the shared intellectual heritage of the different societies of the Asian region as well as the huge historical and contemporary diversity both in theory and in practice.</p> <p>(2) To liberate ourselves from Orientalism and self-Orientalism so as to better understand ourselves and our neighbours and redefine our and their places in a changing world.</p> <p>(3) To understand the varying and intersecting processes of ‘ Sinicization ’, ‘ Sanskritization ’, ‘ Modernization ’, and ‘ Globalization ’ across the Asian region as well as more local transcultural dynamics.</p> <p>(4) To learn about changes in the family and intimate relations which are of deep and pressing concern in the Asian region today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>0. Introduction [1 week]</p> <p>1. Families, Ideologies and the States [2 weeks]</p> <p>2. Varieties of Patriarchy and Patrilineality [2 weeks]</p> <p>3. Sexual Modernities and Transforming Intimacy [2 weeks]</p> <p>4. Marriage Formation [2 weeks]</p> <p>5. Care and Familialism Reconsidered [2 weeks]</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

- 6. Gender Roles and Identities [2 weeks]
- 7. Conclusion [1 week]
- 8. Feedback [1 week]

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Oral presentation (30%), final report (40%), participation (30%).

【教科書】

OCHIAI Emiko and Patricia UBEROI eds. 『Asian Families and Intimacies』 (Sage, 2021)
' Asian Families and Intimacies ' (4 volumes) edited by the researchers from nine Asian societies (Thailand, Korea, India, Vietnam, Japan, the Philippines, Taiwan, China and Indonesia) and published from Sage in 2021.

1. Family Ideology [edited by Thanee WONGYANNAVA (Thammasat University, Thailand)]
2. Patriarchy [edited by EUN Kisoo (Seoul National University, South Korea)]
3. Sexuality [edited by Patricia UBEROI (formerly, Institute of Economic Growth, Delhi, India)]
4. Marriage [edited by NGUYEN Huu Minh (Vietnamese Academy of Social Sciences)]
5. Care Regimes [edited by OCHIAI Emiko (Kyoto University, Japan)]
6. Gender [edited by Carolyn SOBRITCHEA (University of The Philippines)]

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the textbooks and preparing for the oral presentations.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Welfare Regime and Cross-Border Migration									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force, but also accepting migrants, domestic workers in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familism in Asian countries justified maintenance of “ family value ” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic worker as an extra family member. Sometimes this familism triggered cross border marriage for the formation of family welfare and this became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries also borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, divergence of welfare regime of Asian countries is observed.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>A detailed plan for each class may be changed depending on the participants. The contents of the course include the following classes.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Economic development in Asia 2. Demographic change 3. Diversity of political system 4. Development and migration 5. Feminization of labor and migration 6. Ageing and migration 7. Population policy and marriage migration 8. Social integration/multicultural policy 9. Logic of human rights and migration 10. Policy of sending countries 11. International labor market formation 12. International collaboration and mutual benefit 13. Welfare Regime / Familism 14. Pandemic and migration 15. Conclusion 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

reflection papers(50%) and term paper(50%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestic Workers and New Rich Employers in Taiwan, Durham and London: Duke University Press.

Parre#241as, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014, " Approaches to the study of globalization, " Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

【授業外学修（予習・復習）等】

readings and reaction comments are important.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp

を通じてアポを取ること。(@)indicates@

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系90

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 教授 広井 良典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代社会論演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会に関する様々なテーマについて、以下のような視点の統合を重視しながら考えていきたい。 1) 「人間」についての探求と「社会」に関する構想、2) 原理的な次元（哲学、思想等）と現実的な次元（公共政策、社会システム、現実社会の動き、実践等）、3) ローカル（地域的）- グローバル（地球的）- ユニバーサル（宇宙的・普遍的）。なお、「文・理」融合的な視点や長い時間軸も重視する。</p>											
【到達目標】											
<p>現代社会における諸課題あるいは人間という存在について、原理にさかのぼった考察を行いつつ、同時にそれを具体的な政策・社会システムと結びつけ、オリジナルな構想や提言に展開できる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>上記の観点から、現代社会論に関わる書物や論文を読み、議論をする。また、現代社会論にかかわる関心事について受講者に報告してもらう。 具体的なテーマと取り上げる書物や論文については、受講者と相談の上、決める。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 現代社会論概観 第3回 同続き 第4回 コミュニティ（1） 第5回 同（2） 第6回 資本主義 / ポスト資本主義と新たな社会構想（1） 第7回 同（2） 第8回 社会保障と福祉国家（1） 第9回 同（2） 第10回 人口減少社会と地域再生、都市・まちづくり（1） 第11回 同（2） 第12回 科学技術のゆくえと人間（1） 第13回 同（2） 第14回 まとめと評価 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特にないが、積極的に発表、および議論に参加すること</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各学期に取り上げる課題図書5冊程度の小レポートを含む）70%および期末レポート30%により評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

広井良典 『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』（岩波新書）

広井良典 『人口減少社会のデザイン』（東洋経済新報社）

[授業外学修（予習・復習）等]

課題テキストを読みレポートを作成すること及び自らの関心のあるテーマについてのレジюме等の作成。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系91

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 教授 広井 良典			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代社会論演習									
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会に関する様々なテーマについて、以下のような視点の統合を重視しながら考えていきたい。 1) 「人間」についての探求と「社会」に関する構想、2) 原理的な次元（哲学、思想等）と現実的な次元（公共政策、社会システム、現実社会の動き、実践等）、3) ローカル（地域的）- グローバル（地球的）- ユニバーサル（宇宙的・普遍的）。なお、「文・理」融合的な視点や長い時間軸も重視する。</p>											
【到達目標】											
<p>現代社会における諸課題あるいは人間という存在について、原理にさかのぼった考察を行いつつ、同時にそれを具体的な政策・社会システムと結びつけ、オリジナルな構想や提言に展開できる能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>上記の観点から、現代社会論に関わる書物や論文を読み、議論をする。また、現代社会論にかかわる関心事について受講者に報告してもらおう。具体的なテーマと取り上げる書物や論文については、受講者と相談の上、決める。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回 現代社会論概観 第3回 同続き 第4回 ケアをめぐる諸課題（1） 第5回 同（2） 第6回 超長期の歴史把握と現在（1） 第7回 同（2） 第8回 死生観をめぐる諸課題（1） 第9回 同（2） 第10回 公共政策とその理念 第11回 同（2） 第12回 ポスト成長・定常型社会と幸福・価値（1） 第13回 同（2） 第14回 まとめと評価 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特にないが、積極的に発表、および議論に参加すること</p>											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各学期に取り上げる課題図書5冊程度の小レポートを含む）70%および期末レポート30%により評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

広井良典 『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』（岩波新書）

広井良典 『人口減少社会のデザイン』（東洋経済新報社）

[授業外学修（予習・復習）等]

課題テキストを読みレポートを作成すること及び自らの関心のあるテーマについてのレジюме等の作成。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人の国際移動と移民研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、外国人労働者や移民といった「人の国際移動」に関して、日本やアジア諸国、欧州諸国の現状を理解したうえで、最新の移民研究への知見を深める。人の国際移動については社会的関心が非常に高まっているが、さまざまな言説が存在し、現状把握が困難な分野である。現状と理論、双方への理解を深めたい。											
【到達目標】											
人の国際移動は感情的な議論に陥りやすいが、エビデンスをもとに分析・解釈できるようになることを目標とする。また、グローバルな視点、ジェンダーの視点をはじめ、多角的に人の国際移動をとらえる能力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下の点をおさえて授業を展開します。 1 . アジアの経済成長とその要因 Economic development in Asia 2 . 人口構成の変化と国際移動 Demographic change and migration 3 . 福祉レジームとケア Welfare regime and care 4 . 開発と移住労働 development and migration 5 . 女性の労働力化と移住労働 feminization of migration 6 . 高齢化と移住労働 ageing and migration 7 . 人口政策と結婚移民 population policy and marriage migration 8 . 多文化共生・社会統合政策 social integration policy 9 . 移民の諸権利とアクセス rights and access 10 . 送り出し国の論理 logic of sending countries 11 . 国際労働市場と斡旋メカニズム international labor market formation and global recruitment network 12 . 国際協調体制の構築 international collaboration and mutual benefit 13 . パンデミックと移民 Pandemic and Migration 14 . 移民社会とコミットメント・公共人類学 Diversity, commitment and public anthropology 15 . 総括 Conclusion											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点40%、レポート60%											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

安里和晃編著, 2018, 『国際移動と親密圏ーケア・結婚・セックス』京都大学出版会.
金春喜, 2020, 『「発達障害」とされる外国人の子どもたち フィリピンから来日したきょうだいをめぐる、10人の大人たちの語り』明石書店.
小島祥美, 2016, 『外国人の就学と不就学ー社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会.
坪田光平, 2018, 『外国人非集住地域のエスニックコミュニティと多文化教育実践ーフィリピン系ニューカマー親子のエスノグラフィ』東北大学出版会.
三浦綾希子, 2015, 『ニューカマーの子どもと移民コミュニティ』勁草書房.
安里和晃, 2018-2021 「多様な福祉レジームと海外人材(連載)」 『文化連情報』各号.
伊藤里枝子, 2014, 「JFC問題とは何か」JFCネットワーク編 『改正国籍法施行以後のジャパニーズ・フィリピン・チルドレンの来日と就労』2013年度パルシステム東京市民活動助成調査報告書.

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回A4一枚程度のreflection paperを提出してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp に連絡の上、事前にアポを取る。(@)は@に

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

オムニバス形式で多様な企業等から講師・ゲストスピーカー等を招いた授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

行動・環境文化学系93

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期近代の政治・経済・文化(ドイツ書講読)									
【授業の概要・目的】											
<p>「後期近代」の政治・経済・文化の構造的諸問題を論じたアンドレアス・レクヴィッツの近著のいくつかの章(ないし節)を精読し、現代の先進社会に共通する諸問題がドイツではどのように論じられているのか、日本とも比較しながら考察する。テキストの著者レクヴィッツは現在ドイツにおいて最も注目を集めている社会学者の一人で、現代社会論や文化社会学の分野で高く評価されている。</p> <p>受講者は毎回1人ずつ自分の担当箇所(1回につき1ページから2ページ程度)について日本語訳と用語解説等を用意し、レジュメを配布して報告する。他の出席者も予習してきた上で報告内容について検討する。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の社会学文献の読み方を習得するとともに、現代社会への社会的アプローチについて学習する。辞書を引きながら独力で社会学のドイツ語文献を正確に読解できる能力の習得を目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の趣旨説明、テキストの紹介、担当者の割り当て等。</p> <p>第2回～第14回 テキストの輪読 毎回約1～2ページずつ読み進める(分量は受講者の語学力に応じて調整する)。</p> <p>第15回 まとめ 学習した重要な事項について総括する。</p>											
【履修要件】											
前年度までにドイツ語の授業を少なくとも初級、できれば中級まで履修していること。社会学の知識は必要ない。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的には平常点(報告レジュメ)によって評価する。ただし、受講生が多い場合には試験を実施することもある。											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

Andreas Reckwitz 『Das Ende der Illusionen. Politik, Ökonomie und Kultur in der Spätmoderne』 (Suhrkamp Verlag, 2019) ISBN:978-3-518-12735-3 (授業で取り上げる章のコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

https://www.suhrkamp.de/buecher/das_ende_der_illusionen-andreas_reckwitz_12735.html(出版社によるテキストの紹介サイト)

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者には毎回読み進める箇所を予習してくることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 直野 章子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		記憶研究概説									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、記憶研究という新しい学際領域における主要な論点を、社会学的な関心に沿って検討することにある。記憶研究においては、記憶とは現在における過去の再構成であるという現在主義が主流であるが、他方で、過去の痕跡として記憶を捉える「記憶の存在論」とでもいえる立場がある。社会学的記憶研究においては、アルバックスの集合的記憶論を参照しながら記憶の社会的枠組みを分析するものが多数を占めるが、他方で、集団の記憶の持続性に注目して、社会の結束や維持のメカニズムとして集合的記憶を論じる研究もある。この講義では、記憶研究において「記憶」がどのように概念化されてきたのかを概観した後に、集合的記憶論とその現代的展開を検討する。その上で、記憶研究における中心的な論点の一つである「トラウマ記憶」について、具体例を交えながら社会学的に考察し、記憶研究における二つの立場の接合可能性について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>記憶研究における二つの理論的立場を理解したうえで、現代社会における記憶をめぐる論争を社会学的に考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進める。ただし、講義や発表、ディスカッションの進み具合により、同一テーマの回数を変えることがある。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1：記憶研究という領域 2：記憶の概念史（1） 3：記憶の概念史（2） 4：集合的記憶（1） 5：集合的記憶（2） 6：記憶の政治学（1） 7：記憶の政治学（2） 8：集団の記憶の伝承（1） 9：集団の記憶の伝承（2） 10：記憶の主体 11：トラウマの概念史（1） 12：トラウマの概念史（2） 13：トラウマ記憶と社会（1） 14：トラウマ記憶と社会（2） 15：フィードバック 											
----- 社会学(特殊講義) (2)へ続く -----											

社会学(特殊講義) (2)

[履修要件]

参照テキストは主に日本語のものを使うが、英語の文献も使用するため、英語論文の読解能力が必要となる。

[成績評価の方法・観点]

担当文献の報告（30点）、討論への積極的な参加（20点）、レポート（50点）により評価する。レポートについては、到達目標の達成度に基づき評価する。
3回以上授業を欠席した場合は、特別な理由がないかぎり、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義形式での解説と指定文献の発表、ディスカッションで授業を進めていくため、指定された文献を読んでおくこと（予習）が必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問は授業後に行う、もしくは、事前にアポイントメントを取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系95

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 竹沢 泰子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人種・エスニシティ論									
【授業の概要・目的】											
今年度は、アメリカ合衆国における多文化主義（マルチカルチュアリズム）、アイデンティティ・ポリティクス、ポスト・アイデンティティ、ブラック・ライヴズ・マター運動(BLMM)について考える。多文化主義は、その後教育分野等で実践され定着していくものの、1980年代90年代は大きな論争を巻き起こした。授業では、多文化主義の政治哲学的理念、多文化主義への批判、ポスト・アイデンティティの議論、マイノリティたちの抵抗表現、また2020年のBLMMから見直されている人種差別の実態などをとりあげる。アーティスト（芸術家）たちの作品や、動画やドキュメンタリーも一部使用する。対面を基本とするが、内容や日によってオンライン授業を行う。											
【到達目標】											
多文化主義の理念、それに対する批判、「人種」や「文化」に根差すアイデンティティについて基本的概念を理解する。またそれに抗するマイノリティの人々のアイデンティティ表現の多様なあり方を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第1回 授業概要 「多文化」の中身とアメリカの人種・エスニシティ											
第2回 「多文化主義」が生まれた背景と政策											
第3回 「多文化主義」の理念											
第4 - 6回 多文化主義をめぐる議論											
第7回 アートにみる多文化主義											
第8 - 9回 ポスト・アイデンティティをめぐる議論											
第10 - 11回 映画または動画の視聴											
第12回 アートに見る多文化主義への抵抗											
第13 - 14回 ブラック・ライヴズ・マター運動とその後											
第15回 まとめ 質疑応答											
【履修要件】											
人文系英語論文の基本的読解力											
【成績評価の方法・観点】											
出席・提出物・討論、40%											
発表 20%、学期末レポート40%											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

[教科書]

指定論文（コピー・PDFなど）

[参考書等]

（参考書）

受講予定者に配布する詳細なシラバスに記載

[授業外学修（予習・復習）等]

授業までに課題論文を読んでおく。毎週の課題論文のサマリーを授業中に提出。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはアポイントメント制

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 17331 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 上野 加代子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リスク社会と児童虐待問題ー理想の家族はどこから来たのか									
【授業の概要・目的】											
<p>「子どもの命を守る」。これは近代社会においては至上の価値である。したがって虐待する親から子どもを守るとい主張とそれにもとづいた実践は、とても良いことのようにみえる。養育者から子どもに致命的なダメージが及ぶ前に子どもを離すことが重要とされ、現に、米国をはじめとする児童虐待の防止対策を掲げている国では、この考えのもとに、通告を奨励することで虐待する養育者を突き止め、家族を調査し、子どもを避難させる虐待防止システムが作動している。日本もそういう諸外国の実践を学んできた。しかし、子どもの命を救うのか、否か、と私たちに迫る二者択一の論理には問題がないのだろうか。</p> <p>本授業では児童虐待問題を例に社会問題のたてられ方を社会構築主義の手法からみていく。そして、私たちの目の前に児童虐待として立ち現れている事象を階層、ジェンダー、エスニシティから分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 社会問題の構築主義的な視点を理解することができ、他の社会問題の分析に応用できる。</p> <p>(2) 現行の日本の児童虐待防止制度への批判的視座を身につけることができる。</p> <p>(3) この講義を批判できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 児童福祉から児童保護への陥穽 2. モラルパニックと「例外状態」 3. 児童虐待問題の台頭と変遷 米国 4. 児童虐待と経済階層 米国 5. 児童虐待問題の台頭 日本 6. リスク社会と児童虐待 7. 理想の子育て家族はどこから来たのか 8. 児童虐待問題への対応の国際比較 9. 揺さぶれっ子症候群をめぐる論争 10. 親による虐待防止システムの経験 11. 虐待の認否と家族再統合プログラム 12. 一時保護を経験した子どものナラティブ 13. 多文化主義と児童虐待 14. ソーシャルホーム・アプローチの挑戦 15. 承認の配分にむけて 											
----- 社会学(特殊講義)(2)へ続く -----											

社会学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回の授業後に提出するコメント：40%

学期末のレポート：60%

【教科書】

・上野加代子, 2017. 「児童虐待防止対策の課題 子どもが一時保護になった親の経験から」人口問題研究所 『社会保障研究』 2(2・3): 263-278.

http://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/0202_03.htm

・上野加代子, 2016. 「『児童福祉から児童保護へ』の陥穽 ネオリベラルなリスク社会と児童虐待問題」日本犯罪社会学会 『犯罪社会学研究』 41: 62-78.

<https://ueno-kayoko.org/lab/wp-content/uploads/2017/10/201610.pdf>

【参考書等】

(参考書)

ナンシー フレイザー・アクセル ホネット 『再配分か承認か?: 政治・哲学論争』 (法政大学出版社、2012年)

Hillyard, Paddy, Christina Pantazis, Steve Tombs and Dave Gordon 『Beyond Criminology: Taking Harm Seriously』 (Pluto Press, 2004)

ジョルジョ アガンベン 『例外状態』 (未来社、2007年)

上野加代子 『児童虐待の社会学』 (世界思想社、1996年)

上野加代子・野村知二 『児童虐待の構築——捕獲される家族』 (世界思想社、2003年)

【授業外学修(予習・復習)等】

上記の指定文献2点(上野, 2016, 2017)のどちらかを授業までに読んでおいてください。

(その他(オフィスアワー等))

不明点等がありましたら、メールでご連絡ください。

上野加代子

uenokayoko@lab.twcu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 37334 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学 (特殊講義) Sociology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 Stephane Heim			
配当 学年	2回生以上	単位数	3	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		東アジア社会論									
【授業の概要・目的】											
<p>「東アジア社会」についての理解を深めることを目的に、京都大学、台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業であり、今年度は12年目となる。学期中の授業では、東アジア社会について3大学の教員が交替でスカイプ授業を行う。その後、京都、台北、ソウルのいずれかでワークショップとフィールドトリップを実施する（今年度は台北）。ワークショップでは、3大学から参加した学生が、各自の関心にしがたって英語で研究発表を行う。ホスト校の学生は、その社会をさまざまな角度から知ってもらうためのフィールドトリップを企画して実施する。国際的な遠隔授業と英語ワークショップの組合せという、全国にも類例のない授業であり、近隣の諸社会との共通性と相違を身をもって理解し、グローバルな活動経験を積む機会となる。国境を越えた友人ができることも楽しい収穫となるだろう。何年か続けて受講して3都市を回るリピーターも歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)東アジア社会、とりわけ台湾や韓国に関する文献を読み、講義を受け、フィールドトリップに参加することで、東アジアに関する全般的かつ経験的理解を深める。 (2)台湾大学、ソウル大学の学生たちとの直接の交流を通じて、隣国の同世代の人たちの関心、考え方、実力を知り、交流を深める。 (3)英語のプレゼンテーションを行い、質問の受け答えができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 イントロダクション 第3回～第8回 3大学の教員によるオンライン授業 第9回～第15回 各自の関心にしがたってパワーポイント資料を作成し、英語で発表練習を行う。</p> <p>8月お盆明けの5日間（予定） ワークショップとフィールドワーク * 状況によってはオンライン開催に変更</p>											
【履修要件】											
英語での受講と研究発表に最低限必要な学力、もしくはチャレンジ精神をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業へのコミットメント（40%）、ワークショップとフィールドトリップへの積極的参加（30%）、英語でのプレゼンテーション（30%）により評価する。詳細は授業で説明する。											
----- 社会学（特殊講義）(2)へ続く -----											

社会学（特殊講義）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

各講義につき論文1本程度を指示する。Kulasisからダウンロードすること。

[授業外学修（予習・復習）等]

各講義につき論文1本程度をあらかじめ読んでくる。各自の関心にしながら発表資料を作成する。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は最初の授業で説明する。

COVID-19の感染状況によってはワークショップをオンライン開催に変更することがありうるが、前年度もこの方式で開催することができたので、心配しないでください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系98

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学（演習I） Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Doing Sociology									
[授業の概要・目的]											
<p>各自の関心に応じて研究課題を選び、3・4回生の2年間をかけてその課題についての社会学的探究を深めて卒業論文を完成させることが、社会学専修の学部教育のひとつの目標である。3回生の後期に受講することが期待される本演習では、各自の関心のおおまかな方向性を定めつつ、関連分野の日本語・英語の雑誌論文、著書を渉猟し検討する。それを踏まえて各々が取り組む研究課題をより鮮明にし、論文形式でのレポート作成に挑戦する。</p>											
[到達目標]											
<p>(1) 各自の関心に近い社会学の分野についての基本的知識を習得する。 (2) 各自が2年間をかけて追究する研究課題を見つける。 (3) 論文執筆の形式を習得する。参考文献のスタイルについては社会学評論を参照のこと。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入 これまでの卒業論文の紹介、授業の進め方の確認 第2・3回 各自の関心の発表 基本文献の提示 第4～15回 国内外の雑誌論文、著書の基本文献の内容を5本紹介し、批判的検討を行う。理論的枠組みを明らかにしつつ、自分の研究計画を発表する。おおむね1回に3人ずつ報告を行う。最終的にはレポートを提出する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習での発表とレジメ、および期末レポートにより評価する。期末レポートの比率は50%。出席自体は評価の対象としないので注意のこと。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
それぞれのテーマに従って、文献を渉猟し批判的な検討を行い、発表準備をする。											
（その他（オフィスアワー等））											
面談については事前にメールで連絡のこと。											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習 I) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の問題構成									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の重要な文献を読み、それらの長所や短所、今後さらにそのような研究を発展させる方法について議論する。それを通して、何が社会的に重要な問題なのか、どうすればそのような問題にアプローチできるのか、といった点について論じる。こうした作業は、一つの問題にいくつかの異なる角度からアプローチすることを必要とするが、多角的に問題を検討することは卒業論文で扱う問題を考える際に重要であるだけでなく、日常的な様々な問題を考えるうえでも有効である。</p>											
【到達目標】											
<p>自分の問題関心を掘り下げ、リサーチ・クエスチョンを改善していけるようになる。具体的には重要な文献を読み、その長所と短所を批判的に論じ、それを改善していく方法について考えられるようになる。そのためには理論と事実/データのあいだの区別、ないしは区別しがたさについての洞察力や、社会の多様性についての想像力を養う必要がある。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>文献リストから学生に興味の持てそうな文献を選んで要約・発表してもらう。各回の内容は学生が選ぶ文献によって変わってくるので未定であるが、例えば以下のような構成が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 菊と刀 都市の日本人 3 民族とナショナリズム 想像の共同体 4 暴走する世界 資本主義の文化的矛盾 5 孤独なボーリング タテ社会の人間関係 6 科学の社会学 科学革命の構造 7 大衆の反逆 スポーツと文明化 8 母性という神話 ジェンダー・トラブル 9 行為と演技 管理される心 10 セカンド・シフト もうひとつの声 11 社会問題の構築 逸脱と医療化 12 ハマータウンの野郎ども 観光のまなざし 13 監獄の誕生 声の文化と文字の文化 14 社会のマクドナルド化 徳川時代の宗教 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 社会学(演習 I)(2)へ続く -----											

社会学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%、レポート50%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポートに向けて、自分の関心領域の文献を読み進めていくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系100

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習I) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Doing Sociology									
[授業の概要・目的]											
各自の関心に応じて研究課題を選び、3, 4回生の二年間をかけてその課題についての社会学的探求を深め卒業論文を完成させるための基礎をつくりあげることが本授業の目的である。受講生は、各自の研究テーマを自らみつけて、それに関連する基本文献を調べて精読する。それを踏まえて各人が取り組む研究課題の意味と意義を明確にし論文形式のレポート作成に挑戦する。											
[到達目標]											
(1) 各自の関心に関連する社会学的先行研究についての基本的・基礎的知識を習得する。 (2) 各自が二年間かけて探求しようとする研究課題を見つける。 (3) 学術論文作成の方法を習得する。											
[授業計画と内容]											
第1回 導入 授業の目的を説明しこれまでの卒業論文を紹介する。 第2・3回 各自の関心について短い発表を行い、基本文献を提示する。 第4～15回 基本文献を読解し内容を紹介するとともに、それを踏まえた自分の研究計画を発表する(一回に3人ずつ)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
演習での発表と発言および期末レポートにより評価する。 発表・発言とレポートの考慮比率は50%ずつ。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
指示された基本文献を精読し発表準備を行う。 発表についてなされたコメントを踏まえてレポート作成の準備を行う。 (その他(オフィスアワー等)) * オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系101

科目ナンバリング		U-LET30 37346 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習I) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎理論I									
【授業の概要・目的】											
<p>社会学の初学者にとって最も基本的な学習対象である社会学の基礎概念・基礎理論を理解するため、何冊かのテキストを輪読する。毎回報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その後全員で報告内容について質疑応答を行う。</p> <p>扱うテキストとしては、(1)社会学の中心テーマと基本的な考え方に関する入門書、(2)古典社会学の学説の概説書、(3)現代社会学のいくつかの主要アプローチに関する基本文献を予定している。</p>											
【到達目標】											
<p>社会学の基礎概念・基礎理論について理解を深めるとともに、代表的社会学者の思考の跡を辿ることによって社会学的発想の特徴やそれぞれの社会学者のアプローチの違いなどについて学習し、社会学的なものを見方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 - 第14回 社会学理論の基本文献精読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(報告レジュメとコメント・質問)50%、レポート50%により評価する。											
【教科書】											
<p>授業中に指示する 文庫本として入手可能な何冊かは受講者に購入してもらい、その他はコピー(またはPDFファイル)を配布する。</p>											
----- 社会学(演習I)(2)へ続く -----											

社会学（演習I）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者以外の受講者も、テキストを読んだ上で短い質問・コメントを書いてこななければならない。報告者はテキストの要約のほかに、テキストを理解する上で必要な用語等に関する解説もレジュメに記載するため、十分な余裕をもって報告の準備に取り組んでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系102

科目ナンバリング		U-LET30 37343 SJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(演習II) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会学の基礎理論II									
【授業の概要・目的】											
<p>前期の社会学演習Iの学習内容をふまえて、古典社会学と現代社会学の主要な著者によって書かれたいくつかの著作（日本語訳）を原典で精読し、それを通して社会学の基礎理論を学習する。テキストにはマルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメル、マートン、シュッツ、ブルデュー、ギデンズなどの社会学者の著作のうち、比較的読みやすいものを選んで使用する。</p> <p>毎回報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジюмеを作成し、それにもとづいて報告する。その後全員で報告内容について質疑応答を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>社会学者の思考の跡を辿ることによって社会学的発想の特徴やそれぞれの社会学者のアプローチの違い、現代社会学理論の争点などについて学習し、社会学的な思考法についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 - 第14回 社会学理論の基本文献精読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
<p>演習I（開講されている2科目のいずれでも可）をすでに履修していることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（報告レジюмеとコメント・質問）50%、レポート50%により評価する。</p>											
【教科書】											
<p>授業中に指示する 文庫本として入手可能な何冊かは受講者に購入してもらい、その他はコピー（またはPDFファイル）を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 社会学(演習II)(2)へ続く -----											

社会学(演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告者以外の受講者も、テキストを読んだ上で短い質問・コメントを書いてこななければならない。報告者はテキストの要約のほかに、テキストを理解する上で必要な用語等に関する解説もレジュメに記載するため、十分な余裕をもって報告の準備に取り組んでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この科目は社会学専修の必修科目ではないが、社会学理論について系統的に学習できる数少ない科目なので、特に社会学専修の大学院進学希望者は履修することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET30 37353 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西川 知亨			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		日常生活からの社会学的想像力の展開									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀中庸の社会学界を席卷したT・パーソンズの構造 機能主義の影響力が弱まった1970年代には、「日常生活の社会学」と呼ばれる分野が注目され、ミクロレベルの社会学を重視する傾向が生まれた。21世紀の時代においては、古典あるいは激動の時代状況との対話のなかで、日常的な経験と、社会におけるさまざまな事象との連関をリフレクシブに思考し、調べ、また実践することが求められるようになっている。</p> <p>本授業においては、近年の「日常生活の社会学」に関する米国の文献を読み解き、英語文献に慣れるだけでなく、社会学的想像力(ミルズ)を高める社会学的な視点を獲得することを目的とする。古典と現代社会学との対話、およびそれに関する討議を展開するなかで、自分と社会のための社会学的実践ができるようになることを目指したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会学の英語文献に書かれている内容について、理論的かつ実証的に説明できる。 2 社会学における古典と現代との対話とは、どのようなものか例を挙げながら話すことができる。 3 自分の経験を社会学の概念で組織化し、自分や他者の社会生活のために活かすことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 社会学とは何か(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第3回 社会学的思考(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第4回 社会学的実践(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第5回 文化・消費・メディア(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第6回 自己と相互行為(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第7回 コミュニティ・組織・社会集団(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第8回 犯罪と逸脱(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第9回 階層(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第10回 ジェンダー(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第11回 セクシュアリティ(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第12回 人種とエスニシティ(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第13回 社会制度(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第14回 健康と医療(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p> <p>第15回 社会変動(英書講読・報告・討議・フィードバック)</p>											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

定期試験を行わず、授業における報告レジュメ（約50%）・コメントシート（約25%）・討議への参加度（約25%）などで総合評価する。

【教科書】

Sternheimer, Karen (ed.) 『Everyday Sociology Reader (Second Edition)』（W. W. Norton & Company, 2020）ISBN:9780393419481（入手方法等は授業中に指示する。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://nortonbooks.typepad.com/everydaysociology/>(Everyday Sociology Blog)

【授業外学修（予習・復習）等】

報告にあたっては、担当の論考の内容を理解して説明するだけでなく、社会学概念の説明、また関連した問題などの提起および考察を行うことが求められます。また、報告者だけでなく、受講生のみなさんは、毎回、あらかじめテキストの該当箇所を読んでおいてください。

（その他（オフィスアワー等））

英語文献の読解による内容の説明のみならず、日常的な経験からさまざまな社会現象や社会問題へと視野を広げていく報告を期待しています。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系104

科目ナンバリング		U-LET30 37353 LJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(講読) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 安里 和晃			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		社会理論と調査法入門									
【授業の概要・目的】											
社会学理論と調査法に関する英文の入門書を読む。社会理論のいくつかの主要問題について基礎的な事柄を学習するとともに、社会学の英語文献の読み方を習得する。また、調査法についての基礎的な英文テキストをもちいて、基礎的な概念について習得する。使用するテキストは社会学や批判社会学の入門書をもちいる。毎回の授業で報告者はテキストの該当箇所の要約と用語解説等を記載したレジюмеを作成し、それにもとづいて報告する。報告をもとに内容について議論する。											
【到達目標】											
社会学理論の基本的なテーマや概念を身につけることによって、日本語と英語の対応関係についても理解できるようにする。また、調査法についても文献の講読を通じて理解を深める。英語文献の表記スタイルについても確実に身につけられるようにしたい。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 テキストの講読。毎回8～9ページ程度を分担して報告する。 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
報告レジюме(50%)およびレポート(50%)により評価する。											
【教科書】											
Corrigall-Brown, Catherine, 2020, Imagining Sociology: An Introduction with Readings, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada. Marvasti, Amir, B., 2004, Qualitative Research in Sociology, London: Sage Publications. Mirfakhraie, Amir, 2019, A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company. などの中からいくつかの章を選んで使用する。適宜授業で配布する。											
----- 社会学(講読)(2)へ続く -----											

社会学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受講者は毎回テキストを読んだ上で授業に臨まなければならない。また、報告者はレジюме作成に際して社会学用語の訳し方に特に注意してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

事前にメールで連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系105

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 丸山 里美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		多文化共生のまちづくり (社会調査士科目G)									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、質的調査の企画から実査、報告書の作成にいたる社会調査の全過程を実習形式で経験することによって、社会調査とはなにか、どのような手続きで進めるのかを、体験的に学ぶことを目的とする。具体的には、在日コリアン、被差別部落、ニューカマーの外国人、障害者などが集住する、京都市南区にある東九条地域で、マイノリティの生活とそれを支える地域の取り組みの実態について、参与観察やインタビューなどの質的調査の手法を用いて調査を行う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的調査を計画し、実施することができる ・ 質的調査の結果を、論文の形にまとめることができる ・ 多文化共生について理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～6回 調査地に関する情報収集、先行研究の検討 第7回 予備調査 第8回～10回 情報収集を基にした調査テーマの設定と調査計画の策定 第11回～13回 質問項目策定と調査対象者の選定 第14回～20回 調査の実施、フィールドノート・トランスクリプトの作成 第21回～24回 先行研究・調査テーマの再検討と補充調査の実施 第25回～第30回 報告書の作成</p>											
【履修要件】											
継続的なフィールド調査に必ず参加すること。その成果を報告書に執筆すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)と報告書執筆のレポート(50%)によって評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

参加学生は、授業外でフィールド調査に継続的に参加しなければならない。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類

学外での実習等を授業として位置付けている授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

行動・環境文化学系106

科目ナンバリング		U-LET30 37361 PJ45									
授業科目名 <英訳>		社会学(実習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 太郎丸 博			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		社会調査の実際 (社会調査士科目G)									
【授業の概要・目的】											
社会調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひとつおりに体験的に学習する。そのような体験を通して、講義で得た知識の身体化を目指す。そのためには、授業時間外の作業が多く必要となる。また、他の受講者との相談や共同作業も多くなる。											
【到達目標】											
調査の企画、実施、データの入力、分析、報告書の作成ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1オリエンテーション											
2 調査の企画											
3仮説構成											
4 調査項目の設定											
5質問文・調査票の作成											
6 プリテストと調査票の修正											
7 対象者・地域の選定											
8サンプリング											
9 調査の実施 (調査票の配布・回収、面接)											
10 エディティング											
11 集計、分析											
12 データの視覚化											
13 仮説検証											
14 報告書の作成											
15フィードバック											
後期											
1オリエンテーション											
2 データの入力・読み込み											
3 単純集計表、ヒストグラムの作成											
4 変数の操作の基礎											
5変数の操作の応用											
6 クロス集計表、帯グラフの基礎											
7 クロス集計表、帯グラフの応用											
8 散布図、箱ヒゲ図の作成											
9 データセットの分割・結合											
10 独立性の検定											
11平均値の差の検定											
12 多重クロス表分析											
----- 社会学(実習)(2)へ続く -----											

社会学(実習)(2)

13 回帰分析の基礎
14 回帰分析の応用
15 フィードバック

【履修要件】

社会調査士科目A～Eをあわせて受講することが望ましいが、強制ではない。

【成績評価の方法・観点】

平常点(25%)、宿題(25%)、レポート(50%)

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

轟亮・杉野勇 『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』(法律文化社) ISBN:978-4589032577

盛山 和夫 『社会調査法入門』(有斐閣) ISBN:978-4641183056

【授業外学修(予習・復習)等】

復習重視。宿題が頻繁に出る。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系107

科目ナンバリング		U-LET30 47345 SJ45									
授業科目名 <英訳>	社会学(卒論演習) Sociology (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 紀行 文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 教授 太郎丸 博 文学研究科 准教授 安里 和晃 文学研究科 准教授 Stephane Heim 文学研究科 准教授 丸山 里美				
	配当 学年	4回生以上	単位数	4			開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金3	授業 形態
題目		卒業論文演習									
【授業の概要・目的】											
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定の学生を対象にして、卒業論文作成に関する指導をおこなう。											
【到達目標】											
卒業論文を書き上げる。											
【授業計画と内容】											
卒業論文提出予定者は、前期においては、専修専任教員全員で実施し、テーマの絞り込みのための報告を行う。後期においては、担当教員に分かれ、卒論の要旨や分析結果、進捗状況などを報告する											
【履修要件】											
本年度に社会学専修に卒業論文を提出する予定の者											
【成績評価の方法・観点】											
前期1回の報告と9月初旬に序論 / 要旨の提出。後期数回の報告および出席により成績評価をおこなう。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業において指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系108

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 1									
【授業の概要・目的】											
世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。											
【到達目標】											
世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポリネシアの自然環境と社会・文化 [1週] 2．アフリカの歴史的環境変遷 [1週] 3．日本アルプスと大雪山の植生の立地環境とその30年間の変化 [2週] 4．アフリカの自然と民族 [2週] 5．ケニア山とキリマンジャロの環境変遷と植生変化 [3週] 6．ナミブ砂漠の自然や植物・動物と人間活動 [3週] 7．アンデスの自然と人間活動 [2週] 6．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（80％）と小テスト（20％）による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『気候変動で読む地球史 - 限界地帯の自然と植生から - 』 (NHKブックス) ISBN:978-4-14-091240-9

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』 (ちくま新書) ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学修(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系109

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 水野 一晴			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世界の自然環境と人々の生活や社会 2									
【授業の概要・目的】											
<p>世界の各地域の気候環境は多様である。その多様な自然環境の中で人々は独自の社会や文化を生み出してきた。本講では、世界のいくつかの地域を取り上げ、その場所の気候、地形、植生、土壌、水文環境などの自然環境を説明し、その自然環境の中で歴史的に人々はどのように定住していったのか、あるいは人々はその自然をどのように利用しながら生活を営んでいったのか、自然とどのように向き合っているのかなどの点から検討する。また、地球温暖化などの長期的あるいは異常気象などの短期的な気候変化が、自然や人間活動にどのような影響を及ぼしているかについても議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>世界各地の気候、地形、植生、土壌といった自然環境要因の複合的作用およびその変化について理解する。自然環境が人間活動とどのように関わっているかを考察し、その一方の変化が相互作用によって大きく両者に関わっていくことを理解する。世界の地域ごとにその自然環境のもとで多様な社会や文化が生み出されていることを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．インド、ヒマラヤ地域の自然と民族 [2週] 2．インド、ヒマラヤ地域の歴史と社会の成り立ち [2週] 3．インド、ヒマラヤ地域のチベット仏教、ボン教と地域社会 [3週] 4．インド、ヒマラヤ地域の森林分布と樹木利用 [1週] 5．インド、ヒマラヤ地域の牧畜活動 [1週] 6．インド、ヒマラヤ地域の農耕活動 [1週] 7．世界各地の自然と社会・文化 [3週] 8．総合討論 [1週] 9．フィードバック [1週] 											
【履修要件】											
<p>高校の時に使用していた地図帳（帝国書院、二宮書店など）を授業時に持参すること（持っていない人は購入してください）。</p> <p>高校で地理を履修していなくても十分理解できます。</p> <p>特別な許可がない限り、授業時でのパソコン、携帯電話、スマホの使用を禁止する（ノートは手書きで取ること）。</p>											
----- 地理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

地理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点(80%)と小テスト(20%)による評価・・・毎回配るコメント・質問用紙や授業内での発言、小テストなど

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

水野一晴 『神秘の大地、アルナチャル - アッサム・ヒマラヤの自然とチベット人の社会 - 』(昭和堂) ISBN:978-4-8122-1173-1

Mizuno, K. & Tenpa, L. 『Himalayan Nature and Tibetan Buddhist Culture in Arunachal Pradesh, India』(Springer) ISBN:978-4-431-55491-2

水野一晴 『世界がわかる地理学入門 - 気候・地形・動植物と人間生活』(ちくま新書) ISBN:978-4-480-07125-5

[授業外学修(予習・復習)等]

授業が理解できたかどうか把握し、理解できなかった部分については次回授業で質問してください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		山と森の歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、環境の利用・改変・管理・認識の視点から、日本の山村と森林の歴史地理を検討する。日本の山村は現在、過疎化や限界集落、廃村といった大きな問題に直面しているが、かつては多くの人々が山や森の動植物に依拠して暮らしていた。山村における人と環境との関係史を、歴史地理学あるいは環境史的な観点から捉えるならば、森林を改変しながらも、それを巧みに利用・管理する暮らしのあり方が浮かび上がってくる。本講義では、地理学・歴史学・民俗学の議論を紹介しながら、山村と森林の歴史地理をたどることで、人と環境の関係について様々な視点に触れるとともに、現在の山村や森林のあり方について、理解を深める機会を提供したい。</p>											
【到達目標】											
<p>現在様々な問題を抱える山村地域に関して、その歴史地理的背景を理解するとともに、人間と環境の関係史を広い視野から動的に捉える能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．山と森の歴史地理 <ol style="list-style-type: none"> 第1回 人と環境の関係史 第2回 『秋山記行』の世界 2．森林に依拠した生業 <ol style="list-style-type: none"> 第3回 堅果食の系譜 第4回 狩猟とその周縁化 第5回 焼畑と森林管理 第6回 木地師と木工の系譜 3．山をめぐる自然観 <ol style="list-style-type: none"> 第7回 山の神とは誰か 第8回 修験道の自然観 4．森林植生の人為的改変 <ol style="list-style-type: none"> 第9回 「禿山」と人為的草原 第10回 育成林業の登場 第11回 科学的林業と植生管理 5．山と森の近代 <ol style="list-style-type: none"> 第12回 風景としての山岳 第13回 登山とナショナリズム 第14回 内なる異文化 第15回 フィードバック 											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

米家泰作 『森と火の環境史』(思文閣出版) ISBN:9784784219735

米家泰作 『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房) ISBN:9784751733508

白水智 『中近世山村の生業と社会』(吉川弘文館) ISBN:9784642029490

池谷和信・白水智 『山と森の環境史』(文一総合出版) ISBN:9784829911999

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の研究業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku>(講師のフェイスブック)

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系111

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		帝国日本と地理的知									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代の日本において地理的な表象や言説が果たしてきた政治的・経済的・社会的な役割を、批判的に検討する。近年の歴史・文化地理学では、地理的な表象や言説に関する議論が盛んに行われている。その動向を踏まえて、地図・土地調査・旅行記・地誌・学術調査・史蹟景観をめぐる地理的知の諸相と、その受容や理解の具体例を分析する。その際、本講義では特に朝鮮半島に着目するが、内地や他の植民地にも注意を払う。</p>											
【到達目標】											
<p>地理的な知の役割を歴史的に俯瞰し、その意義を批判的に捉える能力を養うとともに、様々な歴史地理的資料に関する基本的事項を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1．地理的知の近代 第1回 歴史地理学と言語論的転回 第2回 オリエンタリズムと心象地理 第3回 歴史地理学と帝国主義</p> <p>2．朝鮮像の系譜 第4回 近世日本の朝鮮像 第5回 明治日本の朝鮮像と地誌編纂</p> <p>3．植民地のマッピングと空間把握 第6回 朝鮮の測量と地図化 第7回 森林資源の地図化</p> <p>4．学知と植民地 第8回 学知の動員と焼畑の行方 第9回 「知的征服」とその諸相</p> <p>5．史蹟とその経験 第10回 史蹟とコロニアルツーリズム 第11回 史蹟の保存と経験 第12回 征服神話と植民地 第13回 帝国縁辺部へのツーリズム</p> <p>6．帝国日本の心象地理 第14回 「近代」概念の空間的含意 第15回 フィードバック</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)により評価する。前者は毎回の授業に対するリアクションペーパーにもとづく。後者は授業の到達目標の達成度に基づき評価する。いずれもPandAを通じて行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

J・モリッシーほか(上杉和央監訳)『近現代の空間を読み解く』(古今書院)ISBN:4772231848

B・グレアム, C・ナッシュ『モダニティの歴史地理』(古今書院)ISBN:4772214704

D・リヴィングストン『科学の地理学: 場所が問題になるとき』(法政大学出版局)ISBN:4588371207

J. Agnew & D. N. Livingstone『The SAGE Handbook of Geographical Knowledge』(SAGE Publications)ISBN:1412910811

米家泰作『森と火の環境史』(思文閣出版)ISBN:9784784219735

(関連URL)

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD3iQ>(講師の業績など(京都大学教育研究活動データベース))

<https://researchmap.jp/tkomeie/>(リサーチマップ(科学技術振興機構))

<https://orcid.org/0000-0002-3391-5069>(ORCID(Open Researcher and Contributor ID))

<https://www.facebook.com/komeie.taisaku/>(講師のフェイスブック)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する参考文献を含めて、関連する論文や文献に積極的に触れ、問題関心を深めてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーを設定している。オンラインでの問い合わせは、メールあるいはPandAのフォーラムで。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小方 登			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		地理情報・衛星画像の処理・分析の基礎									
【授業の概要・目的】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じる。地理情報処理の実例として地形データ（数値標高モデル：DEM）および衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。地形図が利用できない地域でも利用できるDEMや衛星画像は、グローバルなスケールで有効な地理情報ソースとして位置づけることができる。コンピュータを利用した実習も含む。</p>											
【到達目標】											
<p>地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についての理解の増進，そしてDEM・衛星画像の処理・分析方法についての技術の習得を目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1) 地理情報のモデル化 地表の現実ないし地図の内容をコンピュータで扱うためのモデルとして，ベクトルモデルとラスタモデルの2つを取り上げ，それぞれの特質について説明する。（1, 2回）</p> <p>2) 地理情報システム 実際に運用されているGIS（地理情報システム）がどのようなものか，QGISを利用して，ベクトル・ラスタそれぞれの形式について実際に取り込んで実習する。適切な地理情報運用と地図表現には，正しい投影法と座標系の理解が必須なので，経緯度，UTM（ユニバーサル横メルカトル）座標などについて講ずる。地理情報処理で扱われるデータフォーマットについて，Shape, GMS, GeoTIFFなどを取り上げる。（3, 4, 5回）</p> <p>3) 地形データの処理・分析 ラスタモデルに基づく格子DEMを紹介し，QGISなどを利用して計量地形学に基づく分析を実習する。（6, 7回）</p> <p>4) リモートセンシングの原理と応用 衛星画像の利用はリモートセンシングに含まれるが，その原理について，それが電磁波の観測に基づくことなどを説明する。また大気・地表・海洋の観測など，応用分野ごとの特徴について考察する。（8, 9回）</p> <p>5) 衛星による地球観測 地球観測衛星の運用方法について説明する。地球観測衛星の光学センサー，合成開口レーダーについて解説し，さらに近年利用可能になった高解像度衛星の性能について紹介する。さらにデータの入手方法について説明する。（10, 11回）</p> <p>6) 衛星画像の分析と表示 コンピュータを利用した衛星画像の応用は，地表の土地被覆についての処理・分析が中心だが，それらについて紹介する。衛星画像の複数バンドを用いた合成色表示植生分布の指標化，最尤法に基づく土地被覆分類の原理を説明した上で，コンピュータを用いた実習を行う。QGISなどを利用する。（12, 13, 14回）</p> <p>）衛星画像などのデータを展開するため，8GB以上のUSBメモリを持参すること。</p> <p>）フィードバックについて フィードバック期間あるいはそれ以外でも，授業内容に関する質問等があれば，随時受け付ける。以下に記したオフィスアワー以外の面談は，事前にメール等で日時を決めることが望ましいが，気軽に相談してほしい。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート試験による（80％）。これ以外に随時小テストを行う（20％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.hgeo.h.kyoto-u.ac.jp/ogata/>(小方研究室ホームページ)

【授業外学修（予習・復習）等】

GISソフトウェアQGIS，地形データSRTM/AW3D30，LANDSAT衛星画像は，インターネット上で無料で利用できるもので，各自のパソコンにダウンロードすること。必要に応じ，メディアセンターの端末や自宅のパソコンにおいて，授業で扱う内容を実行することができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー：月曜11:00～12:30

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系113

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 小島 泰雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国における都市農村関係									
【授業の概要・目的】											
都市と農村の関係について、中国を対象として考える。 現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成・変容されてきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。											
【到達目標】											
現代中国についての理解を深める。 地理学における都市農村関係の研究法について理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のテーマをめぐって授業を行う。 一つのテーマについて、1 - 2週 of 授業をする予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市人口：停滞と増加の背景 2. 戸籍制度：東アジアの制度と現代中国の運用 3. タンウェイと都市：中国社会主義の都市空間構成 4. 住宅制度改革：都市空間の市場化 5. 土地改革と集団化：農村の変革の空間 6. 非集団化：改革開放政策のさきがけ 7. 郷鎮企業：都市農村二元論における開発モデル 8. 農民工：二元論を乗り越えるたくましさ 9. 都市と農村：地理学的な再考 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に期末のレポートにより評価を行い(9割以上)、授業への参加度を加味する(1割未満)。授業への参加度は授業時のディスカッションによって測る。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の内容について、授業中に紹介した文献や論文を参考としながら、自らの興味関心に応じて発展的な学習を展開する。期末レポートにその成果を反映することになる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論文とフィールドから学ぶ歴史地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、歴史地理学の視角と方法を、論文講読を通じた先行研究の考察と、歴史地域に関わる読図及び史資料の解読、巡検を通じて、受講生が主体的に習得することを目的とする。この授業は、担当者に割り振った発表をベースとして、受講生全員による討論と教員・TAによる解説の形式で行う。受講生は下記の内容のうちのどれかは、必ず担当することになる。</p> <p>の論文講読については、近年（過去10年間）の主要学術雑誌における歴史地理学の論文の中から、発表者が対象論文を選ぶ。発表者は、TAと相談しながら、新旧地形図を併用して論文内容の紹介を行う。加えて関連文献を読んで、客観的に論文を評価するレジюмеを作成する。その他の受講生も、対象論文（1授業につき、2発表なので2本）を読んできて、意見を述べる。</p> <p>の地域調査については、畿内近郊の2地域（大和郡山、丹波篠山など）について、1カ所につき複数名の担当者を決め、グループを構成する。各グループでTAと相談しながら、中近世の各地域の景観復原図の作成とその解説、近現代における対象地の変化に関するレジюмеを作成し、発表する。それをふまえて受講生で討論を行い、意見や疑問を提示して、現地での課題を明確化する。巡検では、各グループで案内や写真撮影、スケジュール管理を担当する。その後の授業では、参加者全員の感想や知見を出し合い、フィードバックを行う。参加者は、担当回でなくても、毎回読図や関連文献の講読などの宿題があり、巡検後には巡検レポートを作成する。</p> <p>このように自分の担当回でなくても、毎回、課題はあり、授業でも感想や意見が求められるため、巡検に参加するだけの安易な気持ちでは、負担を重く感じるだろう。一方で、授業に主体的に参加するならば、歴史地理学の視点の特徴や方法を半期でしっかりと学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
歴史地理学の視角と方法を理解し、論文の批判的講読、文献・絵図・発掘調査等の多様な資料を活用した景観復原と、読図、景観比較、巡検といった地理学的実践ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>順番や対象地は、コロナ感染状況次第では、変更の可能性はある。</p> <p>巡検の日程は、授業中に調整するが、土日・祝日や創立記念日となる。</p> <p>参加者が多い場合は人数制限を行い、希望する巡検全てには行けなくなる。</p> <p>第1回：授業の概要説明 第2～4回：歴史地理学の教科書・論文講読 * 分担・グループ・日程の決定 第5～8回：丹波篠山・八上城の歴史地理：読図・発表討論・巡検・総括 第9～12回：大和郡山（・天理）の歴史地理：読図・発表討論・巡検・総括 第13～14回：歴史地理学の論文講読（1回につき2論文） 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
山村亜希担当の全学共通科目（人文地理学・地域地理学・地域地理学各論 日本・地域地理学各論 欧米・地理学基礎ゼミナール1 読図・ILASセミナー歴史地理学）のいずれかを受講し、歴史地理学(特殊講義)(2)へ続く											

地理学(特殊講義)(2)

学の発想と読図の基本が理解できていること。単位不要で聴講・参加したい人は、個別に相談してください。

【成績評価の方法・観点】

期末レポート30%

平常点（毎週の課題、授業感想の提出、グループワークへの貢献、分担の発表・レジュメ作成、巡検レポートの提出）70%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

分担の発表の準備、課題論文の講読、巡検レポートの作成、毎週の授業感想の提出が、予習・復習となる。特に担当については、授業外にかなりの時間を資料調査やレジュメ作成、現地案内図作成に費やすことになる。

（その他（オフィスアワー等））

巡検の機会は複数提示する。授業の一環なので、受講生は日程を事前に確保し参加してほしい。ただし、人数制限の観点から、人数が多い場合は、前半・後半にコースを分けたり、参加回を振り分ける可能性もある。必ずしも自分が希望する巡検に参加できない場合もある。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、念のため、生協の学生総合共済等の各自が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		防災研究所 准教授 松四 雄騎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湿潤変動帯の自然地理学とその応用としての斜面減災論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、自然地理学の応用としての自然災害（特に斜面災害）の被害軽減（減災）に関する方法論を学び、その実現に向けた基礎データを取得するための野外調査法および室内実験法を実習する。</p> <p>山地や丘陵地が国土の大半を占める日本列島では、豪雨や地震によってしばしば斜面から土砂が流出し、下流域に被害を及ぼす。土砂災害による人的・物的被害は、高度経済成長期以降の砂防・治山事業の拡充による人工構造物の配備により、それ以前と比べて格段に減少してきたが、近年、極端な豪雨の頻度増大により、再び増加しつつある。日本人はそもそも、居住域に隣接する傾斜地（里山）で得られる燃料や湧水といった資源を利用し、その恩恵を受けてきたが、それと同時に斜面の崩壊や地すべり、土石流といった斜面災害の脅威にもさらされてきた。地域に根差した住民が斜面と共生していた時代に培われていた減災のための知恵は、傾斜地での道路敷設や宅地開発といった自然環境の改変行為を可能にした現代的な土木技術の発達と、それによる山際居住区の拡大と新規住民の移入とともに、失われつつある。居住域周辺斜面からの土砂流出による被害を軽減するためには、空間的に飽和し、コスト的にも限界に達しつつあるハード対策だけでなく、住民自力での警戒・避難を促すソフト対策の高度化が不可欠である。そのためには地域の地理環境の成り立ちを深く理解し、それを土台に世代を超えて持続可能な減災方策を備えた地域社会の形成をめざす必要がある。これはまさに自然地理学の応用問題であるといえよう。本授業では、斜面災害の地質・地形的背景（素因）や、降水浸透あるいは地震動といった引き金（誘因）が、なぜ・どのようにして土砂流出を引き起こすのかについて、野外実習と室内実験を通して、自ら地盤構成材料に触れ、その物性を定量的に把握し、データの解析を行うことで体験的に学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>実習形式の授業を通して、温暖湿潤帯における自然地理環境とそこで起こる地球表層プロセスを概観し、山地の斜面をつくる地盤材料の定性的な観察法、およびその水理学・土質力学的性質の定量化法を学び、斜面減災を実現するための自然地理学的方法論について考察できる力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>夏季の集中講義とし、野外および室内での実習形式での授業を行う。</p> <p>授業のスケジュールおよびその中で取り上げるテーマとトピックスは以下の通り。</p> <p>9月7日（火）森林斜面での野外実習（京都近郊丘陵地）</p> <p>9月8日（水）実験室での土質試験（宇治キャンパス）</p> <p>9月9日（木）データ解析およびゼミ（宇治キャンパス）</p> <p>1日目: 野外巡検</p> <p>京都近郊の丘陵地を対象に、地盤の構成物とその性質および陸域水循環に伴う地形変化過程について概説する。また、過去に発生した斜面崩壊跡地を観察し、森林土壌の断面を作成して、土層試料の採集を行う。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

2日目: 室内実験 + データ解析

採集した試料を用いて、宇治キャンパスにおいて水理・力学的な試験を行う。

3日目: 室内実験 + データ解析 + ゼミ

宇治キャンパスにおいて引き続き実験を行うとともに、得られたデータを用いて、雨の浸透や斜面の安定に関する計算を行い、斜面ハザード評価の方法論について討論する。

テーマとトピックス

- (1) 自然地理学における野外観察の基礎と方法
- (2) フィールドサイエンスにおける理論・法則・モデルの役割
- (3) 人間社会を取り巻く自然環境の成り立ち
- (4) 陸域水循環の概要と流域生態系の恒常性
- (5) 森林水文学の基礎と山地流域における降雨流出過程
- (6) 斜面の地形変化と土砂災害の発生メカニズム
- (7) 地理的な防災・減災の方法論
- (8) 自然地理学における実験法とデータ分析法の基礎
- (9) 地盤構成材料の水理・力学特性とその意味
- (10) 地理情報システムと地形計測
- (11) 地図解析および実験・計測における精度と確度
- (12) データの整理と統計処理の基礎
- (13) 流域表層現象のモデル化と計算法
- (14) 製図法とアカデミックライティングの基礎
- (15) 総括とフィードバック

授業を通じて、野外観察の方法、実験による定量データの取得方法、自然現象のモデル化について習得するとともにフィールドノートや実験ノートの記載方法、データの整理方法、製図や記述の方法等のアカデミックライティングについて具体的に指導する。

フィードバックについては、実習終了後に必要に応じて、教員オフィスあるいはEメールにて質問に答えるほか、レポートに講評を記入することも含む。

【履修要件】

学生教育研究災害傷害保険等の傷害保険に加入していること。

【成績評価の方法・観点】

平常点(50%)およびレポート(50%)の評価による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

地理学(特殊講義)(3)へ続く

地理学(特殊講義)(3)

関連する論文等を授業の中で配布・紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

3日間の授業期間中にはデータ解析や討論準備を課題として出すので、ホームワークとしてこなすこと。

（その他（オフィスアワー等））

第一日目は京都近郊の丘陵地でのフィールドワークとなるため、動きやすい靴と服装に手袋や帽子を着用の上、虫よけや雨具、筆記用具・野帳・カメラといった個人装備を揃えて参加すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		明治大学 経営学部 教授 中澤 高志			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		社会・経済思想としての立地論									
【授業の概要・目的】											
<p>立地論といえば、経済地理学の基礎理論というのが通り相場であり、立地論を学ぶ意義は、現実の経済地理の説明に役立つからと考えられてきた。しかし、この講義では、立地論の原典の丹念な読み込みを踏まえ、それとは全く異なる立場から、立地論について考えていく。その結果として、「経済地理学とは何か」という根源的な問いに対する答えに一步でも近づくことを目指す。もちろん、農業立地論、工業立地論、中心地理論、空間的相互作用などに関する基本的な内容についても講義する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・立地論の基本的な知識が得られる ・立地論のテキストを社会・経済思想として読み解くことができるようになる ・社会科学における理論と実証について深く考えられるようになる 											
【授業計画と内容】											
<p>近刊『経済地理学とは何か：批判的立地論入門』に基づいて展開する。</p> <p>第1回 第1章 経済地理学の自分探し 第2回 第1章 経済地理学の自分探し 第3回 第2章 立地論の導入：演繹的に考えるということ 第4回 第3章 チューネンの農業立地論：A = apへの歩み 第5回 第3章 チューネンの農業立地論：A = apへの歩み 第6回 第4章 ウェーバーの工業立地論：ある挫折の記録 第7回 第4章 ウェーバーの工業立地論：ある挫折の記録 第8回 第5章 クリスタラーの中心地理論：逸脱の軌跡 第9回 第5章 クリスタラーの中心地理論：逸脱の軌跡 第10回 第6章 空間的相互作用と人口移動 第11回 第6章 空間的相互作用と人口移動 第12回 第7章 立地論を超えて 第13回 第7章 立地論を超えて 第14回 ポスト資本主義の経済地理学 第15回 ポスト資本主義の経済地理学</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎日の振り返り（15×4＝60％）と最終日のレポート（40％）によって評価する。

[教科書]

中澤高志 『経済地理学とは何か：批判的立地論入門』（旬報社，2021）ISBN:484511674X
参考資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義受講後は，可能な限り立地論の原典にあたり，自分なりの「読み込み」をしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

[実務経験のある教員による授業]

分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

当該授業科目に関連した実務経験の内容

実務経験を活かした実践的な授業の内容

行動・環境文化学系117

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西村 雄一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラオス社会の人々の日常生活と自然環境									
【授業の概要・目的】											
この講義では、熱帯モンスーン地域である東南アジア大陸部、特にラオスを中心とする人々の日常生活、また人間と自然環境の関わりについて考えます。具体的な地域調査の成果やそこで行われた研究方法などの紹介を行いつつ、人々と自然環境の関わりがグローバル化によってどのように変質しているのかについて説明していきます。											
【到達目標】											
東南アジア地域、特にラオスにおける人間生活と自然環境の関係についての理解を深める。また、グローバル化によって変質しつつあるラオスの社会・文化、人々の日常生活や日本との結びつきについても理解する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のスケジュールに従って講義を進めます。ただし講義の進行状況などに対応して、順序や同一テーマの回数を変えることがあります。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション・ラオスの地理情報 2．東南アジアの地形・気候 3．ラオスの地形と集落 4．ラオスの集落と土地利用の変化 5．ラオスの稲作 6．ラオスの水 7．ラオスの淡水漁撈 8．ラオスの藻類利用 9．ラオスの塩の生産と流通 10．ラオスの森林と非木材森林資源 11．ラオスの牛と虫 12．ラオスの市場世界 13．ラオスの都市化と工場・日常生活 14．ラオスのグローバル化と文化・生活 15．講義のまとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業内課題50% (小レポートなど)
期末試験50%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
野中健一編 『ヴィエンチャン平野の暮らし 天水田村の多様な環境利用』(めこん, 2008)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で生じた疑問や意見については、授業中の小課題として記入提出するとともに、それらについて可能な限り授業外に調べておくこと。次回授業時に、それらの点について受講者全員でディスカッションを行います。

(その他(オフィスアワー等))

質問などについてはメールでお知らせください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系118

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 西村 雄一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		時間地理学の過去・現在・未来									
【授業の概要・目的】											
この講義では、地理学の分野で個人の生活行動を取り扱ってきた認知・行動地理学・時間地理学の研究の進展を紹介するとともに、現在日本や外国で起こっている働き方や仕事と家事・育児の両立保育所問題などの社会問題を、生活時間・空間とをいう側面から考察していきます。これまでに行われてきた生活時間・空間に関する研究を題材に、生活時間・空間に関わるさまざまなデータの処理方法についても具体的な事例から説明し、その方法論・調査手法・調査結果など研究のプロセスについても解説を行います。授業内容にかかわる野外見学や調査方法に関する実習的な講義も行っていきます。											
【到達目標】											
この講義では、私たちの生活空間・生活時間についてその基本的なしくみを学ぶとともに、国や地域・個人によって異なる生活空間・生活時間の在り方を、日本を中心とする具体的な事例から学び、理解し、社会で発生している問題を考えていくきっかけを提供することを目標とします。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・イントロダクション 2. メンタルマップの地理学(1) 3. メンタルマップの地理学(2) 4. 生活時間・空間を知るために 5. 生活時間・空間を知るためのデータ取得・処理(1) 6. 生活時間・空間を知るためのデータ取得・処理(2) 7. GPSを用いた生活時間調査(1) 8. GPSを用いた生活時間調査(2) 9. 時間地理学の基本的概念(1) 10. 時間地理学の基本的概念(2) 11. 現代日本の生活時間・空間(1) 育児と仕事の両立とは 12. 現代日本の生活時間・空間(2) 育児と仕事の両立とは 13. 近代的時間・空間の形成(1) 働くとは 14. 近代的時間・空間の形成(2) 働くとは 15. まとめ 											
【履修要件】											
前期開講の地理学(特殊講義)を受講しておくことが望ましい。											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業内課題50% (小レポートなど)
期末試験50%

[教科書]

Kajsa Ellegren ed. 『Time Geography in the Global Context』 (Routledge, 2019) (<https://www.routledge.com/Time-Geography-in-the-Global-Context-An-Anthology/Ellegard/p/book/9780367665524#sup>)

Kajsa Ellegren ed. 『Thinking Time Geography Concepts, Methods and Applications』 (Routledge, 2019) (<https://www.routledge.com/Thinking-Time-Geography-Concepts-Methods-and-Applications/Ellegard/p/book/9780367585860>)

PDFはオープンアクセスなので、URLから自由にダウンロードできます

[参考書等]

(参考書)

荒井良雄・岡本耕平・川口太郎・神谷浩夫 『生活の空間 都市の時間』 (古今書院, 1989)

荒井良雄・神谷浩夫・岡本耕平・川口太郎 『都市の空間と時間 生活活動の時間地理学』 (古今書院, 1996)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で生じた疑問や意見については、授業中の小課題として記入提出するとともに、それらについて可能な限り授業外に調べておくこと。次回授業時に、それらの点について受講者全員でディスカッションを行います。

(その他(オフィスアワー等))

質問などについてはメールでお知らせください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系119

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 藤岡 悠一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		環境地理学の概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、植生や景観という観点から人々と環境との関係性を理解する視点を養うことを目的とする。授業の中では、日本国内や世界各地の植生や景観を紹介し、植生や景観形成に作用する自然環境要因や社会要因などを紹介する。また、フィールド実習を行い、野外での観察を通じて同内容の理解を深める。そして、人為が植生に与える影響を理解し、持続的に植物資源や環境を利用することについて考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>環境地理学の学問的な背景を理解し、植生や景観の形成メカニズムや持続性について考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、時事問題への言及などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境地理学の背景と視座（2回分） 2. 植生のタイプと分布（1回分） 3. 日本における植生と景観形成，社会との関わりの事例（2回分） 4. フィールド実習（5回分） （ 滋賀県高島市を対象に植生や景観を観察し、景観の形成要因を考える ） 5. 海外における植生と景観形成，社会との関わりの事例（3回分） （ アフリカ，シベリア，東南アジアの事例を紹介する。 ） 6. まとめと総括：植生と景観形成，人々の生活や社会との相互作用（2回分） フィードバックの方法については授業中に説明する。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業内の小テスト（50点）、レポート（50点）により評価する。レポートは、授業中の説明の理解度と自身の考察の内容を基準に評価する。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
授業中に資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
水野一晴・藤岡悠一郎編 『朽木谷の自然と社会の変容』(海青社)(授業では本書籍の内容を一部紹介する予定である。)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に予習用の資料をアップロードする予定である。復習方法については、授業中に説明する。

(その他(オフィスアワー等))

フィールド実習を含むため、新型コロナ感染防止の観点から状況によっては実習を行わず、講義に変更する可能性がある。

集中講義のため、授業時間外の質問等は下記のメールアドレスまで連絡されたい。

連絡先：藤岡悠一郎 (E-mail: fujioka@scs.kyushu-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系120

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 神田 孝治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化と空間から問う近代の観光地									
[授業の概要・目的]											
本授業では、近代の観光地がいかにして形成されたのかについて、具体的な事例を取り上げながら論じる。その際に、人文社会科学において1980年代後半以降注目されてきた、文化論的視座と空間論的視座から検討を行う。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学における文化や空間に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて近代の観光地を論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 / 観光研究の概要 2～5. 文化と空間に注目した観光研究の視座 6～8. 近代リゾートの形成 9～11. 地方都市の観光都市化 12～15. 国立公園の風景地選定 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業内の小レポート（15点）および期末レポート（85点）で評価する。											
[教科書]											
神田孝治 『観光空間の生産と地理的想像力』（ナカニシヤ出版、2012）ISBN:97978-4779506659（本書の一部を授業内で資料として用います。期末レポート執筆にも参考になりますので、各自購入しておいてください。）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業後に教科書を読んで復習する。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系121

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 神田 孝治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		移動から問う現代観光の姿									
[授業の概要・目的]											
本授業では、現代における観光の様相について、具体的な事例を取り上げながら論じる。その際に、人文社会科学において2000年頃から注目されてきた、移動に焦点をあてた視座から検討を行う。											
[到達目標]											
1. 人文社会科学における移動に注目した学術的視座を理解できる。 2. 上記の1を用いて現代の観光を論理的に考察できる。											
[授業計画と内容]											
1. 授業の概要と導入 / 観光研究の概要 2~3. 現代のツーリズム・モビリティーズへの問い 4~9. キーポイントから問う現代のツーリズム・モビリティーズ 10~15. 現代のツーリズム・モビリティーズの諸相 授業の進度に応じて、授業内容と開講回のバランスを調整することがある。											
[履修要件]											
前期に神田が担当する地理学(特殊講義)を受講しておくことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
授業内の小レポート(15点)および期末レポート(85点)で評価する。											
[教科書]											
神田孝治・遠藤英樹・高岡文章・鈴木涼太郎・松本健太郎 編 『現代のツーリズム・モビリティーズ 動きゆく観光と観光学』(ナカニシヤ出版、2021年9月発行予定)(授業では原則として教科書を利用しますので、各自購入しておいてください。なお、発行予定日が授業開始に近いこと、ご注意ください。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業後に教科書を読んで復習する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系122

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		自然生態論									
【授業の概要・目的】											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。 ・植生や植物（農作物、雑草、野生有用植物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。 ・文献により重要な概念を学ぶとともに、映像資料や標本をつうじてモノを覚え、フィールドでの観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目について、それぞれ1 - 2回ずつ講義や文献輪読を行う。各項目の順序は固定したものではなく、履修者の研究テーマや理解の状況に応じて、適宜調整する。</p> <p>(1) 植物から地域をみる【6 - 7週】 植物の多様性、栽培植物と農耕の起源、大航海時代とプラントハンター、植物民俗、健康を支える植物、外来植物をどう認識するか</p> <p>(2) 農業から地域をみる【5 - 6週】 水田稲作、焼畑耕作、森林と林業、里山の変遷、商品作物とグローバル市場</p> <p>(3) 研究紹介と討論【2 - 4週】 地域の自然環境と農業に関する最近の研究事例を紹介し、関連する先行研究をふまえて討論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。 平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房)
ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

(その他(オフィスアワー等))

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系123

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アフリカの自然と文化、社会に関する地理学									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、地理学と強く関連するテーマである人間と自然との関係、人類の日常生活や生活世界、環境や資源の認識と利用、自然への働きかけ、労働と報酬の分配という生態人類学の主要トピックを取り上げる。とくに人類の生産と消費、社会の変容、人間と環境との関係、環境や資源の利用にフォーカスをあて、受講生のみなさんがテーマにそった日本語 / 英語の文献を読んで、内容を紹介するという演習形式で授業を進める。授業担当者よりその内容に関する追加の解説と話題提供をおこない、受講生と議論する予定にしている。</p>											
【到達目標】											
<p>地理学と生態人類学、その周辺分野に関連する文献の読解を通じて知識の習得、人類と資源、環境との関わり、社会の仕組みに関する基本的な見方、社会を分析する見方を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 生態人類学の射程 3～4. 核としての周辺 5～6. 自然社会の暮らし 7～8. 貨幣経済の流入と社会変容 9～10. アフリカにおける呪い 11～12. 富の分配と経済格差、平等性 13～14. 物質循環と環境問題 15. まとめ <p>(受講者の選ぶトピックの内容におうじて、内容の順序は変更する予定。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>発表・レポート(60点)、討論への参加(40点)。 出席や発表、議論への参加などで判断する。発表回数は各人1～2回を予定していますが、受講生が少ない場合には3回以上まわってくることもある。毎回の授業で1度は発言をしていただきます。</p>											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

1、2回目の授業ときに文献リストを提示し、文献紹介の担当と順番を決める。参考書については吉田南と本館の図書館、東南アジア研究所とアフリカ地域研究資料センターの図書室に所蔵されているものを使用します。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前にテキストを読んで関連文献にあたったり、用語の下調べをすること。用語を記憶しようとするよりも、社会の事象や動きを把握し、そのメカニズムを解明しようとするプロセスを表現しようとする研究に従事する楽しさ、学問のおもしろさが分かるようになると良いです。

(その他(オフィスアワー等))

川端通り沿いの稲盛記念館3階314室に研究室があります。空ぶりをしないよう、事前にメールすること。授業後にお話をするのも歓迎です。

oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系124

科目ナンバリング		U-LET31 37431 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(特殊講義) Geography (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Humboldt, Ritter and Richthofen in the history of geography									
【授業の概要・目的】											
<p>This lecture introduces the history of geography from the late 18th century to the beginning of 20th century, when geography was founded as a scientific discipline. The following three German geographers are explained: Alexander von Humboldt, Carl Ritter, and Ferdimand Freiherr von Richthofen. Humboldt and Ritter are considered the founders of modern geography, and Richthofen succeeded them. By explaining how their scientific methodology, regional study, and interests in Asia, which are common elements among the three geographers, the close relationship of geographical researches with the political and social conditions in Europe is expected to be more deeply understood.</p> <p>This lecture aims to enhance students' understanding the modern history of geography through reading various materials such as journey diaries, field notes, maps, collected materials, and so on.</p>											
【到達目標】											
<p>At the end of the course, participants are expected to learn following three points: (1) reading comprehension of materials. (2) assessment of research achievements based on the background of the times. (3) understanding the ancestors' creativity that is still suggesting research frontier even today.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The lecture plan is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Introduction: Scientific activity centers in Europe from the 16th to 19th centuries (1 week) (2) Three geographers in the 19th-century Berlin: Humboldt, Ritter, and Richthofen (1 week) (3) Two expedition by Humboldt: South America and Russia (5 weeks) (4) Humboldt and Ritter: their relation to Humboldt University of Berlin (2 weeks) (5) Richthofen's scientific concern to China and Japan (4 weeks) (6) Asian study and its significance during the 19th century (1 week) (7) Foundation of modern geography (1 week) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
The final grade will be evaluated according to the following process: usual performance (40 %) and reports (60%).											
----- 地理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

地理学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

When extra learning outside the class is necessary, it will be announced in the class.

(その他(オフィスアワー等))

From noon to 13:00 pm on Wednesdays and Fridays

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET31 37441 SJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(演習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『信長公記』の地理を読む・歩く									
[授業の概要・目的]											
<p>歴史地理学は過去を対象とする地理学である。その方法の一つに、歴史資料（文献史料・地図資料・考古資料・伝承等）を地図化するというものがある。歴史資料を地理情報に変換して地図化することは、資料の解釈や評価の可能性を大きく広げること役立つ。さらに、歴史資料を地図の中に位置づけると、資料に描かれた地域が、単なる舞台としての役割以上を持っていたことに気づくだろう。歴史地理学では、地域環境や景観を叙述した歴史資料（テキスト）を歴史的文脈の中で正確に読み（講読）、その中の地理情報を地図化する（復原図の作成）。また、その後の地域構造の展開を把握した上で（新旧地形図の読図）、現地を詳細に歩き、景観を観察して（巡検）、歴史資料と現在の地域構造の関連を考える。本演習は、これらの視点と方法を身につけることを目的とする。</p> <p>講読対象とするテキストは、織田信長の同時代の伝記である『信長公記』である。『信長公記』には、信長の出身地である尾張はもちろん、信長の転戦した畿内、越前、美濃、近江、播磨等についての戦国末期の景観が描出されている。このテキストに叙述された情報を、地図に照らして「見える」化すれば、織田信長の軍事行動、戦略、家臣団の構造、戦国末期の合戦の展開、村落や都市と戦国大名との関連、城下町建設・経営の具体像、戦国末期の自然環境などについて、新たな発見ができる。『信長公記』は比較的読みやすく、現代語訳本もあり、講読の参考になる。</p> <p>受講生はテキストを分担して、TAと相談しながら、講読、復原図の作成、読図を行い、その成果をレジュメとしてまとめて発表する。それについて全員で討論を行う。また、『信長公記』に登場する近辺の城郭等について巡検を行う予定であり、地形図編集を含めたレジュメ作成と発表も受講生が担当する。よって、受講生は講読か巡検のいずれかは必ず担当することになる。担当しなくても、毎回の授業では意見や感想を求める。巡検に参加するだけの安易な気持ちで受講すると、負担を重く感じるだろう。</p>											
[到達目標]											
<p>歴史地理学の視角を理解し、文献講読、景観復原図の作成、地形図の読図、巡検といった、基本的な方法を実践できるようになる。また、これらの実践を通じて、地理学的想像力・発想力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>予定は変更する可能性もある。 巡検は日曜・祝日に実施し、日程は授業中に提示する。 いずれか1回は参加し、巡検レポートを提出すること。</p> <p>第1回 概要説明、授業方法や課題について 第2回 『信長公記』の講読例（TAの発表 討論・読図） 第3回 『信長公記』における歴史空間（池田城・城下町）の巡検準備例（TAの発表 討論・読図） 、分担・発表順の相談と決定 第4回 摂津池田の巡検</p>											
----- 地理学(演習) (2)へ続く -----											

地理学(演習) (2)

- 第5回 池田巡検の総括、討論・フィードバック
第6～12回 『信長公記』の講読発表・討論
第13回 播磨三木城・城下町について発表・討論・読図
第14回 播磨三木の巡検
第15回 総括・フィードバック

【履修要件】

山村亜希担当の全学共通科目（人文地理学・地域地理学・地域地理学各論 日本・地域地理学各論 欧米・地理学基礎ゼミナール1 読図・ILASセミナー歴史地理学）や専門科目（地理学特殊講義）のいずれかを受講し、歴史地理学の発想と読図の基本が理解できていること。単位不要で聴講・参加したい人は個別に相談してください。

【成績評価の方法・観点】

期末レポート30%
平常点（毎週の授業感想の提出、担当回の発表・レジュメ作成、巡検レポートの提出）70%

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の発表・討論等から得られたこと、感想を毎回提出することが、予習・復習となる。必ず1回は、巡検レジュメの作成・発表か『信長公記』の講読レジュメ作成・発表があたる。巡検レジュメの作成者は、実際の巡検の時に案内も行う。

（その他（オフィスアワー等））

巡検の機会は複数提示する。授業の一環なので、受講生は日程を事前に確保し参加してほしい。ただし、人数制限の観点から、人数が多い場合は、前半・後半にコースを分けたり、参加回を振り分けざるを得ず、必ずしも希望する巡検に参加できない可能性もある。巡検に係る交通費・入館料等は自己負担である。現地では、交通安全に十分気をつけることはもちろんだが、念のため、生協の学生総合共済等の各自が加入している保険の情報を確認しておくこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系126

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IA) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子 文学研究科 教授 水野 一晴 文学研究科 教授 米家 泰作			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		地理学研究法 1 A									
【授業の概要・目的】											
<p>地理学の様々な領域に関する基礎的研究方法や諸概念、最新の研究課題などについて理解を深めながら、受講生が自らの研究関心を明確にし、卒業研究へと結びつけてゆくことを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>到達目標は次の3点である：(1)地理学の研究動向を把握し、先行研究の内容を的確に理解し、批判的に読み込むことができること、(2)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域を絞ること、(3)オリジナリティを追求できる力量や論文執筆に当たり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量を身に付けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>地理学専修における基礎的研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は、最初に人文地理学会編『地理学文献目録』の利用をはじめとする文献検索の方法を習得する。年度初めに決めた発表スケジュールにしたがい、受講生は、以下の要領で発表を行う。各自の関心にしたがって関連する文献を探し、問題意識を持って読み、不明箇所を調べ、内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。発表後は、受講生全員で当該の発表内容に関する討議を行う。年間の演習スケジュールを調整し、全員参加で相互に議論を交わす場のほか、担当教員が各自の専門領域の紹介や個別指導を行う場とを設け、受講生に多様な分野での問題意識や研究方法、最新の議論に目を向ける機会を提供する。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 第2～14回 受講生による文献紹介と討議 第15回 2～14回までの演習のまとめとフィードバック、夏休み課題の説明</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>演習への参加と発表に基づく平常点(80%)、課題提出(20%)を総合的に勘案して評価する。演習に出席して議論に参加することが大切であるので、欠席が多い場合には不合格とすることがある。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 地理学(演習IA)(2)へ続く -----											

地理学(演習IA)(2)

[参考書等]

(参考書)

必要があれば、授業中に指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

演習発表のためのレジユメを用意すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、演習の授業の前後(昼休み、休憩時間)を中心に、担当教員全員が随時、対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系127

科目ナンバリング												
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IB) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	教授	杉浦 和子	文学研究科 教授	水野 一晴
文学研究科 教授	文学研究科 教授	文学研究科 教授	米家 泰作	配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	
授業形態	演習	使用言語	日本語	題目	地理学研究法 1 B							
【授業の概要・目的】												
<p>地理学の様々な領域に関する基礎的研究方法や諸概念、最新の研究課題などについて理解を深めながら、受講生が自らの研究関心を明確にし、卒業研究へと結びつけてゆくことを目指す。</p>												
【到達目標】												
<p>到達目標は次の3点である：(1)地理学の研究動向を把握し、先行研究の内容を的確に理解し、批判的に読み込むことができること、(2)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域を絞ること、(3)オリジナリティを追求できる力量や論文執筆に当たり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量を身に付けること。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>地理学専修における基礎的研究方法を学ぶことを目的とする。受講生は、最初に人文地理学会編『地理学文献目録』の利用をはじめとする文献検索の方法を習得する。年度初めに決めた発表スケジュールにしたがい、受講生は、以下の要領で発表を行う。各自の関心にしたがって関連する文献を探し、問題意識を持って読み、不明箇所を調べ、内容をまとめてレジュメを作成し、発表する。発表後は、受講生全員で当該の発表内容に関する討議を行う。年間の演習スケジュールを調整し、全員参加で相互に議論を交わす場のほか、担当教員が各自の専門領域の紹介や個別指導を行う場とを設け、受講生に多様な分野での問題意識や研究方法、最新の議論に目を向ける機会を提供する。</p> <p>第1回 受講生による夏の課題の成果発表と討議 第2～14回 受講生による文献紹介と討議 第15回 フィードバックと卒業研究準備</p>												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
<p>演習への参加と発表に基づく平常点(80%)、課題提出(20%)を総合的に勘案して評価する。演習に出席して議論に参加することが大切であるので、欠席が多い場合には不合格とすることがある。</p>												
【教科書】												
使用しない												
----- 地理学(演習IB)(2)へ続く -----												

地理学(演習IB)(2)

[参考書等]

(参考書)

必要があれば、授業中に指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

演習発表のためのレジユメを用意すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、演習の授業の前後(昼休み、休憩時間)を中心に、担当教員全員が随時、対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系128

科目ナンバリング												
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IIA) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	教授	杉浦 和子	文学研究科 教授	水野 一晴
文学研究科 教授		米家 泰作		文学研究科 教授		米家 泰作						
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		4回生演習2A										
【授業の概要・目的】												
受講生それぞれが遂行する卒業研究のプロセス(テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆という一連の過程)に沿って報告を行い、互いに議論を重ねながら研究を深め、卒業論文の完成を目指す。												
【到達目標】												
到達目標は次の3点である：(1)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域、手法を決定すること、(2)当該テーマの研究動向を把握し、取り組むべき課題や問題を理解できること、(3)オリジナリティをもった調査研究と分析を実行し、卒業論文を完成させること。												
【授業計画と内容】												
4月から夏休み前までに、受講生は、各自の関心にしたがってテーマを設定し、関連する既往文献を読み、調査・分析方法の検討をしたり、適切な調査地や史資料を吟味する。その後、現地調査や史資料収集を実施する。受講生は、何回かの発表で研究の進捗状況を報告し、批判や助言を得る。受講生には、討議で出されたコメントを十分活かして、卒論作成にあたることが求められる。												
第1回 インTRODクシヨン												
第2～14回 受講生による文献紹介と討議												
第15回 卒業研究に向けて調査や分析等の計画発表(全員)												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する。欠席が多い場合には、不合格とすることもある。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書)												
必要があれば授業中に指示する。												
【授業外学修(予習・復習)等】												
演習発表のためのレジュメを用意すること。												
(その他(オフィスアワー等))												
授業の前後の昼休み、休憩時間等を中心に、担当教員全員が随時、対応する。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

行動・環境文化学系129

科目ナンバリング													
授業科目名 <英訳>		地理学(演習IIB) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授	杉浦 和子	文学研究科 教授	水野 一晴	文学研究科 教授	米家 泰作
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		4回生演習2B											
【授業の概要・目的】													
受講生それぞれが遂行する卒業研究のプロセス(テーマ設定、既往研究のレビュー、史資料収集、調査・分析、考察と意義付け、執筆という一連の過程)に沿って報告を行い、互いに議論を重ねながら研究を深め、卒業論文の完成を目指す。													
【到達目標】													
到達目標は次の3点である：(1)参加学生各自の関心にそったテーマでの研究課題を明確にし、卒業研究のテーマや対象地域、手法を決定すること、(2)当該テーマの研究動向を把握し、取り組むべき課題や問題を理解できること、(3)オリジナリティをもった調査研究と分析を実行し、卒業論文を完成させること。													
【授業計画と内容】													
後期には、受講生は各教員に分かれて演習を行う。研究の分析を行い、結果を図表にまとめ、論文の章節構成を練り、執筆する。受講生は、卒業論文の完成に至る階階ごとに、数回の発表で研究の進捗状況を報告し、批判や助言を得る。3回程度は合同演習とし、全員が進捗状況を簡単に報告し、議論を深める。受講生には、討議で出されたコメントを十分活かして、卒論作成にあたることが求められる。各教員が個別に調査や分析を指導する時間も設ける。 第1回 受講生による卒業研究の中間報告と卒論題目の確認(全員：合同演習) 第2～14回 受講生による卒業研究の中間報告と討議(11回の分割演習と2回の合同演習) 第15回 全体のまとめとフィードバック													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点】													
演習への参加と発表に基づく平常点で評価する。欠席が多い場合には、不合格とすることもある。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
(参考書) 必要があれば授業中に指示する。													
【授業外学修(予習・復習)等】													
演習発表のためのレジュメを用意すること。													
(その他(オフィスアワー等))													
授業の前後の昼休み、休憩時間等を中心に、担当教員全員が随時、対応する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

行動・環境文化学系130

科目ナンバリング		U-LET31 37451 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Reading German Materials on Geography									
[授業の概要・目的]											
This course focuses on developing students' reading comprehension of German materials on human geography. The text used in the class are chapters in book chapters and various documents such as newspapers, maps, and manuscripts. The aim of this course is to help students learn to use German materials for their own research.											
[到達目標]											
During the course, participants are expected to learn (1) to read and understand German texts; (2) skills for using research materials written in German, including books, statistics, newspaper, maps, and manuscripts.											
[授業計画と内容]											
Week 1: Introduction of text and the author Richthofen: Richthofen, F. F. von. 1907. Ferdinand von Richthofen 's Tagebücher aus China. Band 1. Mit 14 Lichtdrucktafeln, davon 13 nach Originalzeichnungen Richtofen's. Berlin: Dirtrich Reimer (Ernst Vohsen). Californien -- China. (S.1-11) Schanghai -- Tientsin -- Peking. (S. 12 - 25) Abschluss der ersten Reisen in China. Peking, Schanghai. (S. 573 - 588) Week 2 - 29: Reading the texts, translating the contents into Japanese, and discussing the related documents and topics. Week 30: Summary and feedback											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
The final grade will be evaluated according to performance (50 %) and the quality of translation (50%).											
[教科書]											
Texts will be distributed in class.											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Participants are required to fully prepare in advance for each seminar.											
(その他(オフィスアワー等))											
From noon to 13:00 pm on Wednesdays and Fridays "Office hours" are registered on KULASIS. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系131

科目ナンバリング		U-LET31 37454 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Reading English Materials on Geography I									
[授業の概要・目的]											
The course focuses on developing students' reading comprehension of English materials on human geography. The text used in the class are book chapters. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the content and logic of articles, the fundamental concepts of geography, and the latest research trends in human geography.											
[到達目標]											
During the course, participants are expected to enhance (1) their reading comprehension of English academic papers on geography, and (2) their understanding of basic terms and concepts of human geography.											
[授業計画と内容]											
Week 1: Introduction of text: Parag Khanna 2016. Connectography: mapping the future of global civilization, Random House. Contents, Prologue, A Note About Maps (ix - xxv) Maps 1 - 38 Chapter 2: New Maps for a New World (35 - 60) Week 2 - 14: Reading the text, translating the contents into Japanese, and discussing the related topics. Week 15: Summary and feedback											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
The final grade will be evaluated according to performance (50 %) and the quality of translation (50%).											
[教科書]											
Texts will be distributed in class.											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Participants are required to fully prepare in advance for each seminar.											
(その他(オフィスアワー等))											
From noon to 13:00 pm on Wednesdays and Fridays "Office hours" are registered on KULASIS. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系132

科目ナンバリング		U-LET31 37454 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉浦 和子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Reading English Materials on Geography II									
【授業の概要・目的】											
This course focuses on developing students' reading comprehension of English materials on human geography. The text used in the class is an article published in a major geographic journal. The aim of this lecture is to help students acquire an understanding of the content and logic of articles, the fundamental concepts of geography, and the latest research trends in human geography.											
【到達目標】											
During the course, participants are expected to enhance (1) their reading comprehension of English academic papers on geography, and (2) their understanding of basic terms and concepts of human geography.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction of six articles published on Volume 110 of Annals of the Association of American Geographers, 2020:</p> <p>(1) Samuel J. Spiegel. Visual Storytelling and Socioenvironmental Change: Images, Photographic Encounters, and Knowledge Construction in Resource Frontiers. A. A. A. G., 110(1), pp. 120-144.</p> <p>(2) Russell C. Hedberg II. Coming Out of the Foodshed: Phosphorus Cycles and the Many Scales of Local Food. A. A. A. G., 110(3), pp. 684-704.</p> <p>(3) Angela M. Babb. America's "Thrifty Food Plan": Hunger, Mathematics, and the Valuation of Nutrition. A. A. A. G., 110(4), pp.983-1004.</p> <p>(4) Shino Shiode and Narushige Shiode. Crime Geosurveillance in Microscale Urban Environments: NetSurveillance. A. A. A. G., 110(5), pp. 1386-1406.</p> <p>(5) Jens Kandt, Justin van Dijk & Paul A. Longley. Family Name Origins and Intergenerational Demographic Change in Great Britain. A. A. A. G., 110(6), pp. 1726-1742.</p> <p>(6) Ben Derudder and Peter J. Taylor. Three Globalizations Shaping the Twenty-first Century: Understanding the New World Geography through Its Cities. A. A. A. G., 110(6), pp. 1831-1854.</p> <p>Through discussions about the above articles by attendants, three articles are chosen as candidates for the text to be taken up in class.</p> <p>Week 2: For the three articles, Japanese translation of their abstracts should be presented by the attendants. Then, through discussions about them, one article is decided to be taken up in class.</p> <p>Week 3 - 14: Reading the text, translating the contents into Japanese, and discussing the related topics.</p> <p>Week 15: Summary and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 地理学(講読)(2)へ続く -----											

地理学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

The final grade will be evaluated according to usual performance (50 %) and the quality of translation (50%).

[教科書]

Texts will be distributed in class.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Participants are required to fully prepare in advance for each seminar.

(その他(オフィスアワー等))

From noon to 13:00 pm on Wednesdays and Fridays
"Office hours" are registered on KULASIS.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系133

科目ナンバリング		U-LET31 37456 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の前半（第1・2章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 地理学(講読)(2)へ続く -----											

地理学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系134

科目ナンバリング		U-LET31 37456 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		仏書講読									
【授業の概要・目的】											
フランス語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、フランス語の読解力の向上を図るとともに、歴史研究にかかわる理論、概念、研究方法についての理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学の研究で用いられるフランス語の語彙や語法を習得する。 ・歴史学を含む人文社会科学の分野のかかわる理論、概念、研究方法について、フランス語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。 											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本の後半（第3・4章）を講読する。											
Philippe Poirrier, Introduction à l'historiographie, Belin: Paris, 2009.											
本書は、歴史研究にかかわる基本的な諸問題について、フランスの歴史学の視点から解説した入門書である。											
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。フランス語の歴史叙述で用いられる語彙や文体に親しむとともに、歴史研究や隣接する人文・社会科学の領域にかかわる諸問題についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
フランス語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
----- 地理学(講読)(2)へ続く -----											

地理学(講読)(2)

[教科書]

授業でテキストを配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・ 授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにフランス語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

(その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

行動・環境文化学系135

科目ナンバリング		U-LET31 37457 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 都留 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
中国近代社会史研究で知られる王笛の論説を読む。インタビュー、エッセイ、短編の学術論文へと、徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な中国文化と社会の実態を掘削し理解してゆくための手掛かりを提供したい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・現代中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・社会史の方法論の基礎を身につける。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション 第2-15回 講読											
[履修要件]											
独学でもかまわないので、初級中国語の知識を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する）											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系136

科目ナンバリング		U-LET31 37457 LJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(講読) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 都留 俊太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国語講読									
[授業の概要・目的]											
<p>台湾で新世代のジェンダー史研究を代表する人物として知られる梁秋虹の文章を読む。彼女は、日本統治期台湾の性産業、性病、ヤクザ等について興味深い研究を数多く著す一方で、M・フーコーの権力論の応用を試みており注目される。また、映画評論や現代の社会運動にかんするエッセイなど、幅広いテーマを手掛けている。</p> <p>簡単なものから徐々に難解なものへ移行しながら翻訳の技術を磨く。同時に多様で複雑な台湾社会を理解してゆくための手掛かりを提供したい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語で書かれた研究論文を読む基礎読解力を身につける。 ・ 台湾近現代史およびジェンダー論の基礎用語、概念を学ぶ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2-14回 講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)</p>											
[履修要件]											
自習でも構わないので中国語初級を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。受講者は毎回一度は現代中国語で読み上げ、日本語訳せねばならない。毎回、発音・翻訳上の工夫等を採点、第1回目から15回目までの進歩の度合いも考慮する。											
[教科書]											
授業中に次回分のテキスト、関連資料を配布する。状況によっては、インターネット上にも掲示する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で取り上げる箇所を日本語訳し、現代中国語で音読できるようにしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
前期と後期で取り上げる文章は異なるので、後期のみの受講も認める。ただし、中国語に苦手意識があるようであれば、まず前期に受講することを推奨する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

行動・環境文化学系137

科目ナンバリング		U-LET31 27460 PJ39									
授業科目名 <英訳>		地理学(実習) Geography (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		水野 一晴 米家 泰作	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
題目		地理学実習									
【授業の概要・目的】											
本実習の目的は、地理学の基礎的な技能を習得するとともに、現地調査（フィールドワーク）と報告書作成を体験し、地理学の調査の基礎的なスキルを身につけることである。											
【到達目標】											
地理学の調査や分析を行うための基礎的なスキルを習得し、卒業論文の作成などに活用できるようになること。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション（1回） 2．地形図の読図・空中写真の判読（2回） 3．地形測量・植生調査（吉田山）とその分析（2回） 4．植生に関する現地調査（大文字山）（1回） 4．自然・社会・生業・文化の現地調査のやり方（5回） 5．実習旅行の事前調査（5回） 6．GIS（地理情報システム）の基礎（4回） 7．GISを用いた主要統計の地図化（4回） 8．GISを用いた統計分析（3回） 9．実習旅行（ ） 10．実習旅行の調査報告（3回） <p>フィードバックについては授業中に指示する。 10月に実習旅行（3泊4日）として、地方の自治体でフィールドワークを行う。調査前には調査テーマと調査計画に関する「事前レポート」をまとめる。また調査後には『実習旅行報告書』を編纂する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（60%）ならびに、課題に対する提出物（40%）を総合的に勘案して評価する。											
----- 地理学(実習)(2)へ続く -----											

地理学(実習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

野間晴雄ほか編 『ジオ・パルNEO:地理学・地域調査便利帖』(海青社) ISBN:978-4860993153

梶田真ほか編 『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく、ナカニシヤ出版』(ナカニシヤ出版)
ISBN:978-4779501326

島崎彦人ほか編 『GISを使った主題図作成講座-地域情報をまとめる・伝える』(古今書院) ISBN:
978-4772241878

Esriジャパン編 『ArcGIS for Desktop 逆引きガイド』(Esriジャパン) ISBN:978-4902294880

(関連URL)

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-fieldtrip/>(実習旅行(地理学専修ホームページ))

[授業外学修(予習・復習)等]

小レポートや作図、報告書執筆などの課題が多く課されるので、授業時間外も積極的に取り組んで欲しい。

(その他(オフィスアワー等))

(1) 本実習は、地理学専修での卒業に必須の科目である。受講希望生が多数の場合は、機器(PCなど)の設置台数に限りがあるため、地理学専攻学生および地理学専攻希望の学生の履修を優先する。

(2) 地理学専修の専攻を希望する学生は、2回生または3回生のうちに本実習を履修することが望ましい。

(3) 実習旅行の費用は、受講生の負担となる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。